

広島創生イノベーションスクール  
グローバルスクール in ハワイ 報告書

広島県短期留学プログラム セブ留学報告書



ハワイ：平成28年7月28日～8月4日

セブ：平成28年8月6日～8月20日

# 目 次

## I グローバルスクール in ハワイ 報告書

### エリアA

広島県立広島観音高等学校	2 ~ 5
広島市立広島工業高等学校	6 ~ 11
広島大学附属高等学校	12 ~ 13

### エリアB

広島県立広島国泰寺高等学校	14 ~ 21
広島県立三次高等学校	22 ~ 27
広島県立安古市高等学校	28 ~ 34
広島県立吉田高等学校	35 ~ 37

### エリアC

広島県立呉三津田高等学校	38 ~ 46
広島県立西条農業高等学校	47 ~ 51
広島県立広島高等学校	52 ~ 54

### エリアD

尾道学園尾道高等学校	55 ~ 56
広島県立尾道北高等学校	57 ~ 64
広島県立福山明王台高等学校	65 ~ 71

## II セブ留学報告書

.....	72 ~ 76
-------	---------

# グローバルスクールでの学び

広島観音高等学校 2年  
竹中 恭音

私は、今回のハワイでのグローバルスクールに参加するにあたり、たくさんの不安があった。小さい頃から勉強してきた英語を生かして、きちんと自分の気持ちを伝え、相手の気持ちや意見を理解することができるか。まず、ワークショップの内容を聞き取る事ができるのか。海外の生徒と協力し、与えられた問題を解決することができるのか。このような沢山の不安を抱え、ハワイへ行ったが海外の生徒と話したり、意見交換をしたりして関わっていく中で、そのような不安も消え、様々な事を学び、知識をつけ、問題解決をすることができた。



その中で、「広島創生イノベーションスクールで身に付けたい8つの資質・能力」として、自分自身が伸びた資質・能力は、「世の中の問題について理解し、取り組むべき課題を設定する力」と「多様な価値観があることを理解し、よりよい人間関係を構築する力」だ。この2つは、私にとって今回のグローバルスクールが無ければ伸びなかったであろう資質・能力だ。こうして、様々な国の生徒と関わる事により、より多くの国の問題や、その問題をどのようにして解決していこうとしているのか、という意見を多く知る事ができた。国によって問題は様々なのだという事も改めて知る事ができた。また、1つの問題を様々な国の生徒で解決していく場面でも、「私の国ではこうだ」という意見が多く見られた。インターネットで調べても出てこないような事を耳にすることができ、非常に興味を持つことができた。Mandalaを作っていく時、海外の生徒が率先してまず、こういう決め方はどうかと提案し、グループのメンバーをリードしてくれ、そのおかげもあり、全員の意見の入った素敵なMandalaを仕上げる事ができたのだ。私も同じように率先して物事を進められるようになりたい。そして、Mandalaを作ることは今後課題を解決していく上でとても使えるものだと考えた。また、多様な価値観という所で、日本人は遠慮してしまうことが多いが、海外の人々は積極性が強く驚いてしまうことも多々あったが、すぐに受け入れてワークショップに臨む事ができた。

自分たちが設定している課題において、影響を与えた内容として私が最も興味を持ったのは、Brooklyn Friends Schoolの生徒によるプレゼンテーションだ。私たちの課題において、直接的に関係性は持たないが、「つながり」を持って問題解決をすると言っていた事が、私達が最初のエリアスクールから常に口にしてきた「つながり」と重なり、共通点としてとらえることができた。また、若者としてコミュニティに積極的、発展的に関わっていく事が大切だと言う事も教わった。それと同時に、若者の力はとても大事なのだという事も知ることができた。「つながり」という言葉は、これから対象の町でイベントのお手伝いをさせて頂く時や、自分たちでイベントを起こしていく時にとっても大切な事だと改めて考えさせられた。そのコミュニティの方々と良い関係が築けるようにし、イベントの案や自分の意見をしっかりと出さなければいけない場面が多く出てくるので、積極性を持って、様々な意見に臨機応変に対応していけるようにしていきたい。

今回のグローバルスクールでは、今後のエリアスクールの内容を深める事ができたのはもちろん、自分自身ができることのスキルを高め、自分がどんなことができるのか、またどんなことができないのかという事を知る事ができた。今回参加し、沢山の人や物事など、素晴らしいものに出会った事に感慨無量である。同室の生徒とも仲良くなり、様々な事を話し体験し、とても充実したハワイ研修生活を送ることができた。これからは、エリアスクールのイベントも、来年の夏にあるグローバルスクールも本番に向けて頑張っていきたい。

# 常に学べたグローバルスクール

広島観音高等学校 2年  
橋本 華帆

今回のグローバルスクールを通して「広島創生イノベーションスクールで身に付けたい8つの資質・能力」のうち、特に伸びたと思う資質・能力はコラボレーションです。目標を共有し、その達成に向けて他者と協働する力。それぞれのワークショップで、他者—性別・年齢・国・考え方・価値観が違う人達—と共有された目標に向かって意見を交わすことができたと思います。自分の意見を発信することが苦手、英語が苦手、そんな私にとって今回のプログラムは大変でした。でも、だからこそ得ることができたことが多くありました。例えばコラボレーションするやり方は一つではないということです。意見を発言する、というのは必要だが、それは口頭でも、文にしても、絵に描いてみても、形にしてみてもいい。人に伝える方法はたくさんあるということです。そのことを理解することで、積極的にチームとしての役割を果たすことができました。また、コラボレーションの楽しさを改めて実感することもできました。今回のワークショップでは形として残る結果がたくさんあったからです。おかげでこれからの活動において、以前よりもさらにコラボレーションに対して積極的になろうと思うことができました。

私たちエリアAで設定している課題は「地域と人のつながりを深める」ということです。そうすることで広島愛が生まれ、広島に住み続けたいと思う人が増えるのではないかと考えています。私はこの課題を解決するために「つながりを1から作る」とことと「つながりを深めていく」という2つのことが必要になってくると思います。そうした時にグローバルスクールで体験した内容の中で面白かったのが、フィールドトリップした時のことです。私はハワイの景色がとてもきれいで感動しました。そしてその景色が人の手によって守られているということに驚きました。各所で説明を聞いていくうちに、私たちのエリア活動としての目的とは違うけれど、私たちもやってみたら面白そうだと思います。また私たちの課題を解決するためのやり方として、使えそうだと思います。自分たちで地域を良くすることは「つながりを深めていく」ということになると思ったからです。今まではつながりを作るということを重点的に考えてきました。しかし、作った後のことも考えないといけないことが分かりました。そして作った後にすることのアイデアを得ることができました。



何度も言うことになりますが、このグローバルスクールでの学びを通じて得られたことはたくさんあります。あらゆる場面で得られることがありました。生活面での些細なこと、文化の違い、考え方の違い。上に書いた内容もそうです。そしてこれらの学びは全て、コミュニケーションのおかげだったと思います。他の考え方を持つ人、私たちとは他のことをしている人、そんな人たちと触れ合うことで、新しい視点で物事を見ることができるようになりました。このプログラムに関わった人全てに感謝しています。これからも人とのコミュニケーション、そして協働を大切にしていきたいです。グローバルスクールで学んだことを、これからの活動、そしてその先でも役立てることができるよう頑張っていきたいです。

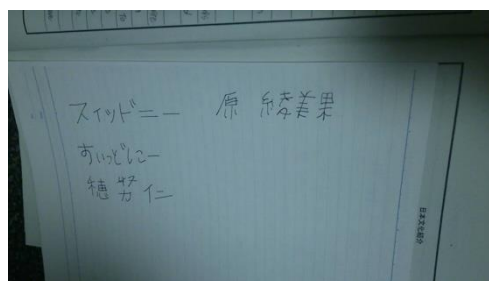
## ルームメイトとの交流の中での学び

広島観音高等学校 2年  
原 綾美果

4日目の夜、部屋の中で、ルームメイトのアメリカ人スィッドニーと、私を含め日本人3人でちょっとしたパーティーを開いた。パーティーでは、スィッドニーが通っているニューヨークの学校の話や、日本の文化についての話など、たくさんの異文化交流ができた。パーティーの中で、私が高校で所属している部活の中で流行っているリズムゲームを、ハワイに旅立つ前に英訳していたものを英語で説明して、4人で楽しむ事ができ、大盛り上がりだった。とても楽しい時間を過ごす事ができた。



交流の中で、漢字についてスィッドニーから質問があった。それは、「私の名前は漢字でどう書くのか」というものだった。私たち3人は、辞書で良い意味を持つ漢字を調べ、それぞれの漢字が持つ意味を英語で説明した。スィッドニーはとても喜んでくれた。アメリカ人の名前はカタカナなので、日本の名前ほどあまり深い意味が込められていないので、自分の名前を漢字で考えてもらったのが嬉しかったようだ。私は何度か、自分の名前の漢字が好きではないと思った事があったし、画数が多くて面倒くさいと思った事もあった。しかし、自分の名前は両親がたくさんの意味を込めて私のためだけにつけてくれた名前なので、これからは感謝の気持ちを込めて、自分の名前と向き合おうと思った。すると再びスィッドニーから質問があり、「Amikaの漢字はどう書くのか」と言われた。私は名前をノートに書いて教えると、自ら私の書いた字を一生懸命真似して書いてくれた。難しいと言いながらも最後まで書いてくれて、私はとても嬉しかった。名前を書いてもらったノートは宝物になった。



ルームメイトとの交流の中での学びとして最も大きかったものは、異文化交流はたとえ英語が上手く話せなくても、伝えたいという姿勢を分かってもらえることができれば、伝えることができるということだ。スィッドニーは、私たちの拙い英語でも耳を傾けて理解しようとしてくれた。そのおかげで、自分たちが考えた漢字の名前の意味も分かってもらえたとし、さらにそれを気に入ってくれた。リズムゲームの説明をした時も、ジェスチャーを交えながら伝えようとした姿勢を分かってもらえて、一緒に楽しんでくれた。さらにそれを「ニューヨークの学校でも流行らすね!」とも言ってくれた。英語は確かに最も重要なコミュニケーションツールではあるが、完璧ではなくても伝えたいことは伝わる、という事を実際に感じる事ができたのが、グローバルスクールでの一番の学びである。

## 今回の活動で得た能力

広島観音高等学校 1年  
至極 元

今回の活動で一番伸びたと思う能力は、リフレクションです。自分はこの活動に参加する前は、テストや模試等でもやったあと復習もせず、点数が低迷していたり、人に怒られた時も、返事だけして何も聞いてなかったり、面倒なことを避けようとしたりして、自らを伸ばすチャンスを自分で捨てていました。でも今回のようにみんな目標を定めて、みんなでその目標に向けて努力し、チームの一員としての責任や行動をとともにすることで生まれた絆のおかげで、自分にもできることは何か、ということが考えられるようになりました。



エリアAは、地域とのつながりが薄い子が地域と繋がれるようにすることを目的に活動しています。各地域には町内会という組合があって、それに入っていない家庭と入っている家庭では、大きな違いがあります。例えば、町内会に入ることによって生じるメリットとして、ゴミの収集袋や回収日と回収物の表が配られたり、子供会に入ることができたり、地域のイベントの日程表が配られたりもします。デメリットとしては、会費を払わなくてはならないのと、役員に任命される事があるということです。そのため、町内会に入らない人も多く、そういった家庭の子どもたちは、町内会に加入している子どもたちよりも、地域とつながる機会が少ないということが言えます。そのため、8月6日に翠町で行われた盆踊りに実際に参加し、どのくらいの子供たちが町内会に加入しているのか、そしてどのくらいのレベルで地域と繋がっているのかを調査しました。その時に参考にしたのが、アメリカ人のルームメイトと話した時のことです。自分の話す英語が相手に通じなくて、何度も何度も言ってやっと分かってもらえたり、逆に相手が何を言いたいのが分からなかったりと、苦労したことに比べれば、言語の壁もなく、難しい議題について話し合うわけでもなかったのだから、スラスラと、子どもたちに伝えたいことや聞きたいことが出てきました。実際にこの経験は、日頃の学校生活やオープンスクールなどの行事でも役立てることが出来ました。

グローバルスクールで得た経験は、上に書いたものと、理解するために失敗を恐れず努力することです。今までの自分は、目標の手前まで到達してから逃げ出したり、努力したことが失敗になることを恐れ、どんなに大きなチャンスを頂いても、いつも中途半端で終わっていました。でも今回の経験では、途中で終わるわけにはいけない課題が出てきました。しかも、どんなに頑張っても、理解できず、相手の期待に答えることができないことも多々ありました。でもだからこそ頑張ることができたのだと思います。多分できる壁ではなく、絶対に越えることができなかった壁だったからこそ、やる気になれたのだと思います。今までのように、失敗しないために理解するのではなく、理解するために失敗を恐れない事ができたのだと思いました。

# 努力は必ず報われる

広島市立広島工業高等学校 3年  
川西 諒

今回のグローバースクールを通して「広島創生イノベーションスクールで身に付けたい8つの資質・能力」のうち、特に伸びたと思う資質・能力はコラボレーションです。今回のグローバースクールでは本当に様々な人とワークショップなどで意見を交わす事が出来たと思います。英語も自分の意見を言う事も苦手ですが、それでも自分だけに出来る事、個性、特技などを自分なりにいかすことができ、グループの話合いをより良いものに出来たと思います。それが出来たのも今回のグローバースクールでみんなの英語力に全然及ばない事を感じ、それでもなにか出来る事はないかと努力した結果だと思っています。今後もこの経験を活かし自分の特技、個性が目標達成に向けて生きるようにがんばっていきたいです。

私たちエリアAで設定している課題は「地域と人のつながりを深める」ということです。そのつながりを深めるという点で今回のグローバースクールで影響を受けたのがフィールドトリップです。凄く景色が綺麗で空気もおいしくて、そこを人の手で守っていると聞きすごく感動したし、やってみたくとも思いました。美しい自然を守る事が直接的に「地域と人のつながりを深める」ということにはつながらないかもしれないけど、美しい自然を守っていくうちにその地域への愛が生まれ「地域と人のつながりを深める」ということになっていくと思います。もう卒業したので参加はできないのですが、こういう事を企画してみようかと思いました。後輩のみんなにがんばってもらいたいです。



このグローバースクールでの学びを通じて得られたことはたくさんあります。あらゆる場面で得られることがありました。ワークショップはもちろんですが、フィールドトリップや日常の様々な場面で学びがありました。特に泊まった部屋ではニュージーランドの人が同室で、英語が出来なくても諦めずに伝えようとするれば、必ず伝わる事が分かりました。そしてこれは全てに言えることだと思います。私はこのグローバースクールで「努力は必ず報われる」という事を身にしみて実感できました。そしてこれは一生の財産になると思います。だから私は座右の銘を「努力は必ず報われる」にしました。私はこれからの人生をこのグローバースクールで学んだ様々な事、そして「努力は必ず報われる」という言葉を糧にして生きていきたいと思っています。このプログラムで私は自分でも驚くほど成長したと思います。私を成長させてくれたこのグローバースクールに関わった人全てに感謝しています。ありがとうございました。

# 広がる世界・変わる自分

広島市立広島工業高等学校 3年  
坂倉 佑希

私は今回のハワイでのグローバルスクールに参加するにあたって「広島創生イノベーションスクールで身につけたい8つの資質・能力」のことを意識して取り組むようにしました。その中でも最も身についた力は「レジリエンス」です。過去の活動でも何度も同じ問題に悩んだり、意見のすれ違いや一点に集中する余り他の視点から考えることができなくなって、見逃していることがたくさんあったなどということがあったりしたのですが、今回は全く違う問題にあたりました。それは、「言語」です。私は、英語が全くしゃべれません。ワークショップをするたびに何度も苦戦し、何度も悩んでどうやってコミュニケーションをとれば良いだろう、どんな英語を使えばいいのか分からずにいました。

特に悩んだのは5日目のワークショップです。5日目は「自殺」についてグループで話して一つのシートを作っていくことをしました。最初はみんな個人でポストイットに書いて貼っていく作業をしていたのですが、気が付けばほとんど海外の人の意見で、私たちのポストイットがはがされていました。私は最初、私たちの意見をまとめてくれているのかなと思っていたのですが、よく見ると全く私たちの意見とは違うことが書かれていて、本当に悔しかったです。一生懸命考えて書いたものが理解されていないことが悔しくて悲しかったです。「言語」の壁にぶち当たりました。私は、英語が話せない分もっと悔しかったです。その日の夜は、私たち日本人だけで集まって意見を出して、6日目の活動で私たちの意見も認めてもらえるようにしました。6日目はシートを開いた瞬間、びっくりされて、正直仲が悪くなるかなとか思っていたのですが、受け入れてくれて、やっとみんなで共有することができました。



また、今回様々なワークショップをしていく中で、今後の活動で使っていききたいと思ったことは、マンドラです。マンドラは、私たちが活動していく中で活動手順として使えそうだなと感じました。また、活動をスムーズに進めていくためにも活用できると感じたので、今後の活動で使ってほしいなと思います。

私は今回のグローバルスクールが最後の活動となってしまったのですが、今回のハワイで一番影響を受けたことが、海外の人との交流です。私が普段生活する中で、海外の人とコミュニケーションをとる機会が全くなく、それでも仲良くできるように挨拶をたくさんしたり、写真を一緒に撮ったりすることができました。この広島創生イノベーションスクールに参加していなかったら経験できなかったことがたくさんできて本当によかったです。出会ったことにより、人と交流することの大切さを知ることができました。たとえ英語が苦手でも少しでも、話せるように努力することは大切だと感じました。

また、一週間の海外滞在で不安もたくさんあったんですけど、人とコミュニケーションをたくさんとることで、いつの間にか自分から話しかけることができるようになっていて、一番成長できたなと感じました。これからも人とのコミュニケーションを大切にしていきたいです。



# グローバルスクールを終えて

広島市立広島工業高等学校 2年  
大下 拓海

私が今回のグローバルスクールに参加して最も伸びた資質・能力は「世の中の諸問題について理解し、取り組むべき課題を設定する力」です。この能力が伸びたと実感できる場面はまだ訪れていません。しかし、自分たちのエリアで事前に調べていたSDGsと、世界各地の高校生との交流の中で各地域が抱えている問題等への解決方法は、結び付けられるのではないかと私は強く感じました。同じような問題を抱えている地域は数多くあるので、どのようにしたらAの問題が解決するのか。またそれによってBの問題へどのような影響が与えられるのか。そこについてもっと深く考えてみたいです。

エリアスクールで我々チームAが掲げている目標「子供と地域をつなげ、地域を明るく発展させる」に対しての影響は今回のグローバルスクールでは特に感じられなかったと思います。海外の生徒と話していると、「地域と僕たちが繋がっているのは当たり前」、「自分の家が明るければそれでいいのでは」などといった意見を聞きました。日本の「縁」という文化にも表されるように、もしかするとここまで地域との繋がりを深め、より安全快適を追及する思想は、海外にはあまり無いのかなと軽く感じた程度でした。

グローバルスクールを通じて私が最も得た力は、「海外の文化に触れ自分たちの文化を再確認できる」力です。書物やネットなどを用いて簡単に様々な情報を得て、「知識」として吸収することは容易になりましたが、あくまでそれは知識で終わってしまいます。しかし私は今回のグローバルスクールで実際に生の文化に触れることができました。それは言葉、所作に止まらずに踊り、歌などにも及びました。ニュージーランドの迫力満点の「ハカ」という伝統的な踊り。それに対して僕たちが日本へ帰国した次の日に行われた、曲にあわせて皆で環を作る「盆踊り」。同じ「ダンス」という文化ですが曲調や振り付けの激しさ、踊る人数などそこにはとても大きな違いがあります。そういった文化の違いに触れることで自分たちの文化の良さを再確認できるというのは、簡単そうに聞こえますが意外と難しく、またとても貴重なことではないかと僕は認識しています。

グローバルスクールで身に付けたこと、広島に帰ってきて再認識、再発見できたこと。これからのエリアスクールを自分たちの納得がいくまで発展できるだけの材料は十分に揃ったと思います。これをどう活かすかは僕たち次第であり上手に活かせば4つのエリアの中で最も内容の濃いエリアスクール活動ができると思います。しかし、その思いは他のエリアも同様だと思うので、お互いにいい意味での影響を与えられるようなエリア活動をしていきたいです。



## ピンチで得た学び

広島市立広島工業高等学校 2年  
山下 颯也

～グローバルスクールでの学びを通して「広島創生イノベーションスクールで身に付けたい8つの資質・能力」のうち、伸びた資質・能力～

僕が伸びたと思う資質・能力は、レジリエンスです。グローバルスクールでは多くの困難が立ちはだかりました。始まってすぐの時は諦めてばかりいましたが、研修を重ねていくにつれて、何か解決策はないかと考えるようになっていきました。これからは、その次に何が出来るかの目標設定などができるように頑張っていきたいと思います。

～エリアスクールで設定した課題とその解決策に向けて影響を与えた内容～

僕が設定した課題は、一人でも多くの他国生徒とコミュニケーションを取る事です。グローバルスクールでは、約5人の他国生徒とコミュニケーションを取ることが出来ました。最初、課題を設定した時は絶対にコミュニケーションを取るの無理だと思い、諦めながら設定しましたが、いざ他国生徒と2人になってしまうと、いろいろ聞かれたりして、何かしらのコミュニケーションは取らないといけないので、手や、顔などで表現したり、分かる単語をつなげたりして何とか伝えようと思いました。すると、思った以上に伝わる事が分かりました。この調子で、来年のグローバルスクールでも多くの他国生徒とコミュニケーションを取りたいと思います。



～グローバルスクールでの学びを通じて得られた成果や今後考えていきたいこと～

グローバルスクールでは多くの人に話しかけられました。そのほとんどが英語だったので、最初は分からないので聞く耳をあまりもっていませんでした。しかし、自分が聞き取らないといけない部分も多々あり、苦勞していましたが、いざ聞いてみると意外と理解できることがありました。英語が分からなくても何とかなることもあるんだなと思いました。グローバルスクールでは、今回以上に理解できることが増えるように頑張っていきたいと思います。

## 世界を体感した7日間を終えて

広島市立広島工業高等学校 2年  
五反田 陽香

今回このグローバルスクールを通して「広島創生イノベーションスクールで身につけたい8つの資質・能力」のうち、伸びたと思う資質・能力はコラボレーションです。私はこの活動の始め、他国の人と全く話すことができませんでした。それは、自分は英語が使えないからと挑戦することに怯えて、逃げていたからです。そのせいで同じチームの人たち、特に外国人の3人にとっても迷惑をかけました。彼らは何度か私にも「どう思う?」「どう考えているの?」と話を振ってくれましたが、結局一言も話し合いに参加できずに一日が終わりました。でも私はせっかくの7日間を、出来る努力をしないまま無駄にしたくないと思いました。それからはいろんな手を使って少しでも相手が言っていることを理解しようと努力しました。努力が実を結んだかどうかは私の主観では曖昧なところなのですが、努力しようと尽力した点において私はこの資質・能力が最も伸びたと思いました。

課題や解決策に直接的な影響を与えたものではないのですが、今回の学びの中で私たちエリアAの活動に最も影響を与えたのはマンダラの作成だと思います。エリア毎のプレゼンの時もパワーポイントに資料として活用しましたが、話し合いの中でも何度か話題に上がりました。円状のステップで問題解決までの道のりを表示するのは非常にわかりやすく、なぜ解決のためにその行動が必要なのかを常に意識していられる方法だと思います。私たちはエリアスクールの中で、何度も「そもそもなんでこうなったんだっけ?」と今までの活動を見返すときがありました。しかしマンダラを活用すればこのような時間を減らし、もっと話し合いの時間を取れると考えました。これからのエリアスクールのなかで是非活用していきたいと思いません。

今回のグローバルスクールでの学びでの成果はたくさんあります。毎日に新たな発見をしたように思います。その中で1番の成果はやはり挑戦することの大事さを再確認できたことです。「誰かに迷惑をかけるかも」とか「失敗したくない」なんてものは必要なくて、とにかくまずは挑戦しなければ、何も始まらないと改めて気づきました。日本語にはいい言葉がありますよね、「当たって砕けろ」「失敗は成功の元」。この言葉を今回の教訓として、これからの活動も頑張っていきたいと思いません。

次に今後考えていきたいことです。まずはマンダラを活用した今までの活動のまとめを行いたいと思っています。一年生にも改めてこれまでの道筋を認識してもらいたい機会になる上、これまでのように振り返りの時間を作らなくてよくなるという2点のメリットがあるので、何処かで時間を作って必ず作りたいと思います。その後、問題解決に向けて行っていこうと思っていた企画案のブラッシュアップをしていきたいです。より具体的にどのような目的を持って、どんな人たちと協力して進めていくのかを考えていきたいです。

最後になりましたが、今回このグローバルスクールという貴重な経験をさせていただけたこと、この機会を作ってくださった沢山の大人の人たち、そして拙い英語でもしっかり話を理解しようとしてくれた海外生徒の皆さんと、今まで一緒に活動を共にしてきた日本の2、3年生、これから活動を共にしていく1年生に最大級の感謝を。ありがとうございます。そしてこれからもよろしくお願ひします。



## 外国の方とのコミュニケーション

広島市立広島工業高等学校 1年  
竹下 智之

僕が、このグローバルスクールでの学習を通して「広島創生イノベーションスクールで身につけたい8つの資質・能力」のうち、伸びたと思う資質・能力は、「コミュニケーション能力」です。初日は、ルームメイトのインドネシア人の子(アンディカ)と軽い自己紹介しかできませんでした。僕は「これではいけない」と思い2日目の朝から積極的に話すようにしました。

しかし、僕には「言葉の壁」というより、「発音の壁」が立ちただけでした。アンディカの発音は、少しだけ「なまり」があり、僕の英語の発音では、通じないところがありました。「Like」が通じなかったり「Give」が通じなかったりしました。ですが、アンディカに発音を教えてもらいながら2日目の終わりには、ある程度自分が話したいことは、会話できるようになりました。

3日目の自由行動の時は、外国の方に道を聞いたり「写真を撮って」と頼んだり、積極的に外国の方と話しました。その日の夜、僕たちは、もっと交流を深めようと思い、「ミニ文化紹介」をしました。僕たちは、折り紙を折ったり、けん玉をしたりしました。アンディカは、ヨガを教えてくださいました。

4日目の夜には、アンディカの友達へのミックと友達になりました。へのミックは、6か国語が話せるといっていました。来年の夏までには日本語をマスターしたいといっていました。



5日目の夜に、エリアAでやっている【顔の狭い子供】について少しだけ話しました。アンディカは、「まず、君たち自身が顔が広くないとダメだね。」といっていました。僕は、自分たちが地域とつながっていないと、地域とのつながりがどういふものなのか、また、そのつながりによって、どういふ効果があるのかが、自分たちが顔が広くないとわからないよね!と言いたいのかなと思いました。だとしたら、僕は、もっと地域行事に参加し、もっと自分の地域のことを知っておかないといけないと思いました。

最終日の夜は、来年広島で会うまでに達成しておく目標を言い合いました。僕は、英語をもっと話せるようにしておくことを目標にしたので、その目標を達成できるようにこれからも頑張りたいと思います。

僕は、このグローバルスクールに行く前から、「将来はアメリカで働きたい」と思っていました。今回のグローバルスクールを通して、もっとアメリカに行きたいと思いました。そのためには、今よりもテストでいい点を取って、リスニングや、問題集をやり、英語でコミュニケーションをとることの楽しさを忘れないように、毎日英語の勉強を頑張りたいと思います。

## グローバルスクールで学んだこと

広島大学附属高等学校 2年  
清永 敦生

私はグローバルスクールでの経験を通し、他人の価値観を理解する能力が特に伸びたと思います。この写真は sandy beach へ向かう途中のバスの中で撮った写真です。海外の友達とも一緒に手を合わせた写真で、他人、特に異文化の中で育った他者を理解し、より良い関係を築くことができた様子を表現しました。アンケートではあまり高い評価にしましませんでした、日本に帰っておよそ一週間が経ち、以前よりも他人の価値観をより理解できるようになっているのではないかと感じました。他人の言動の背景を考え、できるだけ相手を理解できるように努力しようとする事ができるようになりました。



エリアスクールでは「地域とのつながりが薄い子ども」を大切にしたい人とし、そういった子どもたちを私たち高校生が主体となったお祭りなどのイベントを通して、地域とつながることができるようにしていこうとしています。グローバルスクールでは曼陀羅を作りましたが、あのような方法で自分たちが何をどうしたいのか、そしてそのために何をすべきなのかしっかり考え、メンバー全員が同じ目標を持って強い意志で活動できるようにしないといけないと感じました。そうすればKa Iwi Coastの方々のように具体的な活動ができると思うし、支援をしてくれる人がもっと出てきてくれるのではないかと思います。また、踊りが互いの文化や価値観を理解し、関係を深めるための重要なツールだと実感しました。イベントでは世代を超えた地域の方々と共に踊りやダンスをすると効果的なのではないかと思いました。

グローバルスクールでは本当に多くの新しい物事に触れ、たくさんのことを学んだのですが、それ以上に多くの新たな友達を作り、新たな人間関係を築くことができました。彼らとは来年のグローバルスクールで会えると思いますが、しかし今回と次回だけの関係になってしまっただけではもったいないことだと思います。今回の出会いを大事にして、今後様々な面で互いのプロジェクトの協力ができたらいいなと思うし、積極的にしたいと思っています。

エリアスクールの活動では、子どもたちの為のプロジェクトを行っていくということで、様々な世代との協働が必要になってきます。他の世代との話し合いでは問題意識や立場の違いからうまく進まないことがあると思います。そういったときに冷静に相手の価値観を理解し、相互理解が図れるように努力していこうと思います。また、私はこの活動を一回限りにせず、私たちの目標が達成される時まで活動を継続していくことができたらと願っています。そのためには前とかぶりますが、私たちが何をしたいのかをはっきりとし、多くの人賛同して支援してくれるような仕組みを作ることが必要です。今後は計画を実行に移しつつ、多くの客観的な面からの振り返りを常に行い、より良い方法を考え、改善を続けて、目標達成に向けて努力を続けていきたいです。

あと1年間、3年生の想いも受け継ぎつつ、より良い活動になるように努力を重ねていきたいです。

# たくさんの実感と体験

広島大学附属高等学校 2年  
岡田 悠希

今まで、日本以外の人と交流する機会は少なく「異なる価値観」というものにふれることもあまりなかった。その分今回、世界の同年代と出会い各々の文化を交流したり意見を交換したりすることはとても刺激的だった。同時に今までの自分のオープンマインドのレベルの低さにも気付かされた。関わる機会が少なかったのだから仕方がないかもしれないが、自分と異なる世界の中で生きてきた人と心の底から語り合うことは難しかった。

国などとは関係なく個人間でも多くの人の意見を聞くことができ、その中ですごく自分に刺激になる考えにも出会った。いろいろな角度から見た意見を聞くことで、自分の考え・意見をより良いものに「リファイン」できた上、1人だと気づけなかった重要なことに気付かされることもあった。自分が学んだこと、思ったこと、考えたことをみんなにシェアすることで集団全体の理解・考えが深まることを実感した。

そうして共有の大切さに気付く中で、英語を話せることの強さと、逆に、英語など話せなくてもコミュニケーションは気持ちの持ちようだ、という二つのことを身をもって体験した。

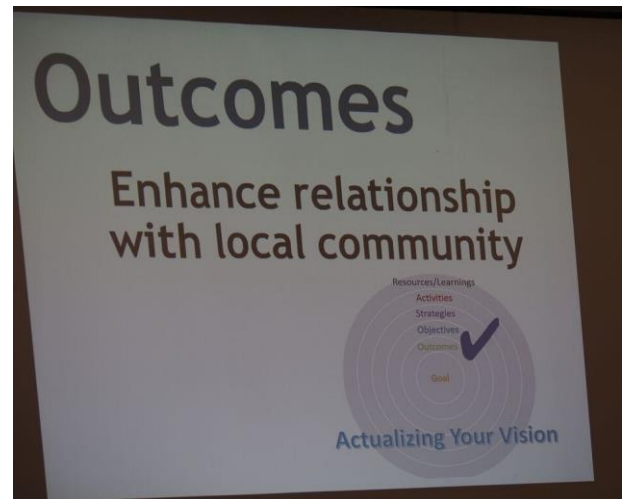
今回英語圏の同年代と話す機会はたくさんあった。今まで話したり聞いたりしていたスピードとは全く違い聞き取ることが難しいこともあった。英語の問題ではなく「持続可能な発展」について話しているのに、英語という壁のせいで自分の意見を言えないことはすごく悔しかった。また相手の気持ちや困っていること、考えていることも理解しにくく話しかけることをためらうこともあった。

しかしまずはどんどん話しかけるべきだったのだなと最後に気付かされた。修了証書をもらうとき思いがけず「ユウキー！」と言ってくれる人が多くいて、そのとき自分はこんなにもたくさんの人と関わっていたのかと驚いた。そして（最初のきっかけはできていたんだ。近づくかどうかは自分次第だったんだ）と思い少し後悔した。でもそのことに気付けたことは一年後のグローバルスクールにつながるよい収穫だったと思う。

最後の、各エリア・国の活動の様子報告は自分にとってとても面白かった。それぞれが自分の住んでいる地域を元気にするために様々なアプローチをしていることがわかった。また、日本以外の国のほうが全体的に話のスケールが少し日本よりも大きい気がした。それは、全体（森）を見たうえで自分たちにできること（木）から活動している、ということなのかもしれないと後から思った。そして私たちにとっての森は、広島を元気にすることで、そのためならばエリア活動においてどんな方向転換も許されるものなのではないかなと考えさせられた。

私たちエリアAは最後のプレゼンに向けて、その前の活動で使ったマンダラに沿って自分たちの活動の大きなところから小さなところまでを見直すことができた。また、あいまいになっていたところをもう一度考え直すこともできた。これはこの一年間を見直すものであり、同時に一年後のグローバルスクールに向けてのいいスタートになったと思う。

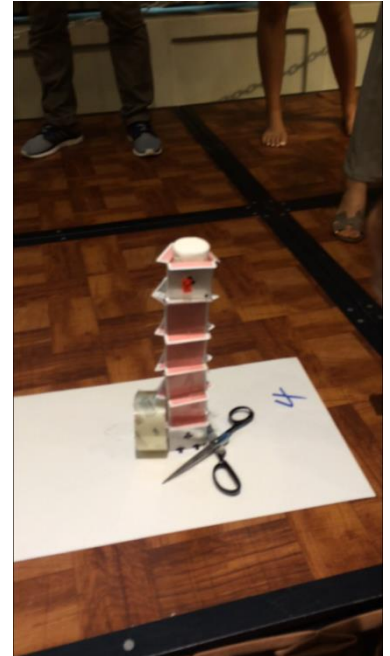
このスクールで自分の中身が大きく変わった気がする。この変化を無駄にせず、大きな目標に向けてまずはエリアスクールでみんなと一緒に街中を元気にしていきたい。



## Active but Passive Attitude

広島国泰寺高等学校 3年  
掛谷 耕平

今回のグローバルスクールを通して、最も自分が伸ばすことができたと思う資質、能力は「プロトタイピングとリファイン」である。今回の活動では、ある課題に対して様々な人と意見を交わす機会が多く、その中で自らの意見を積極的に発信しようとして心掛けてきた。結果として、様々な価値観を持っている人達が集まり、議論した中でも、自分の意見を理解してもらえたということは、今までの自分では間違いなく成しえなかったことであり、自らの成長を実感することができた。右の写真はトランプで建造物を作った時の画像であり、グループみんなでどのように建てていくかの案を出しプロトタイプを作っていた画像である。この活動を成功させるための一つの要素はプロトタイピング能力であり、これを体験し、成功させることができたというのは、自分の成長の中で大きなものを占めている。以上のことから、今回の活動において私は「プロトタイピングとリファイン」の能力を伸ばすことが出来たと考えられる。



エリアスクールで私たちのエリアが設定した課題は「若者の自信不足」であり、今回自分が聞いた話の中で最も関係があった話は、アメリカの若者の話だ。5、6日目に各個人が興味のある問題に分かれてディスカッションを行った時、私は「substance abuse」つまり薬物乱用がテーマのグループだったのだが、その時にアメリカの若者の薬物乱用についての話を聞く機会があった。話によるとアメリカの若者の薬物乱用は一般的によく知られている覚せい剤、大麻、などの麻薬とは異なり、一般的な処方箋を過剰、もしくは必要がないにもかかわらず接種してしまうことで起こるということだった。具体的には ADHD 患者へ投与する薬(集中力を上げる薬)を、ADHD の症状が見られない人がもっと集中力を上げようと服用するという事例があるという話であった。この原因の一つとして「若者の自信不足」が存在している、と考えられ自分たちの議題との大きな関連性が見られた。この「若者の自信不足」という問題に対して、私たちが挙げる解決策は「トナカイフェス」という若者が自信を持てるようになる場を作るという取り組みを行うことであった。しかし今回のアメリカの若者の話を聞いて、一口に自信不足といってもそれには多くの形態があることに気づかされた。よって「トナカイフェス」を行うにあたって、どのようにして自信をつけさせたいのかというのを、様々な自信不足の形態について知ったうえで、決めていくことが重要であると思うようになった。

さて、前述の通り、私は今回の活動を通してプロトタイピング能力を伸ばしたり、他の国の問題について学んだりすることが出来た。それら全体を振り返り今後考えていきたいことは、受信能力についてである。例えばプロトタイピング能力について言えば、目指すべきレベルに対して自分は、自分の意見や考えを持ちそれを他人に伝えることができる、という状況に過ぎない。つまり、プロトタイピング能力を伸ばしていくためには、他者との協力が不可欠であり、また自分にはその能力が不足していると、今回の活動で実感した。つまり今後自分の能力を高めるには、「コラボレーション」や「オープンマインド」の能力も伸ばしていく必要があると考える。アメリカの若者の話に関しても、これらの話は全て、日本の参加者に訳してもらったものであり、自分自身で理解したものではない。もちろん自分の弱いところを他人に補ってもらおうというのは悪いことではないのだが、それでも言語の問題とはいえ、相手の意見を直接理解さえ出来ないというのは議論をするにあたって大きなディスアドバンテージだろう。これらのことから、今後他人とかかわっていくことにおいて、相手のことを理解し、尊重しながら、協働していくということを目指したいと考える。

# Don't be shy!

広島国泰寺高等学校 3年  
新宅 奏良

このハワイでのグローバルスクールを通して、「広島創生イノベーションスクールで身につけたい8つの資質・能力」の中で、自分が最も伸びたと思う資質・能力は「オープンマインド」だ。グローバルスクール1日目の私は、高い英語力という壁ばかり見つめては怖じ気づき、議論にもうまく参加できずにいた。しかし、2日目の午前が終了したとき、「求められてるのは、英語力じゃない。単語だけでもいいから議論に参加することだ。」とチームBのメンターや先生方に諭され、それから積極的に参加するようになり、自分が議論に参加しているという実感も手に入れることができた。また活動を通してできた各国の友人との交流から、多様な価値観の存在も同様に実感した。例えば、各国の友人と別れる際に、別れの挨拶として気兼ねなく私が「Bye」と言うと「Byeだともう会わない(会えない)感じがするから、ByeじゃなくてSee you」といってほしい」といわれた。日本だと「さよなら」だけでも何の問題もないが、やはり言葉の選び方に対してのこだわりは国によって違うようである。こういった価値観の違い(相手のタブー)もしっかり踏まえる意識というのをこの8日間で形成できたことが私自身の一つの大きな収穫である。

エリアスクールの活動への影響としては、6日目のエリアごとの活動の時間、エリアBは、都市部に比べて開拓が進んでないワイナマロという地区に行き、現地の人に「あなたの地域の問題点は何ですか？」

「田舎と都会のつながりについてどう考えますか？」などトナカイフェスを行ううえで、ひとつのテーマとしておいている「田舎と都会をどうつなげるか」ということに着目した質問をした。結果としては、都会に対しての憧れといったものは見えず、さらにあまり良くないイメージを持っている方が多かった。また自分の住んでいる地域に対しての誇りもみられた。「都会と田舎がつながること」を一つのコンセプトとして掲げる私たちが留意すべき点として、

「【田舎と都会がつながる=田舎の個性を殺して、完全に混ざり合う】ということではない」ということを再認識した。個人的に気になった意見として「都会自体をあんまりよく知らないから、比較自体ができない。でも住むのには苦勞してない。」といったものがあつた。そこから私の中に「そもそも本当の都会の魅力を知っている人はどれくらいいるのだろうか。都会の魅力、田舎の魅力を両方きちんと知らずに批判している人もいのではないか。」という疑念が浮かんだ。ともすれば、私たちが目標達成のためにすべきことは、まずチームとして伝えたい田舎と都会両方の魅力は何かを明白に持つておくことではないかと考えた。

今回のグローバルスクールでは、様々な人たちと関わり合いながら何かをする場面が多く、その度に人との関わり方について何度も見つめなおした。そのことから人とのつながりというものを特に考えさせられた。各国の人たちと協力して何か物事を構築しようとする議論の際も日本人は比較的消極的であったように思われる。(前述のとおり、私も諭されるまではそうであった。)個人によって程度は異なるが、日本人全体としてそういった傾向があつた。コミュニケーションというものに対する意識が希薄なのである。しかし、「説明する」といった他国の価値観に対し、日本には「察する」という価値観もある。このことについて平田オリザ氏は、各国のコミュニティの形成過程を辿りながらこう述べている。

「一般に、日本社会は、ほぼ等質の価値観や生活習慣を持った者同士の集合体＝ムラ社会を基本として構成され、その中で独自の文化を培ってきたと言われてきた。(中略)一方、ヨーロッパは、異なる宗教や価値観が、陸続きに隣りあわせているために、自分が何を愛し、何を憎み、どんな能力を持って社会に貢献できるかを、きちんと他者に言葉で説明できなければ無能の烙印を押されるような社会を形成してきた。」

あくまで価値観の違いの話であるため、よし悪しの区別はない。しかし、グローバル化が進んでいる今日の世界において、「察する」という価値観は少数派に属する。しかし、だからといって「察する」という価値観を廃し、「説明する」という価値観に転換することが求められているのではない。「察する」という価値観の強みは、物事を様々な面において円滑に進めることができるということであり、これは日本で育つた私たちの強みとも言える。

よって私は、自分が育つてきた価値観も大切にしながら他国の価値観も大切に扱っていきけるような、グローバルな人材に必要な資質を自分の中に育てていこうと考える。





## Partnership for Youthに参加して

広島国泰寺高等学校 3年  
竹内 咲希

Partnership for Youthに参加して、私はコラボレーション「目標を共有し、その達成に向けて他者と協働する力」が特に伸びたと考える。私が一番達成感を得られた活動は、Mandala for Visionである。その活動では、ある問題を解決するために何が必要なのか話し合い発表を行った。私たちのグループのテーマは、Sustainable Development, 持続可能な開発だった。私達日本人は他国の学生に比べて、英語力が劣っていて議論となった時に日本人全員が英語での議論に十分に参加することができなかった。私自身、小学生の時に英語に対する苦手意識を抱いてから高校3年生である今まで英語は苦手科目であり、自分の英語力に自信を持っていない。しかし、3年生ということもあり、議論の内容を理解することと、意見を英語で伝えることはできた。その為、今回私は日本語を英語に、英語を日本語に訳すことで全員が内容を少しでも共有できるようにしたいと思いそのことに取り組んだ。私たちのグループは、全体で議論する時は、



英語で行われている議論の内容を日本語に訳し、意見がある人は日本語か英語で意見をいい日本語の場合はそれを英訳するという形式をとった。また、細かいことを決定する時は、メンバーの一人が英語で書いたものを基に、書かれている内容を修正したり、日本人で出た意見を加えたりして内容を深めていった。完全に訳しきることができず、何回も誤訳を伝えることになったり、言いたいことを表現できず何度も言い直したりと通訳の方には程遠い訳であり、自分で定めた役割を果たし切ることができなかった。だが、日本と海外の生徒が協働し、テーマについて深く掘り下げて考え、よい議論をすることができた。今まで議論の中で私は、自分の役割を明確に自覚することがなかったが、自分自身で定めることができた。又、チームの中で出た意見を組み合わせ、内容を深めることができた。これらのことから私は、コラボレーションの力が伸びたと考える。

私の所属するエリアB, feel は、子供が自分自身に自信を持ってない状況が問題だと考え、何かをやりきることによって、自分自身に自信を持てるようにしようと考えている。Partnership for Youthに参加して、海外の生徒は堂々と自分のことを語り、意見を言い、自分のこだわりたい点には満足できるまでこだわっていると思った。また、彼らは、深く物事を考える力、行動力が同じ年齢の日本人よりもあると感じた。日本の子どもが海外の子どものようになるのは画一的になるだけであるような気がするが、一つの理想をみることができたと思う。今回一緒に様々なことに取り組む中で発言したり、行動したりするのに自信があるのではないのでは大きく異なると実感し、さらに発言したり、行動することができたと感じることができた。これにより“何かをやりきる場を提供する”という解決策は問題の解決につながると実感することができた。

今回、Partnership for Youthに参加することができて良かったと思う。この活動を通じて、様々な背景をもつ多くの人と交流や、話し合い、議論などをすることができた。その中では、うまくいかないかもしれないと思い、行動をしなかったら何も変化しなかった。やはり、やってみる、取り組んでみるということが重要だと改めて実感した。やってみると意外とうまくいったり、周りの人がサポートしてくれたり様々な助けを得ることができた。私にとって今回が最後の広島創生イノベーションスクールの活動であり、今後の活動に直接深くかかわることはできないことを非常に残念に思う。今後、自分の役割及び責任を自覚できるように、今何が求められていて何をすることができるのかということを考えていきたい。

教育委員会の方、East West Centerの方を始めとするすべての活動に関わってくださった方、参加する機会をくださった方にこの場を借りて感謝申し上げます。ありがとうございました。

# グローバルスクール

広島国泰寺高等学校 2年  
大屋 晴太郎

私がグローバルスクールを通して学んだことは3つある。1つ目は世界には様々な価値観があるということだ。私はいろいろな国の生徒と交流をすることで様々な考え方を学ぶことができた。同じ問題について議論をしているはずなのに問題のとらえ方が違っているということに驚いた。また他国の生徒の考えに自分は賛成できないと思うことがあった。しかし賛成はできなくても理解することはできた。そのおかげで沢山の視点から物事を考えることの重要さに気づくことができた。多様な価値観があるといことは良いことだと思うが、その多様さのせいで互いに理解し合えず沢山の問題が生じているのだと思った。2つ目は世界がつながっているということだ。私たちはマスメディアやインターネットなどを使うことによって常に海外へ情報を発信したり逆に海外から情報を受け取ったりすることができる。それぞれの国だけで別々に考えるのではなく「世界」という大きなくりで考えることが重要であると思う。フィリピンの生徒と Pearl Harbor について話したときにこんなことを言っていた「日本とアメリカとを分けて考えてはいけない世界中の様々な国が関係を持つことが重要だ。」私はその言葉を聞いて私たちが取り組んでいる様々な問題も関係を持って解決にとり組むべきだと思った。3つ目はコミュニケーションの取り方だ。私は今回の活動を通してどのように自分の意見や気持ちを相手に伝えるか学ぶことができた。私はこれまでコミュニケーションとは話すことだと考えていた。確かに話して通じればいいのだが、実際は英語の単語を知らなかったり相手の言ったことが聞き取れなかったりと話すことはあまり上手にできなかった。しかしジェスチャーで伝えたり絵を使ったりしてどうにか相手とコミュニケーションを取ろうとした。また私は初めは海外の人とコミュニケーションを取ることに抵抗があったが最終日にはコミュニケーションを取ることに抵抗はなく沢山の友だちを作ることができた。



私はグローバルスクールを通して様々な能力、資質が向上し大きく成長できたと思う。特に「世界の問題について理解し取り組むべき課題を設定する」という能力や「オープンマインド」が伸びたと思う。これまでは日本だけで活動を行っていた。そのため分かってはいたが世界の問題について考える機会がなく、また他国の生徒と協同するという実感が沸かなかった。しかしグローバルスクールで実際に他国の生徒と話すことで、世界中の人と協同をして問題解決に取り組むべきだと考えている。またコミュニケーション能力が大きく向上したと思う。私はコミュニケーションを取ることが苦手で人と仲良くなるのにいつも時間がかかる。しかし今は他国の生徒とも友達になれ、自分に自信が持てるようになった。

私はフィリピンの生徒の言葉が心に残っている。私たちチーム feel は「トナカイフェス」を開催することになっている。その際は沢山のことを関連付けて考えていこうと思う。そうすれば1つのことにとらわれることなく、また物事のつながりを理解することができ、活動が円滑に進むのではないかと思う。またトナカイフェスを開催するにあたって関わってくる沢山の人の対しては、グローバルスクールで身につけたコミュニケーション能力を活かしたい。最後に今回のグローバルスクールを通して最も学んだことは時間の大切さだ。時間は無限にある訳ではない。私たちは常に期限がある中で活動している。しかしその期限を守らなければ相手から信用されない。今回のグローバルスクールでは時間について何度も注意を受けた。今後このような事がないように気をつけたい。私はグローバルスクールを通してイノベーターとして、また一人の人間として大きく成長できたと思う。今回学んだことを活かして今後の活動を頑張りたい。

## グローバルスクールを終えて

広島国泰寺高等学校 2年  
栄田 美月

～グローバルスクールを終えて最も伸びたと思う資質・能力

‘レジリエンス’（困難や失敗に直面してもあきらめず、前に進む能力）について～

私の今回のグローバルスクールでの‘困難’というのは、「海外の生徒たちの意見に圧倒されてしまう」ということです。日常会話程度なら、英語で話すことについて、苦手意識はありませんが、今回のグローバルスクールのように海外の生徒と意見をぶつけ合うことが初めての経験だったので、自分の意見に自信を持って発言してくる海外の生徒に初めの方は圧倒されっぱなしでした。しかし、海外の生徒の意見に流されたまま日本には帰れない！と思い、英語の先生や事務局の方からアドバイスを受けたり、「絶対に自分の意見は最後まで押し通す！」ということを決め、最後のアクティビティーに臨みました。すると、これまで黙ったままだった日本人の生徒も私の意見を広げようとしてくれたり、海外の生徒も自分の意見に耳を傾けてくれたりしました。自分があきらめずにトライし続ければ周りの人たちも変わっていくのだということをもっと体験することができました。



～エリアスクールで設定した課題とその解決策に向けて影響を与えた内容について～

直接は関係しないかもしれませんが、今回 FEEL（エリアB）ではエリア活動の時間にフィールドトリップに出ました。内容は現地の方へのインタビューです。10人を目標に！ということで臨んだのですが、下調べに時間が取れず不十分だったために、目標の10人には到底及びませんでした。しかしその時に感じたのはあやふやな英語で話す異国からやってきた高校生の話にもきちんと耳を傾けてくれる方の暖かさです。住宅街を主に回ったのですが、インタビューに答えてくれた方の中には、わざわざ近所の方を呼び止めて一緒にインタビューに答えてくれる方もいらっしゃいました。

～グローバルスクールでの学びを通じて得られた成果や今後考えていきたいこと～

今回の活動で2030年にさまざま分野で先頭に立って時代を引っ張っていくリーダーが多く育っていくことだと思われまます。そんな中で日本人である私たちに求められているのは語学力以前にコミュニケーション能力だとグローバルスクールを通して感じました。私の周りにはあまり英語が得意ではないけど様々な形でコミュニケーションをとっている仲間がたくさんいました。そんな姿を見ていると語学力がなかったり、意見を出せない人だけが悪いのではないと感じました。文化も違えばもちろん話し合いの仕方も変わってくるのだとは思いますが、少数派の意見やあまり意見できていない人にも耳を傾けることのできる人が真のリーダー像になっていくと改めて感じました。

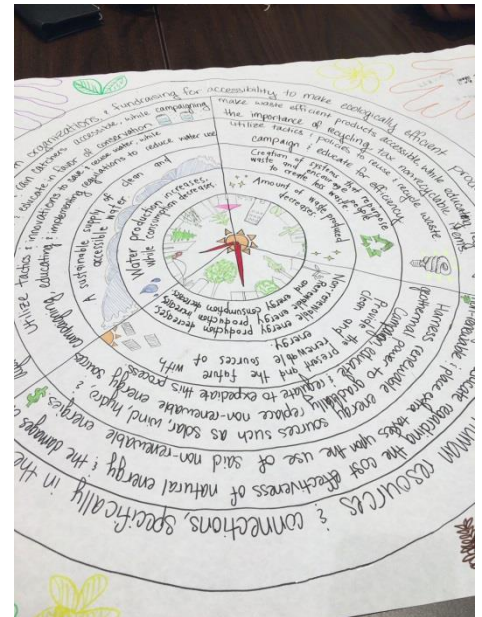
～最後に～

今回のグローバルスクールにおいて、協力してくださった皆さんに感謝します。  
ありがとうございました。～THANK YOU～

# ひらめきと行動力

広島国泰寺高等学校 1年  
片島 聖矢

私が今回このグローバルスクールで最も伸びた資質・能力はオープンマインドだと考える。理由は、5日目、6日目のマンダラを作る活動において、日本人の高校生とそうでない高校生において、決定的に違うところがいくつもあったことにある。具体的な例を挙げると、1つ課題を与えられたとき、私たちはまずじっくり考えることが多かったのだが、海外の高校生たちは、すぐに自分の考えをまとめて、行動に表していた。最初は少しとまどったが、次第に、すぐ行動に移すことのできる海外の高校生の行動力と、日本の高校生のじっくり考えてから行動する、ということが組み合わせたらとてもバランスが良いな、と思うことができたからだ。しかし、今回日本人と海外の生徒で同じだなあと思ったところ、それは、どちらの生徒であっても最初は表情が硬いし、自分の思ったことをダイレクトにそのままいうことはできない、ということだった。最初は少し遠慮するし相手がどんなことを言うのか様子をうかがう、というのはみんな自分たちと同じで、最初の勇気を振り絞るタイミングが少し違う、ということだった。



私たちのエリアは、若者の自信不足を課題に設定している。今回のグローバルスクールで会った様々な高校生はみんな自身に満ち溢れていて、楽しそうにいろいろなことをやっていた。話を聞いてみると、最初はそんなに積極的でなかったが、一度周りの人たちに誘われて、大きな活動をしたら、とても楽しくてそれからは積極的に活動をするようにしている、とのことだった。その話を聞いて私はやはり、若者が活動することのできる場所づくりということが本当に大事なのだな、と強く感じた。それと同時に、今の日本では、自分たち高校生が中心となって進めていく大きなプロジェクトのようなものが少なすぎると感じた。そのために「トナカイフェス」という若者が主体となって開催するフェスを私たちは是非とも成功させたいと考える。

今回のグローバルスクールで私は、様々な意見を組み合わせる1にまとめていく、ということが新たにできるようになったと考える。人それぞれ意見はみんな違っていいと思うし、むしろ同じだと面白くないと考えることができるようになった。これからは、みんなの意見を聞きまとめていくことができればいいなと思った。また、今回の自分のように様々な人と交流して新たな考えを持つことができる人をたくさん見たいと思った。自分たちと同じ年代の人たちに、一度大きなことをやってみて、そこから新たなことにどんどんチャレンジしていくことができるような人がもっといるはずなのに、その最初の一步を踏み出すことができていないので、自分たちが作っていかねばいけない、と再確認した。なによりも活動を通してできた新しい友人や関わるはずのなかった大人の人たちの考えを知ることができるチャンスを、絶対に見逃してはいけないと思った。

# グローバルスクール

広島国泰寺高等学校 1年  
木村 優志

僕が今回のグローバルスクールで成長することができた点が二つある。

一つ目は「リフレクション」だ。グローバルスクール初日はグループごとに地域の問題点等を話し合った。しかし、自分の語学力不足によりアメリカ人の伝えたいことがあまり理解できず自分の考えをうまく伝えることができなかった。しかし事務局の方の「グローバルスクールの本来の目的は英語力の向上ではなくほかの国の生徒たちとコミュニティ問題について話し合うことだ」ということを聞き、もっと積極的に参加しなければと考えるようになった。そこで、グループごとに考える議題で僕は「自然災害」を選択した。初日の反省を生かし、外国の人ともコミュニケーションをとるよう心がけた。電子辞書や周りの人にも助けをもらって自分の持っている考えをしっかりと伝えることができた。

二つ目は、「オープンマインド」だ。僕は、インドネシアの人と同じ部屋だった。自分の英語が通じるか自信がなかったが、相手も理解してくれ、趣味や特技といったことをコミュニケーションすることができた。また、部屋内で日本の文化としてけん玉を一緒にして楽しむことができ、文化交流も行うことができた。



ハワイでのエリアスクールでは、ハワイ現地の人にインタビューをした。Feel では都会と田舎をつなぐことを目的として活動している。インタビューをして外国の人々は自分の地域社会をしっかりと理解していて良いところや改善してほしいところを日頃から考えているということに驚いた。僕は自分の地域についてあまり関心を持っていないことに気付いた。今後プレフェス、トナカイフェスをしていくうえでもっと自分の地域について知っておくことが必要だなと思った。近所の人や自治体の人とコミュニケーションをとるよう心がけていきたい。

僕は今回のグローバルスクールに参加して本当に良かったと思う。同室の人を含め多くの人と仲良くなることができた。しかし課題も多く見つかった。英語力の不足により、会話を続けることができなかつたり、もっと深いところまで知ることができたらなと思った。また、日本人だけで固まってしまうこともあり、もったいないなと感じた。来年は広島に外国の人を迎える。来年の夏までに自分の英語力を向上させ、さらに自分の地域についてもっと理解するようしていきたい。

今回、このような場を頂いた、事務局の方、先生方、East-West Centerの方々にはとても感謝している。多くの人と出会い、自分を成長させることができた。九月からは三年生が抜けてしまうが、エリアスクールをしっかり頑張ってきたい。

今年の反省を生かし、来年はもっと有意義なものにすることができたらと思う。

# 貝にならない

広島国泰寺高等学校 1年  
津村 陵太

今回のグローバルスクールでの学びを通して、最も自分が伸ばすことができたと思う資質・能力は「レジリエンス」です。今回の活動は、日本人だけでなく他国の人も交流をする機会があり、海外の人と積極的に会話をしようと思っていました。しかし、いざ会話をしてみるといきなりことばの壁にぶつかって自信を失い、会話することに抵抗を感じ消極的になる場面がありました。そんな時、ナムジさんは言いました。「失敗を恐れるな」と。また、加藤先生も言いました。「1000回のミスをしなさい」と。私はその言葉に背中を押され、相手が何を言っているかわからないときは相手の行動を見て言いたいことを感じとり、自分の言いたいことを伝えるときは単語だけでも利用したり、絵を用いたりするなどの工夫をすることでことばの壁を乗り越えました。



私たちのエリアの課題は「若者の自信不足」です。私自身、自分に自信が足りず自分の意見が出せないことがしばしばあります。今回のグローバルスクールでもそうでした。しかし、先述したとおり自分の外側からのある一言によって励まされ、新たな一歩を踏み出すことができることを私は自ら体験することができました。私たちのエリアでは「若者の自信不足」に対して、「トナカイフェス」という、若者が中心になって都会と田舎をつなぐ祭りをするのを解決策と考え、実行しようとしています。私はこの「トナカイフェス」を行う際、グローバルスクールで壁にぶつかっていた私自身の体験を活かそうと思いました。

今回のグローバルスクールに参加して、私にはやる気があるのにそのやる気を行動にうつす力がないということを痛感しました。このことから、私は日常生活において、そのやる気を活かす場がある時には躊躇せず、自分の意見を出せる人になろうと思いました。例えば、授業中に自分から手を挙げて発表をする、分からないことについては先生に聞いてみる、などです。また、海外の人との会話をする際に必要な英語力をつけ、身近にいる海外の人と少しでも話せるようになりたいと思いました。そのために、まず英語の授業でALTの先生が来られた時に自分から会話をする回数を増やすことで、英語を使って話すことに慣れ、身近にいる海外の人との会話を実現したいです。さらに、困っている人を見つけた際には勇気を出して一言声をかけることができるようになりたいです。

## グローバルスクールを終えて

三次高等学校 3年  
原田 賢志

今回のグローバルスクールで私が伸びたと思う8つの資質・能力は、「地域・広島・日本・世界」と「オープンマインド」だと思います。今回のスクールの一番の魅力は、なんとといっても異なる価値観、文化を持った人々と近距離で協力できたことです。私はそこで「異文化理解の大切さ」を実感しました。“ハワイに行って何をやるの？”“留学で学びたいことは何？”ハワイへ行くと決まってから身の回りで繰り返されるこんな質問に、私は全て“世界の高校生と地域創生について語り合って、自分の価値観を広げるんだ”と答えていました。ですが、自分の価値観を広げる、異文化を理解することがどういうことなのか、なぜ大切なのかは分かっていませんでした。今回のスクールで、それを実感した体験は「Mandala Work」です。私たちのチームでは「文化の持続性」について議論しました。私たち、チーム Feel で何度も話し合ったことのあるテーマです。ですが、話し合いに参加する人がちがうことで、結果はより多様になりました。私のグループにいたニュージーランド人の女の子 Wai は、マオリの文化、言語を残すために教育のシステムを変えなくてはならないと提案していて、新鮮だなと感じました。日本では言語が消えていく危機感を持つこともないです。Wai はマオリ語における状況を細かく語ってくれ、チームみんなで納得してその意見を取り入れました。思えば Feel での活動も、同じようなことの繰り返しでした。田舎と都会での価値観の違いの中、長い議論を重ねてお互いの意見を尊重して出来たのが「トナカイフェス」でした。異文化の理解無くしては、みんなの意見を取り入れた案は出来ないということに気づきました。



エリア単位での活動に、ワイマナロでのインタビューがありました。観光都市ハワイの田舎であり、自然環境の保護を進めている町です。私はそこで、「ワイマナロのどんなところが好きか」「将来この町にどうなってほしいか」をインタビューしました。そこで一番印象に残ったのは、あるお店のオーナーの女性が使っていた“Super Balance”という言葉です。“ワイマナロが便利で住みやすい町になることはいいことだが、ネイティブハワイアンが守ってきた美しい自然を保護することも大切だ。”そこで両者の絶妙なバランス“Super Balance”を取る事が一番だとおっしゃっていました。経済的にお金を生み出そうとするなら、単純に自然を利用して観光施設などを作れば効率的に思えますが、手つかずの自然を保護するボランティア団体がいたりして、都会と田舎、日本とハワイでそれぞれの地域の持つ“Super Balance”の程度も変わってくるのだなと思いました。

パールハーバー訪問、アラモアナビーチパーク、自由行動、様々なディスカッションなど、楽しかったこと、有意義なことをたくさん体験しましたが、私がこのグローバルスクールで一番だと思う体験は、二日目の夜にみんなで“Seasons of Love”を合唱したことです。二日間を通して海外の生徒と交流する機会はたくさんありましたが、私は英語でうまくコミュニケーションがとれず、日本の友達の中に、コンフォートゾーンにばかり逃げてしまっていました。ですがみんなで大声を出し、ひとつの歌を歌うことで私を含め日本の生徒たちの険しい表情が笑顔になって、やっと五カ国がひとつになれた気がしました。そんなきっかけから、もっと友達を増やしたい、深く関わりたいと思えるようになりました。三日目の朝から、積極的にみんなと関わろう、残された時間を大切にしようとする自分が出来ました。そのおかげもあって、私にはたくさんの友人が出来ました。最終日には自然とハグを交わし、たくさんの写真を撮りました。そのとき涙は出なかったのですが、帰りの飛行機の中で思い出がフラッシュバックして、ひとりで泣きました。彼らとは今も連絡を取り合っています。来年のグローバルスクールにも絶対参加して、一生付き合っていきたいです。

今回の留学は海外の人々と国際的な分野で働きたいという私の夢をさらに強くしました。今回のスクールで関わった全ての人に感謝をして、得ることの出来たつながりを大切にして更なる成長をしていきたいです。

## グローバルスクールでの学び

三次高等学校 2年  
庭田 祐輔

私がこのグローバルスクールを通して、最も伸びたと思う「広島創生イノベーションスクールで身につけたい8つの資質・能力」は、多様な価値観を理解するということです。たくさんの国の生徒が参加したこのグローバルスクール。日本人とは違う、様々な価値観に出会うことができました。例えば、聞く態度。日本人の生徒は、しっかりと話す人の方向を見て話を聞いていました。しかし、海外の生徒は、話の途中にお菓子を食ったり、スマートフォンをいじったり、手遊びをしていたり。日本人から見れば考えられないことです。話す人の方向を向いて話を聞かないというのは、話す人に対して失礼になってしまうからです。自分も少し腹立たしい思いをしました。海外の生徒は興味のない話は聞かないだと思っていました。しかし、実際は違いました。海外の生徒は、ちゃんと話を聞いていました。そのときのテーマについての自分の意見をどんどん話してきます。つまり、日本の生徒は人の話を聞くとき、聞く態度が大切だと考えているのに対し、海外の生徒は、聞く態度はあまり気にしないけれど、その話に対し、自分の意見を持つことが大切なんだと考えていることがわかりました。世の中には、こんな考え方もあるのかと思いました。日本には絶対に体験できないことだったと思います。他にも、日本のように時間にキッチリしておらず、時間にルーズだったり、すごく適当な部分があったり。でも、私はそういう日本とは違う文化・価値観を好きになることが出来ました。だから私は、多様な価値観を理解する能力が1番伸びたのではないかと思います。



エリアスクールで設定した課題の1つは、「自信の無い若者が増えている」というものでした。私たちチーム feel は、自信のある若者を増やすためにトナカイフェスというものを企画したわけです。今回、このグローバルスクールで海外の生徒と交流していく中で、ひょっとしたらこの海外の生徒達の姿勢がありがたい姿のお手本ではないかと感じました。海外の生徒達は、何をやるにも積極的でした。議論をするときに積極的に発言をしたり、自分の思いついたことをみんなの前でやってみたり。これは、自分に自信があるからこそできるのだと思います。これこそ、私たちが目指している姿だと目で実感できました。そして、私が班で自然災害について議論していたときのことです。どのようにしたら自然災害を防ぐことができるのかというテーマにおいて、ある海外の生徒は、どうしても堤防を作る。という意見を譲ってくれませんでした。その生徒には、自分はここだけは譲らないといった強い意思あるんだと感じました。日本人が圧倒されてしまうような強い意思。私たちは、その生徒の意見を取り入れるしかありませんでした。このような強い意志がないと、自信の無い若者たちが自信をつけ、イノベーターになることはできないのではないかと思います。

グローバルスクールを通して学べたことは、前述にもありますが、世界には多様な価値観があり、それらをお互いに理解し、尊重し合うことが大切だということです。いろいろな価値観に触れることは楽しかったし、もっと多くの国へ行って、より多くの価値観に触れてみたいと思うようになりました。今後考えていきたいことは、英語力です。海外の生徒と話をしようとしても、こちらの言いたいことをうまく伝えられなかったり、相手の言っていることを聞き取れなかったりしました。とても悔しかったです。もっと海外の生徒とうまくコミュニケーションをとれるようになるために、次のグローバルスクールに向けて、英語の勉強をしっかりとしておくべきだなと感じました。最後になりますが、貴重な学びをたくさん得ることの出来たグローバルスクールに参加出来てよかったなと思いました。

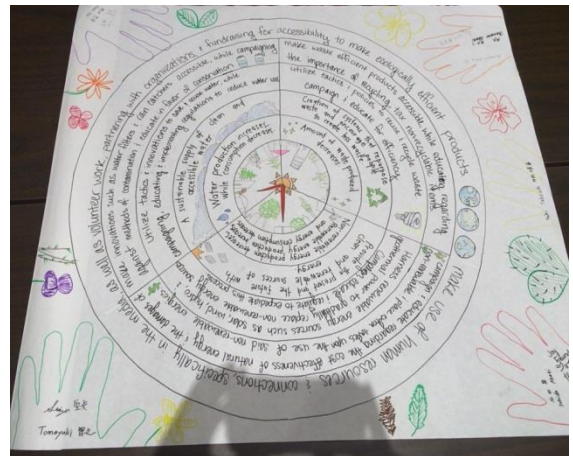


# 活動を終えて

三次高等学校 1年  
石田 星

私はグローバルスクールでの学びを通して、リフレクションする力が伸びたと思います。活動が始まる前に、英語が話せないからといって言いたいことが言えなかったとなるのだけは嫌だと思っていました。でも、いざ話そうとなると緊張で口が開きませんでした。自分が言おうとしている英文が正しいのか、頭の中で何度も考えましたが結局何も言えずに1日の活動を終わってしまいました。それが悔しくて、部屋に戻ってから活動を振り返りました。そうすることで改善点がたくさん出てきて、次の日に何を意識するのか明確にすることができました。次の日は反省したことを意識したので、少しですが他国の人と話すことができました。英語が通じ会話できたことが嬉しく、自信につながりました。そこで、リフレクションすることの大切さを改めて感じました。

私たちがエリアスクールで設定した課題は「自信のない若者がいる」ことです。その課題を解決するために「トナカイフェスを開催」します。グローバルスクール活動中、ワイマナロという地域に住んでおられる方に、地域が発展してほしいかどうかインタビューをさせていただきました。私は自分が住んでいる地域がもっと便利になって、もっと賑やかになってほしいと思っているので発展してほしいと考えていました。でも、インタビューをすると、このまま自然を大切にしてほしいという声がほとんどでした。また、この街になにか不満がありますかと訊くと、建物が多すぎると答えた方がいたので、驚きました。自然と開発のバランスが大事だと言われたときに、私は今までひとつの視点からしか見ていなかったことに、気づきました。違う視点から見ると異なる考えが出てくるので、複数の視点から物事をみることが大切だと分かりました。これは、エリアスクールで設定した課題の解決策「トナカイフェスを開催」するときにも意識できることだと思うので、実践していきたいです。



私はこのグローバルスクールでの活動を通して、たくさんのことを学び、感じました。自分に足りないことがはっきり分かったこともこのグローバルスクールでの成果のひとつだと思っています。時間を守れず、たくさんの人に迷惑をかけてしまったことなど、反省しなければならぬことがたくさんあります。決まりを守らなくてはいけないという自分自身への厳しさが足りなかったと感じています。時間を守ることが信頼関係を築く第一歩、このことを忘れずに行動していきたいです。他国の人からも多くのことを学びました。グループ内で発表する機会があったとき、私が「うまく英語で話せないけど・・・」と言うと「大丈夫、問題ないよ」と言って、私の下手な英語も真剣に聞いてくれ、とても嬉しかったです。英語ができる、できないは問題ではなく、コミュニケーションをとろうとする姿勢が大事なんだと気づきました。でも、英語が得意ということに越したことはないので、今まで以上に英語の勉強に力を入れていきたいです。また、ナムジさんが前に出て全体に質問を投げかけられたとき、外国の方がすぐ手を挙げて発言していました。恥ずかしさなく皆の前で発言しているのが、とても羨ましかったです。これからは、自分の行動について考えていきたいです。今の自分は積極的に動いているといえませんが、自分の行動がその場の雰囲気にならないうまく考えていきたいです。来年のグローバルスクールでは、もっと自分から話しかけて他国の人とコミュニケーションをとり、発表も積極的にやっていきたいと考えています。

## 意思表示

三次高等学校 1年  
梶山 日向

今回のグローバルスクールを通して、自分が伸ばすことができたと思う力は「リフレクション」です。今回の活動では、5か国の人と意見を交換する機会が多くありました。そこで求められたのは、自分の意思をしっかりと持ち、それを話し合いの中で共有できるかです。自分自身、意見を積極的に発言して話し合いに参加しようと思っていましたが、英語という言語に苦戦し英語を聞き取ることで精一杯でした。また、自分の意見を伝えるために英訳していると次の議題に入ったりと、自分の意思表示ができませんでした。とても悔しく感じました。この体験から自分は、英語を自分のものにできるよう、本気で勉強しようと思いました。そのため、今回の活動において自分は「リフレクション」の能力を伸ばすことができたと考えられました。



私たちのエリアで設定している課題は「若者の自信不足」です。そこで今回の活動でこの課題に関係があると思ったことは、自然災害の対策についてです。今回の活動の中に事前にアンケートを行い自分達、個人が興味のある問題に分かれてディスカッションをするという場面がありました。自分は自然災害がテーマのグループで、まずゴール、つまりこの問題の最終的な在り方を生存者0にし、目標や戦略など様々なことを話し合いました。その中の戦略で自分達は、人々の災害に対する意識を高めるために若者に呼びかけを行うという案を出しました。ここから何を思い、何が言いたいのかというと、若者の活躍の場はこの先どんどん増え、その活躍のために必要なのは若者の自信ではないだろうかということです。この思いと自分達の問題内容の関連性を無理やりですが考えました。

自分達の問題である「若者の自信不足」に対して自分達が考える解決策は、「トナカイフェス」を行うことです。この「トナカイフェス」は若者が自信を持つことを目的としています。自分は、今回のディスカッションで、この目的を達成させると同時に、他の分野でも若者の自信が役に立たないだろうかと思い、広い視野で考えたうえで、自分達の問題を解決させていこうと思いました。

冒頭でつぶった通り、自分は今回の活動を通して、リフレクション能力を伸ばしたり、今後の自分に何が必要なかを考えることができました。これからまたさらに考えていきたいことは、自分には何ができるかです。そう思った理由は、現在、自分はこの活動を行うことで、この活動にどう役に立っているか、自分が多くの刺激を受けるだけでこの活動を行う意味について考えられていないからです。この考えに大きく関わっている問題は、英語です。英語が自由に扱えない今の自分は、英語を理解している人に比べて、この活動に参加できませんでした。また、話し合いで大切な相手の発言に対する尊重、理解を踏まえ、英語能力の向上を目標にしたいと考えています。

## グローバルスクールを終えて

三次高等学校 1年  
朽木 美涼

グローバルスクールでの学びを通じて、特に伸びたと考える資質・能力はオープンマインド「多様な価値観があることを理解し、よりよい人間関係を構築する力」です。私がこの資質・能力伸ばすことができたのは、マンダラの製作に取り組んだ時です。私たちのグループの課題は「homeless」でした。ゴールを homeless 全員に安心して暮らせる場所があると設定し、outcomes, objectivesなどを決めていきました。マンダラを作る時、Adeya という女の子から学んだことがありました。マンダラの説明を壇上でされている間、彼女は絵を描いていてあまり関心がないように思いました。それを海外の先生が見つくと、その先生は「Beautiful!」とおっしゃり、私はなぜ先生が怒らないのか不思議に感じました。そして、説明が終わり、いざ活動に入ってみると、彼女は人が変わったかのようにその場を仕切り、マンダラの製作を進めてくれました。私はそこで価値観の違いを感じ、学ぶことができました。彼女も、彼女の絵を見た先生も説明を聞くことにあまり重きを置かず、そのあとの活動に積極的に参加することのほうに重要性を感じているのだと分かりました。マンダラを一緒に作った Adeya, Toli, Te Kurapa や、他の活動を一緒にした海外の学生とはたくさん会話をすることができました。それは、活動を通じてそれぞれの価値観の違いを理解し、相手のことをもっとよく知りたいと思えたから、成り立ったことだと思います。このようなことから、私は多様な価値観があることを理解し、よりよい人間関係を構築する力が伸びたと考えます。



私のエリアB, チーム feel では“若者が自分に自信がない”という問題に取り組んでいます。ですが、今回、海外の学生と交流すると、日本の若者とは違う、目標にするような点がいくつもありました。周りを気にしたり、恐れたりせず、自分の意見をはっきり述べる点。大勢の前に出てもいつもとかわらずリラックスしている点。これらの点のように、彼らは大勢の前でもそうでなくても自分の意見を言うことに抵抗を感じていないのだと思います。なぜこの違いが生まれたのかを考えてみると、Partnership for Youth のような活動が多く行われているか、行われていないかの違いではないかと考えました。だから、今回のような大きなプロジェクトを何回も開催するのは難しいと思うけど、日本でも、持続可能な社会についてなどの簡単ではないけれど考えていかなければならない問題について考え、大勢と意見を交流できる機会を増やせばいいのではないかと思います。また、feelには“都会と田舎をつなぐ”という目標があります。そこで私たちはハワイでのエリア活動で現地の人にインタビューをしました。インタビューを通じて感じたことは、ハワイの人はみんながハワイのことを愛し、大切に思っていることです。田舎だから、家からお店が遠くても、開発を進めるより自然を保護したいという方が大勢いらっしゃいました。都会と田舎で住んでいる地域が違ってても、同じ思いがあるから、ハワイの自然は保たれていると感じました。私たちも、広島のと田舎をつなぐために同じ目標に向かって頑張りたいです。

私は、グローバルスクールで多くの成果を得ることができました。一つの問題を様々な目線から考えること、英語を使うことを怖がらないこと、自ら積極的にコミュニケーションをとることなど、グローバルスクールに参加する前と今とは違う自分になれたのではないかと思います。今回得た、新たな価値観や考えをこれからの活動につなげていきたいと思っています。そして、partnership for youthに参加できて本当に良かったです。ありがとうございました。

## グローバルスクールのまとめ

三次高等学校 1年  
横山 遥

私が今回のグローバルスクールを通して伸びたと思う資質、能力は3のコラボレーションです。

今までの私は、自分の意見があっても言わないなど、話し合いに参加するということに対する責任感が足りていませんでした。しかし、海外の生徒がみんなの前で自分の意見を堂々と言うのを見て、ナムジさんや林史先生のメッセージを聞くうちに、自分は何をしにハワイに来たのか考え直すようになりました。それからは、分からないことがあったら誰かに質問するなど、間違えることもあったけど自分の役割を果たす努力をすることが出来ました。たくさん対話することでよりよいチームの目標の達成に近づくのだと思いました。これからは話し合いに参加しているメンバーの一員という自覚と責任をもって話し合いに積極的に参加していきたいと思います。

私の所属しているエリアでは、都会と田舎をつなぐというのがテーマになっています。だからまずは、自分の住んでいる地域についてはどういうふうになっているのかを知ることが大切だと思いました。

3日目、Ka Iwi 海岸の保全のリーダーの方からハワイの自然について話を聞くことが出来ました。自然が持っている資源を有効活用し、まちをもっと発展させようという動きがあるのを、現地の方は阻止しようとしているという話でした。まちがもっと便利になって賑やかになることよりも、今あるそのままの自然を守りたいと思っておられ、郷土を愛する意識がとても強いなと思いました。



地元の方にも、自分の住んでいるハワイについてインタビューしました。そのインタビューで、地元の方は自分の住んでいる地域のことを好きということが伝わってきました。自然を開発するのもいいけれど自然を維持することとのバランスを考えることが大事だともおっしゃっていました。

今回ハワイでKa Iwi 海岸の保全のリーダーの方のお話を聞き、地元の方にインタビューをして、私は、都会に住んでいる人に田舎でしか出来ない体験をやらせよう、田舎に住んでいる人に都会でしか出来ない体験をやらせよう、その前に自分の住んでいる地域にも目を向けてもらいたいと思いました。ハワイで言うと、美しいビーチや海岸などたくさん魅力的なところがあります。その地域ならではのものについても大事にしてもらいたいです。

グローバルスクールでは海外の生徒たちと交流するために英語を使わなければならない場面が多かったと感じました。議論するには学校で習った英語や英単語だけでは難しく、うまく伝わらなかったときがありました。恥ずかしかったし、とても悔しかったです。自分には英語力が全然ないということを知るきっかけになったと思います。しかし、前向きに考えると、相手に物事を伝える方法はいろいろあるということを実感できるきっかけにもなりました。相手にうまく伝わらないとき、水筒を使うということを伝えるために自分の水筒を見せる、関係する単語を言うなど工夫することが出来ました。

自分が一生懸命相手に伝えようとする、相手も自分が何を伝えたがっているのかくみ取ろうとしてくれました。そこから、伝わるか伝わらないか関係なく、積極性があるかが大切だということを感じました。それでもやはり、海外の人とコミュニケーションをとるには英語を使うことが一番いいと思うので、今後、来年のグローバルスクールに向けて英語を勉強していきたいです。

## 世界から日本を考える一週間

安古市高等学校 3年  
萩山 雅英

私が今回のグローバルスクールで伸びたと思う「広島創生イノベーションスクールで身に付けたい8つの資質・能力」はコラボレーションです。今回私は一週間という限られた時間を大切にしようと思う前から決めてこの活動に臨みました。英語が得意ではない自分にとってコミュニケーションを図る事は一番初めの壁でした。そもそも日本語でさえ分かりあうのが難しいのにそれを英語でやることや話自体が分からないことが私にとっては不安やストレスでした。それでも、できないなりに挑戦しました。自分が英語はできないけどやる気はある事を伝えました。そうしたら、周りの英語ができる子が訳してくれたり、海外の子が易しい英語に直して説明してくれたりと支えてくれました。私はこの時、同じ目標に向かって協働できていると感じました。私は同じ目標を持ち協働すればどんなことでも乗り越えられると思いました。

私たちエリアBの課題目標の一つに「都会と地域をつなぐ」というものがあります。今回、ネイティブハワイアンの方が多く残る山間地域にいき、そこでインタビューをしました。そこで頂いたお話はどれも日本にも共通して言えることであり、私たちのこれから進めていくフェスの中心となる概念でした。私が聞いた中で一番心に残っている言葉は「わたしたちはこのコミュニティを愛している。だからこそ君たちみたいな人に聞かれても語るものを持っているんだ。」といわれた時に深く感動しました。このようにもっと自分達のコミュニティの素晴らしさを伝えたいと思う人の気持ちを届けるフェスを作る必要があると感じました。それと同時に自分たちからそのコミュニティに歩み寄る必要性を感じました。「良いインプットなきところに良きアウトプットなし」とふと頭にその言葉がよぎりました。よさを伝えようと思ったらもっと知る必要があるなと感じました。今回のインタビューは、インタビューの内容もそうですがハワイの地域の人とのかかわりがこれからのトナカイフェスの制作の上での大きなきっかけになると思います。



私が今回のグローバルスクールで得られたものは様々な国の生徒や先生との出会いです。5カ国の生徒が集まりこれからの未来を創る自分達で真剣に未来について考えていくこの活動は、私の視野を大きく広げこれまでの価値観を改める機会となりました。私はこの中でこれからの未来をみんなと一緒に作っていくのが楽しみになりました。ただ、後悔していることは英語の能力が低いがためにとれないコミュニケーションがたくさんあったことです。私は英語ができなかったただそれだけのことでどれほど困るかということをもっと痛感しました。私がハワイに行って日本人生徒を見て思ったことはハワイに来てまで国境を超えられていないなと感じました。自分も含め、同じ決まったメンバーで固まって行動していて、これではハワイまで来た意味がないなと感じました。結局みんな仲良くなっていたのですが、英語ができたならもっと深いところがかかわれたのかなと思うと、英語の勉強は必須だなと感じました。次にこのような世界中の人とかわる活動に巡り合えた時、今回のようではなくもっと英語でコミュニケーションが取れるようにこれから英語をもっと勉強しようと思いました。また、世界にでてもっといろいろな事を学びたいと感じ、大学に進んでも留学や海外の大学院を目指すなどグローバルな場で生活したいと思うようになりました。

# グローバルスクール

安古市高等学校 2年  
木ノ内 桜子

ハワイでのグローバルスクールを通して、悪い意味でも良い意味でも海外と日本の多くの違いを知ることができました。まず控えめで謙虚な日本人に対し、外国人は自分に自信があって堂々としていました。話し合いの場でも、気を遣い周囲の反応やその場の雰囲気をはかる日本人に対し、外国人は思いついたらすぐ発言し、自分の意見を突き通していました。外国人のような積極性は確かに良いが、外国人は相手の意見を尊重しないので、その積極性と日本人の他者への思いやりの心とを合わせたらとても良い討論になるだろうと思いました。また外国人はとても時間にルーズでした。初めのほうは、なんで時間を守らないのかを不思議に思いましたが、今は違いを受け入れ、違いを乗り越え、違いをプラスにしていく事が大切だと思いました。戦争は誤解から始まるように、多様なとらえ方、多様な視点を受け入れることが必要だと思いました。オープンマインドでありたいです。

アリゾナ記念館では、生で語り手の話を聞くことにより、より深く当時の様子や状況を知ることができました。今まで私は広島は原爆が落とされた都市であって、ずっと受け身の状態で習ってきていてアメリカだけが悪いと思っていましたが、日本も攻撃していたことを知りがっかりしました。二度と戦争を起こさないためにも両国の歴史を知ることが大事だと思いました。また一番印象に残っているのは、語り手の人が当時仲の良かった日本人の友達を70年以上超えた今も思い続けているということです。戦争は怖いだけでなく、人の心も建物も破壊する恐ろしいものだなと改めて強く感じました。そして親友と襲撃を計画した人の名前が一緒でも決して疑わないところをすごいなと思いました。



フィールドワークでは、自然保護と経済発展のバランスについて考えさせられました。ボランティアの方のお話からはとても熱意が伝わってきました。エリアごとの自由時間で行った小町でのインタビューも、とても良い経験となりました。住民の生の声を聴くことができました。突然のインタビューにもかかわらず、どの人も親切に具体的に答えてくださいました。その答えは私たちが広島でインタビューした時の回答と似ており、国が違っても山間部と都市部で起こっていることに少しの共通点はあると思いました。

またグローバルスクールでは「時間」についてとてもよく考えさせられました。時間を守れない人は信頼を失う、まさにその通りだと思いました。これから「トナカイフェス」を企画していくうえでもっとも重要になってくることだと思えます。また今後の人生でも様々な場面で[時間を守る]ということは欠かせないと思えます。「time is money」という言葉があるけれど私は「time is life」だと思いました。限られた時間の中であることを成し遂げるには必ず諦めなければならないこと、我慢しなければならないことがあると思いました。学校の文化祭でさえ、あんなにも大勢の先生と生徒リーダーが集まり企画しているのに、私たちはそれをfeelのメンバーだけで、自分たちの力だけでやろうとしている、とても大きい、大変なことだとの自覚が足りなかったと思いました。これからもっと忙しくなると思うけど、「限られた時間」を意識して取り組んでいきたいです。

そして先輩たちのように、目標でも夢でも進路でもいいので将来のことについて語れるように自分のしたいことを見つけられたらいいなと思いました。

# ハワイで学んだこと

安古市高等学校 2年

林 菜々子

ハワイでの活動は受動的なものだけでなく、自分たちの考えを見える化する活動が多くあり、その面で様々な学びがありました。

今回の活動全体を通して英語の大切さを改めて実感しました。初日の方で日本の生徒だけが英語でコミュニケーションをとることを恐れて、ほとんど発言できない状況だったとき、日本の生徒は意欲がないと思われたことがとても悔しかったです。しかし、後半にはなんとかして自分の意見を伝えて理解してもらおうと工夫する姿が見え始め少し成長できたかなと思いました。海外の生徒は積極的に自分の中で思いついた意見はどんどん発言していました。私の班でも日本人の意見はすぐに捨てられてしまっていました。意見にたいして良い悪い



をはっきりとつけるところが日本での話し合いと違っていて最初は戸惑いました。これらのことに対する校長先生のアドバイスにとっても共感できました。それは、どんどん自分の意見を押しってくる海外の人にまっこうから立ち向かうのも一つの手だが、相手の意見を落ち着いて冷静に聞き、そこにいかに鋭いつこみをいれるかが大切であるということです。これは日本人のいいところを取り入れたとてもいい方法だなと感じました。日本人としてのいいところを生かしていくことが大切なんだと改めて気づかされました。

パールハーバーでは、いままで習ってきた戦争とは全く逆の視点から見た戦争について学んだことによって得た知識はとても新鮮なものでした。最初は正直、「アメリカは原子爆弾を落とした国なのに」とか「日本の方が被害が大きい」とかそんな複雑な思いばかりでしたが、実際に真珠湾攻撃を体験した方の話を聞いたときに考え方が変わりました。どちらが悪いとかひどいとかが問題ではなくて、昔の戦争が原因で国どうしがお互いに悪いイメージを持つことは間違っていると考え直しました。一方の視点から1つのことを見るのではなく、より多くの視点で物事を見つめることによって知識が膨らみ、理解、考えがより深いものになるということをここで実感しました。

エリアスクールでの活動では反省しなければならぬことが多くありました。先輩方の最後の晴れ舞台をいいものにできなかった私たち2年生はもっと責任感や自分たちの力で引っ張っていくという自覚が必要だと感じました。最後まで先輩に迷惑をかけてしまって、つらい思いをさせてしまって申し訳ない気持ちでいっぱいです。そして、メンターの松原さんや先生方をがっかりさせてしまったことを忘れずにこれからの活動をさらに頑張っていきます。そして、このエリアスクールに生かせることは地域の保護活動についてです。ハワイのきれいな景色を守るために活動していらっしゃる方の話をきいて、その地域に住む人自身が自分の地域を守るという使命感をもつことが大切だということを感じました。そして、その思いを実行に移していかなければ何も始まらない。私たちにはまだできることがたくさんあるのではないかと感じました。また、SNSについての話を聞く中で、宣伝などを目的にSNSを使うことはとても効果的なことであり、SNSを最大限活用する様々な方法があるとわかりました。これは、すぐにでもエリアの活動に生かしていきたいです。

ハワイでは、自分の思っていた以上に言語の壁があり、悔しい思いをしたことも多々ありましたが、たくさん成長できたとてもいい経験でした！！英語に力をいれて、世界を視野に入れた考え方ができる人になりたいと強く思いました。

## 日本人と海外の人の違い

安古市高等学校 1年  
岡村 康大

私が今回のグローバルスクールで伸びたと感じる力は、「多様な価値観があることを理解し、よりよい人間関係を構築する力」です。私は今回の研修で人生初の海外に行き、そして海外の人と一緒に話をしたり、一緒に行動したりしました。その中で私は、日本人同士だったらこんな考え方は生まれなかっただろうなということや、海外の人の積極性というものに驚かされてしまうばかりでした。他にも、よい面だけでなく悪い面もあり、人の意見を尊重しないことや、人の話を聞く時の態度が悪かったりしました。このことから、日本と海外では価値観に違いがあるのだなということをととも感じました。最初はその違いに戸惑ってしまいましたが、海外の人はこのような考え方をもっているのだと理解し、そのうえで、たくさん話をしたり、遊んだりすることでよい人間関係を構築することができたと思います。

私たちが設定した課題は、都会と田舎の結びつきについてでした。私はその中でも田舎の良さについてハワイのカントリーサイドの方々にインタビューをしました。すると多くの人が、「私は生まれ育ってきたここが大好きだ」や、「田舎は人と人のつながりがあるといい」、「ここは自然が豊かで非常にいい場所だ」などの言葉を口にしていました。私は私たちのインタビューに生き生きとしながら答えてくださる方々を見て、本当に自分の故郷が大好きであるという「熱い地元愛」を感じました。日本の田舎では、若者の人口流出が深刻化しています。この課題を解決するためには、若者が「熱い地元愛」をもってくれるような地元の良さを引き出していかないといけないと強く思いました。



私が今回の研修を通して一番学んだことは、やはり日本人と海外の人との違いです。それは上でもあげたように積極性や他人の意見の尊重などのことです。今回の研修では、私を含む多くの人が英語があまり話せず、海外の人の勢いにのまれてしまっていました。しかし、英語というものはコミュニケーション手段の一つでしかなく、話せないからといって貝になってはいけません。また、海外の人は自分の意見を通そうとする人が多く、話し合いの中心は主に自己主張であったため、この部分でも勢いにのまれていました。しかし、もしもう一度このような機会があれば、次は相手の意見で自分の納得のいかない部分には質問するなどして、受け身のままでいることがないようにしていきたいです。



## これから「自分の生活」と「世界」について

安古市高等学校 1年  
谷川 壘

私は、グローバルスクールの活動を通して世界の諸地域の問題に取り組む力が、自分の中でよりいっそう深まったと思います。それはとくに海外の学生たちと、自分の住む国、地域について多く話したからです。それは例えば、昔の遊びや伝統的な踊り、衣装、飾りなど普段気につけないような小さなことでした。しかし、普段気にしないことだからこそ、新しい発見、自分の知らない文化などに出会い、自分の中に新たな視点が生まれることを感じられました。さらにそれまで見えていなかったものや、思っていた以上に大きな問題に気付くこともできました。そこで、私は違う視点に触れたことで得た経験や力で、世界に情報を発信し、全体が協力して課題に取り組めるよう、努力していこうと思います。また、会話の中で、自分の使う言葉以外でのコミュニケーションの難しさを感じました。ジェスチャーや文字、電子辞書、携帯の翻訳機能など、たくさんを使って、ようやく会話が成り立つほどでした。そんななかでも、世界の問題について、自分の意見を言い、また相手の意見を聞くことで、課題に取り組む力が深まっていると思いました。

私たち、エリアBの活動目標に「都会と田舎をつなぐ」ということがあります。その目標の達成に向けて、エリア活動としてネイティブハワイアンが多く住む地域に、インタビューへ行きました。そこで、「この地域のよいところはなんですか。」や「ワイキキとこの地域にどんな差がありますか。」と質問すると、そこに住む人たちは、環境の面での回答をしてくださりました。広島に住む人に聞くと、経済、社会の在り方などについての回答が多かったです。やはり住んでいる場所が違ると、そこで生まれる価値観にも差があり、それを私たちの活動に取り入れられたことはとても大きな前進だったと思います。



今回のグローバルスクールで、私は他国との交流が価値、必要性、人生を大きく変化させる力を持っていることを、身をもって知りました。今までの生活の中では絶対に得られないような刺激や全く見たことのない景色など、自分達が守り、よりよく変えていかなければならない「世界」というものに触れられ、自分もかわったように感じます。自分の知った新しい世界を、まずは自分のまわりにいる人に、言葉や文字という今回のグローバルスクールで学んだ、大切なコミュニケーションの方法で伝え、興味を持ってもらいたいと思います。日本に持ち帰った多くの情報を自分の中で整理し、これから変化していく社会で、自分の追い求める世界の姿を見失うことのないように力をつけていきたいと思っています。とくに私は経済的な問題について取り組みたいと思っているので自分のエリアの取り上げる「都会と田舎」、ハワイで学んだ人の手では変えられない「環境」なども考え方の中に入れていきたいと思っています。

さらに海外で活動するために必要となる英語でのコミュニケーションにも力を入れて、自分なりにジェスチャー、文字などもう少し工夫しようと思います。ハワイでの日常生活で見つけた、日本の生活との違いから、学べることをすべて吸収し、新たなものをつくっていききたいです。

# 言葉の壁を超えて思いを伝える

安古市高等学校 1年

日高 輝大

私は今回のグローバルスクールを通して、世の中の諸問題について理解し、取り組むべき課題を設定する力が伸びたと実感しました。事前の自分の地域に関するアンケートでは、問題点がなかなか思い浮かばず、地域や世の中に対して実はあまり関心が持てていなかったのだと反省していました。しかし、ハワイで海外や他校の生徒と意見交流をする中で、少子高齢化や地球温暖化などの大きな問題から、空き家の増加や自然環境の保護といった小さな問題まで話し合い、たくさんの課題を発見できました。また、チーム活動を通して徐々に海外の生徒と英語でコミュニケーションをとることができるようになりました。最初は日本語をそのまま直訳しようとして難しく考えてしまいました。しかし「伝えたい！」この気持ちが最も大切だということに今回気づき、私は簡単な英語と身振り手振りや絵を描いたりするなど工夫して自分の思いを伝えました。このようにして自分の思いを伝えることにより、海外の生徒と目標を共有し、その達成に向けて他者と協働する力も伸びたと考えています。また、各国の文化交流では海外の生徒と一緒に歌を歌ったり、伝統あるダンスを踊ったりしました。日本人は折り紙やけん玉などを海外の生徒に教えました。私は多文化を尊重し合いながら積極的に取り組み、友達もたくさん作ることができ、楽しく活動ができました。



私たちエリアBは都会と田舎をつなぐことを課題として「トナカカフェ」をエリアスクールで計画しています。ハワイでは、あまり開発されていない少し田舎の地域にインタビューをしに行きました。そこでは、地元（田舎）の良さと問題点、ワイキキビーチなど（都会）との繋がりの3つの項目について、大人から子供まで年齢性別関係なく質問しました。返ってきた良い点の答えは主にきれいな海が家の近くにあり自然がいっぱいなので自由にたくさん遊べ、気持ちの良い暮らしが送れることでした。問題点は、近年観光客が自分たちの地域にくる機会が増え、昔に比べてうるさく感じられるようになったことなどがあがりました。繋がりについては質問の内容が難しかったので自分の班は回答が得られませんでした。もし自分が逆の立場だったら、知らない外国人に囲まれてこのような質問をされたら答えられないだろうと思い、聞き方を見直す必要があったと反省しました。そんな場面もありましたがこの調査から、ハワイの人達は地元のことをよく知り、愛していて自然をととても大切にしていることが分かりました。私は今後のエリアスクールでは相手が答えやすいインタビューの仕方を工夫して行い、地元（広島）のことをもっと知り「トナカカフェ」実行に向けて同じチームの仲間と協力して進めていきたいと思っています。

今回のハワイでのグローバルスクール全体を通して印象に残った活動があります。それはマンダラセッションです。私たちの班は自然災害について話し合いました。今までは決まった順序がなく話し合いの軸がぶれていましたが、学習→活動→課題に対しての意見を持つ→表現する→結果→ゴールというマンダラに基づいたやり方で行えばスムーズに進められるといった話し合いの仕方を学んだことです。これを、今後のエリアスクールで話し合うときにも生かしていきたいと考えています。また、世界の未来のことをもっと深く考えていきたいです。個人的には、この活動を通してまだまだ英語力が全然足りていないと感じたので、日々英語の勉強を今まで以上に頑張り、来年の夏、広島に海外の生徒を呼ぶときには、今年よりもたくさん話して意見交流をしたいと強く思います。

# グローバルスクール

安古市高等学校 1年  
丸口 桃夏

私にとって今回が初めての海外でした。初め、不安などは全く無く、期待、楽しみという気持ちが多くありました。「学校の授業で英語を習っているし、英語が母国語でない生徒もいるし大丈夫だろう」と、思っていました。しかし、たくさんの国の生徒と英語を使って話し合いをしていく中で、自分がどれだけ英語が話すことができないか、とても実感しました。初めての話し合いをした時、私の班には3人の海外の生徒と5人の日本人の生徒がいました。その時、私は戸惑ってしまって、話し合いに参加しても何も言えない状態で、呆然としていました。すると、海外の生徒に「なんで日本人は自分の意見を言えないの?」と言われ、とても悔しい気持ちになりました。



そこから私は、携帯の翻訳機を使ったり、電子辞書を使って単語だけでも何かを伝えようとしていました。それでも伝わらない時は、絵やジェスチャーを使って伝えました。最初はそれでも伝わらないことが何度もありました。だから、先輩や、先生方に英語に訳してもらって伝えてもらったこともありました。誰かに頼るとするのは、悔しかったです。自分の意見が全く伝わらない方がもっと悔しかったので頼ってしまうことが何度かありました。海外の生徒は自分の意見を必ず持っていて、その意見を誇りに思い自信を持っていると感じました。日本の生徒はその逆ではないですが、海外の生徒よりも自分の意見に自信を持っていないように感じました。しかし、日本の生徒はゆっくり話し、相手の意見を尊重しつつ、自分の意見を言うことができます。そして、相槌を打ちながら、少しでも相手の意見を理解しようとしています。そこは、日本人の生徒のいいところだと思いました。そのいいところは海外に行くまでは気が付きませんでした。海外に行くまでは、自分の意見をはっきりと口に出せる海外の生徒たちがかっこいいと思っていました。今も思っています。しかし、今は、相手の意見を尊重しながら話を聞く事のできる日本人であることを誇りに思えるようになりました。

次のグローバルスクールまでは1年あります。たった1年しかないと思うか、1年もあると思うかによって自分の英語力は変わってくると思います。次のグローバルスクールでは、自分の意見を自分で言えるようにしたいので、この1年間自分ができる精一杯のことをして、自分をより成長させていきたいです。

## グローバルスクールを終えて

吉田高等学校 2年  
岩見 咲良

私が今回のハワイでのグローバルスクールの学びを通して伸びた資質・能力は「プロトタイプとリファイン」です。今回の活動の中で、マンダラを作りました。私たちが設定した課題は“sustainability of culture”でした。私は海外など、さまざまな文化に興味があったのでこの課題を選びました。世界の中にはたくさんの文化や習慣があって、それを次の世代に伝えていく方法や、さらにこの先もずっと守り続ける方法を考えました。私たちが守っていく文化として、言語 (language)、宗教 (religion)、農業 (agricultural)、伝統芸能 (art)、の4つにしました。ここで言語の課題として挙げられたのは、ニュージーランドではマオリ語を守っていかなければならないけど、学校の授業ではマオリ語を学ぶ授業はなく、伝えたり、学んだりする環境が整っていない。という問題でした。だから私たちはマオリ語など、伝統的な言語を伝えることが出来る人、先生を作って、それを学べたり、伝えることが出来るようにしようと考えました。農業では、農家がいなくなったり、やめて途絶えてしまうと作り方とかも分からなくなってしまうので、農家を守る、継承して持続させようと考えました。伝統芸能でも、知っている人を守ってずっと継承していく必要があると考えました。宗教では、今たくさん問題があって危険なことをしている人も多いから、尊敬して敬意を払って大切に教えを守ることが必要だと考えました。言語、農業、伝統芸能を守っていくなかで、伝えていくべきである若者の存在が重要であると考えました。だから、若者が持続可能的に学ぶことの出来る場を作ることを目的としました。その結果、移り代わりのシステムをつくって、持続可能なものにしていくという1つのマンダラを作りました。



私はこの時、ニュージーランドの生徒の隣に座っていて、積極的に自分の意見をどんどん発言していく海外の生徒につられて、いつもより自分の意見を発言することができました。マンダラを作っていく中で難しかったのは、思っていることをうまく言葉に表現できないことでした。簡単な単語を見つけたり、うまくマッチする言葉を探したりするのが難しかったです。だから、考えが一致したり、うまく共有できたときは達成感が大きかったし、嬉しかったです。何度も何度も書き直して改善したり、デザインが得意な生徒がうまく書いてくれたり、英語で困ったときには周りにいる人が助けてくれたり、みんなで協力してマンダラを完成されることが出来たので良かったです。

エリアスクールで設定した課題と解決策に向けて影響を与えた内容については Waimanalo でのインタビューです。チーム feel は都市部の学校と山間部の学校の広い範囲のエリアで、チームの目標の中に都会と田舎を繋げるというのがあります。私たちはハワイの研修の間はわりと都会のほうで過ごしていました。Waimanalo に行く途中の景色が、山が多くなってきたり、人をあまり見かけなくなってきたりとかは日本の田舎の感じと似ていると思いました。町を歩いていると、私たちが珍しいのか出会ったほとんどの方が気さくに話しかけてくれて、本当に優しくてあたたかい人たちばかりでした。人のあたたかさは日本も一緒に繋がりが強いと思いました。私はインタビューの中で「あなたの地域が抱えている問題はなんですか？」と尋ねました。回答の中には、若者が都市部に行ってしまう、人口が少ない、薬物など私たちがエリアで考えている問題と似たものがありました。でも一番多かった答えはそれではなく、「ない。」という回答でした。「ハワイは良いところだから問題なんてないよ」と笑って答えてくれました。また、今住んでいる地域に満足しているから都会には行かなかったり、都会のことを知らないからという理由で都会との違いが分からないという人も多くいました。ここが日本とは違うところだと思いました。日本でも自分の住んでいる地域の良さをよく知っていたり、満足できる地域になれば、Waimanalo で出会った人たちのように、抱えている問題なんてないよと答えることが出来るようになってほしいと思いました。ハワイでインタビューしたことは自分たちの課題を解決するヒントになると思いました。もう1つ私たちがこれから改善していかなければならないと思ったのは時間にルーズなところです。これまでの活動の中でも、大切な人を決めるのは feel が一番遅かったし、今考えているフェスのことでも自分たちが大まかに考えた計画とすぐずれていて、本当にこんな調子で間に合うのだろうかと思っています。全体スクールでは与えられた時間に間に合わず、夜遅くまで集まって考えることが多いし、普段のエリアスクールでも話し合いが終わらず、時間がどんどん過ぎてしまいます。計画通りに時間を守れないことが、どれだけ信用を失って、どれだけ多くの人に迷惑をかけてしまうのか、この研修で改めて実感しました。もう二度と同じ失敗をしないためにも、エリアスクールが考える時間ではなく、出来るだけ意見を出し合って共有し、まとめて次に繋げていく時間にしたいから、普段から学校でもたくさん考えてエリアに関わる時間を増やそうと思いました。

グローバルスクールでの学びを通して得られた成果は、自分の考えを積極的に発言してみることです。それがいい方向に繋がっていくこともあると分かったので、思っていることを言わないのもったいない思うようになりました。何か言ったら誰かが繋げてくれるかもしれないし、うまく言えなくても誰か助けてくれると思うのでこれからのいろんな場面において自分から発言することを頑張ってみようと思えた一週間でした。ハワイで体験したり学んだことは本当に大きくて多かったです。たった一週間で行く前と行った後との自分は変わったと思いました。日本に帰ってきて外国人と話す機会がありました。そのときに冷静に対応でき、ハワイでの経験があったからかなと思いました。私たちのチームは三年生に頼ってばかりだったので、これから自分たちでうまく進めていくためにどうすれば良いのかを考えていきたいです。

## グローバルスクールで学んだこと

吉田高等学校 2年

大内 くるみ

私が、今回のハワイでのグローバルスクールの活動を通して伸びた資質・能力は2つあります。1つ目は、プロタイピングとリファイン「自分の意見や考えを見える化し改善する力」です。5日目から6日目の午前中に、グループワークで課題を設定し考えを曼荼羅模様で表す活動がありました。6つの円を書き円の中心をゴール、2つ目の円に結果、3つ目の円に目標、4つ目の円に戦略、5つ目の円に活動、6つ目の円に学習、学びを書き曼荼羅模様を作るという活動でした。はじめは何のことかわからず、なにをすればいいんだろうと思いました。私たちのグループは「持続可能な文化の伝承」をゴールにして考えました。最初にゴールを明確にすることによりそのゴールに対してどのような行動をすればいいのかをみんなと共有しながら考えることができました。この方法を使うことで、考えをわかりやすく見える化することができ、その上みんなと共有することもでき、意見をより良いものに改善していくことができました。だから私は自分の意見や考えを見える化する時、この活動で学んだ6つの円を用いた方法を使いたいと思います。このことから私は「自分の意見や考えを見える化し改善する力」が伸びたのではないかと思います。2つ目は、「世の中の諸問題について理解し、取り組むべき課題を設定する力」です。私は、今回の研修で初めて真珠湾攻撃について詳しく知りました。それまでは、広島や長崎であった原爆投下、沖縄での地上戦についてしか知らず、日本の被害にしか目を向けていませんでした。しかし、今回日本が攻撃をした真珠湾攻撃について体験者の話を聞いて、日本の加害について目を向けることができました。戦争は過去のことであっても決して忘れてはいけないことだと改めて思いました。このことから、現在の問題だけでなく過去の問題にも目を向けることが大切だと思いました。



エリアスクールで設定した課題と解決策に向けて影響された体験は2つあります。1つは海外の学生との交流です。私たちは、都会と田舎を繋げ、自分に自信のない若者たちに体験の場を提供しようと、トナカイフェスを開催しようと企画しています。海外の学生さんは、とても積極的に意見を出し、ハキハキとしていてとても素晴らしいと思いました。私はこの研修で特に語学力や積極性の面でとても良い経験をさせてもらいました。だから、トナカイフェスでもその様に何かしらの面で若者たちの体験の場として何かを得られるような企画にしようと思いました。2つ目はWaimanaloの方にインタビューしたことです。その地域は私たちが過ごしている地域よりも田舎の地域でした。私はそこで「この地域に問題がありますか？」と質問しました。すると過疎化が問題だと答える人がいましたが、しかし、多くの人は「この地域は良いところだから、問題はないよ」と言っていました。このことから、きっと抱えている問題は私たちの地域と似ているけど、それよりも地域愛が素晴らしくて、地元を愛しているんだと思いました。問題ばかりに目を向けるのではなく、良いところに目をむけて広げていくことが大切なんだと思いました。トナカイフェスでは都会と田舎のいいところや自慢できることを伝えることと、改めて自分の地域の良さに気づいてもらえるようなフェスにしたいと思いました。

今回のグローバルスクールを通して物事の様々な見方や考え方や、海外の文化や価値観の違いを知ることができました。特に一緒にきた日本の生徒とハワイで出会った海外の生徒を見て学んだことは多く、同じ世代なのにたくさんの知識や考え方を持っていたり、会話が出来るくらいの英語力があったりして、とても刺激になりました。そんな生徒を見て、自分の英語力の無さと積極性の無さを痛感しました。これから来年の夏に向け英語を勉強し、いろいろなことに対して積極的に行動します。今回得たもの、学んだことを無駄にせず、今年の夏よりも来年の夏、成長したと思える自分になりたいです。

この度はこのような貴重な経験をさせていただき本当にありがとうございました。

# 大切なこと

吉田高等学校 2年  
新光 綾乃

グローバルスクールでの学びを通して私は、8つの資質・能力のうち、レジリエンスが最も伸びたと感じました。今回の、グローバルスクールで言葉の壁がやはりあり、その中で私は、諦めず前に進むためにとった行動が、同室だったニュージーランドの生徒に紙に書いて話しかけたことです。時間はかかるけど、会話になってないかもしれないけど、せつかく交流する場があって、失敗を恐れては、参加させてもらった意味がない、私の長所は失敗を恐れず挑戦することなので、自分の強みを生かせたと思いました。

エリアスクールで設定した課題とその解決策に向けて影響を与えた内容は、Waimanaloでのインタビューです。山間部と都市部で分かれている私たちのエリアにとって、現地の人のお話は興味深いと私個人としては思いました。私たちが滞在していた場所は、都会の方でとても栄えていて、若者も多く、気さくな人も多かったです。日本の都会は、私は、フレンドリーな感じがあまりないように感じていました。心優しい人もいますが、海外の人の気さくな感じは、とても新鮮なものでした。そして、Waimanaloに行ったときに、私たちが滞在していたところは雰囲気違って、田舎の住宅地みたいな印象をうけました。だから、インタビューをしたときに、日本の田舎のように、何か問題を抱えていたりするのかと勝手に考えてしまっていました。 「この地域で困っていることなどありますか？」と尋ねた時に、「ここはいいところだから何もないよ。」と言われた時には驚きました。Waimanaloの方々は、すごくその地域を愛していて、日本の人も地元を愛しているからそこに住んでいるのだけど、外国の人の地元愛はすごいと思いました。交通面であったり、観光地として地元が栄えていたり、そういうのがあるからというのがあると思ったので、地元が栄えていることの大切さというのは、ひとの心も豊かになっていくのかという風にとらえました。だから、私たちのしていることの重要性であったり、意味というのが、改めて感じられたフィールドワークになったと思います。解決策は、都会と田舎をつなげることに変わりはなく、今していることにみんなが一生懸命に取り組む、一「笑」懸命やったといえるようにすることだと思います。



グローバルスクールでの学びを通して得られた成果や今後考えていきたいことは、自分の将来についてです。私は将来英語関係の仕事に就きたいと思っていました。コミュニケーションの輪を広げるために英語が話せるようになりたいと前は思っていたのですが、今回の研修では、コミュニケーションの重要性を改めて感じることができ、宗教が違ったり、住んでいるところが違って、考え方もやっぱり違う中でたくさんの方が得られるということがわかりました。今回は、勉強不足ということがあり、日本語では説明できても、海外の人には伝えることができなくて、人に頼ってしまったり、相手の話していることが分からないということがありました。これから、私は、コミュニケーションの輪を広げるためにも、身に付けられるように勉強していきたいと思いました。今回の研修は、私にとって将来のために頑張るという意欲につなげることができました。そして、それを実現できるようにマンダラ作りのときのように、少しずつ周りを固めていけたらと思っています。

自分の課題をこの研修期間で見つけることができました。やはり、知らないことが多すぎることや勉強不足なところでした。この問題点は、研修期間で言葉の意味が分からなかったり、地名やどんなものがあるところか、どんなものがあるか、なんとなく過ごすだけでは、意味がないので、ハワイの事についてもっと知っておくべきだったと思いました。勉強は、やはり、英語です。これは、今までの積み重ねで、やってこなかったことのつげが回ってきました。今後は後悔をしないように今からの勉強も生活も大切にしていこうと思いました。そうすることによって、今回出会えた人たちと次に会う時に話ができて、もっとお互いの事を知ることができます。それが、自分のしてきたことの結果で、その人の国であったり地域の事も知ることができて、そうやって様々なことを知ることによって、人の役に立つ人間になれるのではないかと思います。この大きな目標を達成するために、私は、大学に行き外国語を勉強し、たくさんの方の役に立ちたいと思います。

# 私はハワイで何を手に入れたのか

呉三津田高等学校 3年

内野 弘毅

グローバルスクールでは様々な刺激を受けることができました。初日から言語の壁を感じました。私と同じ机で活動したのはニュージーランドの高校生でした。私がこれまでよく耳にしていたアメリカ英語やイギリス英語とは違い、英語に訛りがあり、言葉をうまく聞き取れず、会話が円滑に進みませんでした。学校でいつか読んだ英文で、「これからグローバル化が進み、様々な国の人が英語を話すようになるため、アメリカ英語、イギリス英語を理解して話すことができるよりも、様々な国の英語が理解できて話せることが重要になる」という言葉をひしひしと感じることになりました。

その後の活動でも色々なことを感じました。三津田ではアンケートを作成して様々な国の人に答えてもらいました。その中の質問で「あなたが考える今までで最も悲惨な事件はなんですか？」という質問があったのですが、アメリカの黒人の女の子が「白人が黒人を殺すこと」と答えてくれました。日本では白人も黒人もいますがそんな事件は起こりません。アメリカでそのような事件が起こっていることは知っていたのですが、いざその問題に対して危機意識を抱いている人と対面すると自分の視野が狭く感じました。ニュースを見ていると見過ごして心にとめることがなかったからです。

Ka lwi coast ではハワイの自然を見て回りました。自然保護団体の方がKa lwi coast の歴史や自然の説明をしてくださいました。特に印象に残ったのは開発者と自然保護団体との対立です。自然保護団体は自然を守りたい、開発者はどんどん開発していきたい、ということが新鮮でした。日本は開発されつくしているし、ニュースでもあまり自然保護団体と開発者の対立は気に留めていませんでした。開発したい、と言う気持ちも理解できるし、自然を守りたい、という気持ちも理解できます。どちらがいいのかは分かりません。普段考える機会のない問題を考えることができている経験になりました。



僕の成長した能力は「世の中の諸問題について理解し、取り組むべき課題を設定する力」だと思います。ニュースを見ていると自分が興味のないものには危機意識や意見などを持っていないことを知らされました。ハワイを発つ前の日にはエリアCで活動をしました。エリアCの課題はワークショップで何をやるかが決まっていなかったことでした。ワークショップの内容は決められませんでした。しかし、自分たちが今まで意識していなかった問題や、全く知らなかった世界を多少でも知ることは、これからの活動に役に立つと思います。プレゼンテーションは今までの中で一番満足のいくものになりました。外国人向けのプレゼンテーションだったと思います。

グローバルスクール全体を通して、日本での生活では認識できない問題を知ったり、新たな価値観や文化に触れたりするなど本当に多くの刺激を受けることができ、楽しかったです。それと同時に、日本での生活がやはり恵まれていて楽だな、と感じました。これから海外で仕事をしたい、とは感じませんでした。日本にいるほうが楽です。しかし、それでは逃げているようだし、何より日本人に無い意見を得る事ができません。これから、どういう形であるとしても、外国の人と関わる機会は必ずあると思います。そのような機会を積極的に手に入れて、自分の視野を広げていきたいです。

## 挑戦することの大切さ

呉三津田高等学校 3年  
坂本 瑠李

私はハワイでの活動で、レジリエンスが一番伸びたと思います。ハワイで過ごした一週間は楽しい時間がたくさんありましたが、たくさんの困難もあった一週間でした。ハワイに着いて、まず私がぶつかったのは言語の壁と、自分の勇気の無さでした。私は、ハワイに着いてすぐにスーツケースが壊れ、みんなよりも空港を出る時間が遅れたのですが、事務局のかとけんさんのおかげで、インドネシアとフィリピンの生徒達と一緒にバスで行けることになりました。私は、自分はラッキーだと思いました。みんなよりもさきに自己紹介ができ、もしかしたら話が弾んで仲良くなれるかもと思っていました。しかし現実はその甘くはなく、まず話しかける勇気さえも私にはなく、一緒にいてくださったメンターの Joy さんと實本先生の後押しによってやっと自己紹介をすることができました。また、英語で頑張って会話をしようとしても、単語さえも出てこない、自分の発音が悪くて伝わらないことが多々あり、自分が本当に情けなくて、とても落ち込みました。せめて、自分が上手く英語が話せないことだけでも伝えたいと思い、インドネシアの子に私の拙い英語で伝えると、インドネシアの子は笑って、「No problem!(問題ないよ!)」と即答してくれました。私はその笑顔にとても救われました。私にとっての一番大変だった活動は曼荼羅作りです。ここで私は外国の生徒の主張の強さと、自分の主張の弱さを嫌でも思い知らされました。グループの編成は、ニュージーランド人2人、ニューヨークの学校の生徒1人、日本人7人でした。曼荼羅作り一日目は、みんなで意見を出し合いましたが、1つも日本人生徒の意見を聞き入れてくれませんでした。私はとても悔しかったです。Joy さんに、意見を出すだけでなくもっと自分の意見を主張しないと、というアドバイスを頂き、2日目は、強気に自分の意見を出しました。思い切って発表もしました。私は第一回全体スクールでうまく発表できなかったときから発表することが怖くて逃げていました。だから、この経験は、いい発表ができたとは全くいえませんが、私にとっては自分の殻が壊せたとてもいい経験になったと思います。

エリアスクールでは、平和をテーマに活動しています。ハワイでは外国の生徒にアンケートをとりました。そのアンケートはエリアスクールごとの発表の際に集計しましたが、私は、原爆が落とされた年を半分以上の外国の生徒が知っていたことがとても嬉しかったです。移民文化センターにも行きました。私は勝手に、ハワイの魅力が分かるのかなと思っていましたが、予想と違い、とても重たいものでした。ハワイの新たな一面が見られてよかったです。



グローバルスクールでは自分の意見を主張すること、あきらめずとにかく行動すること、話をするのに言葉は関係なく、話そうとする姿勢が大切、という主に3つのことを学びました。今後はこれらの経験を生かして、色々なことにチャレンジして自分の視野を広げたいと思います。



## 賞賛の拍手。認めること，認められること。

呉三津田高等学校 3年  
中野 萌

出発前の夢の中，肌の色や考え，暮らしている環境も違う人々に囲まれて，何もできない自分を見ました。出発前の私は，本当に不安で自信がありませんでした。英語を聞き取ることが苦手で，コミュニケーションはいつも誰かに助けてもらっていました。今考えてみると，できる人を頼りにして頑張ることを怠っていたようにも思います。そして私はそんな自分を卒業しようと決意しました。何とかしてコミュニケーションをとるために，写真や紹介文で私のファイルは人一倍厚くなっていました。

空港を出て，私を通り抜けた心地よい風は，私の不安を吹き飛ばし期待でいっぱいにさせてくれました。イーストウエストセンターの宿泊棟では，日本人2人，インドネシア人2人の部屋でした。彼女たちは，本当にやさしくて，積極的に話してくれながらも私のペースに合わせてくれました。母国語を教えあったり，一緒に日本の歌を歌ったりしました。うまくいったことばかりではありません。彼女たちは私と違って，信仰する宗教があります。肌や髪を隠すイスラム教独特のスタイルには，少し壁を感じることもありました。しかし，話していく中で「髪をくくっているんだよ」と言ってスカーフ上から触らせてくれたり，ピンで首元を留めていることやスカーフをつまんで少しとがらせる，といった新しい発見をしたりするうちに，国の違いとして意識しなくなりました。この経験で私は，「オープンマインド」を身に付けられたと思います。



文化の違いの中で特に良いなと思ったものがあります。それは「賞賛の拍手」です。誰かがパフォーマンスやスピーチをしたとき，必ず大きな拍手が響きます。勇気ある行動や，素晴らしいものには，大きく手をあげて拍手したり，口笛を吹いたりして，会場全体が歓喜にわきます。彼らの評価の観点は面白い面白くないではなく，その人の努力や勇気にあると思えました。そのような認めあえる空気があるから，思ったことを自信をもって言えるのだと思います。私も，頑張りを認められる人になりたいと思います。

エリアスクールでは，地元を「HOME」つまり心のよりどころにする，またそうであることに気付いてもらうことを目標にしています。広島象徴ともいえる平和を切り口にワークショップを企画します。フィールドワークでは，移民センターで日本人移民の歴史を知りました。資料館の出口に昔の日本人移民の写真と一緒に書かれていた「I am what I am because of you(おかげさまで)」という言葉がとても印象的でした。フィールドワークの後，Namjiさんにワークショップをするときのコツや，自分たちの案について評価していただきました。レジリエンスを向上させなければならないこともわかりました。

グローバルスクールを終えて，帰りの飛行機から高層ビルが立ち並ぶ日本の姿を見て，悲しいような，つまらないような，そんな気持ちになりました。民族の文化を大切に残す海外の姿や，本来の自然を守るハワイのKa Iwi coastを見て，日本の守るべきものを考えました。答えは見つかりませんが，それは日本人の心の中にあるような気がします。そして，それを守るための私の役割をこれからは探していきたいと思います。たくさんの人に出会って，多くの声を聴くために，私はこれから他者との認めあいを大切にします。そして，誰かの発言を後押しする存在になりたいです。

イーストウエストセンターや事務局の先生方をはじめとした，多くの方々のおかげでとても貴重な経験ができました。私の知らない世界を目にして触れることができました。

私がいま，こうして目標を持ち新たなスタートに立てているのはたくさんの人たちの支えがあるからです。本当にありがとうございました。

I am what I am because of you.

# グローバルスクールで学べたこと

呉三津田高等学校 2年  
茅本 久生

この7泊9日のグローバルスクールでの学びを通して、僕は「コラボレーション」、「自己管理能力」、「オープンマインド」の資質・能力が伸びたと思う。

まずコラボレーションの能力が伸びたと思う理由としては、今までは同じメンバーで話し合ってきたが、今回は海外の生徒や先生なども加わり、新しい雰囲気の中でやったことによってエリアスクールや全体スクールよりもコミュニケーションを取らなければ意思疎通を図るのが難しく、話が進まないことがあった。だが、そこで英語のできる人が積極的に関わることで、日本の英語の得意でない人に意見を聞いて海外の生徒に共有できるということがわかった。その役割を僕が担うことで、意見の共有などがスムーズに行うことができた。このようなことができたので、目標を共有し、その達成に向けて



他者と協働する力を定義とする「コラボレーション」の能力が伸びたと思う。次に、自己管理能力が伸びたと思う理由としては、スケジュールが決められた中で、いかにいいものを仕上げるか、また時間内に終わるようなペース配分、柔軟に計画を変えられるような対応力が必要だということをナムジさんに言われ、それを実践してみようと常に心掛けており、それがワークショップに活かされたからである。これからの活動においても、スケジュール管理や、時間配分や柔軟に対応することに気を付けていきたい。最後に、オープンマインドの能力が伸びた理由として、海外の生徒との交流にある。僕は長年海外に住んでいたため、英語が話せるのでそれを活かして、さまざまな人と話した。そこで、その国の人の考え方や個人の考え方など様々な意見が出ていたので、とても面白かった。いろいろな人と話したことにより、グループ活動が円滑に進んだり、SNSでフォローしあったりなど、よい人間関係を築けたと思う。

エリアスクールでは、平和をテーマに活動している。平和や戦争についての興味関心が年々薄れていっているという課題があると考えていたので、今回 SNS についてのワークショップが興味深かった。Twitter や facebook などに投稿することは全世界に発信していることだということを再認識することができた。これからの活動に SNS を通じた関わりや、SNS での呼びかけなどをしていきたいと感じた。日本のワークショップではあまりやらない機器を用いたワークショップだったので、とても面白かったし、日本でやらなかったことができて、とても新鮮だった。

このグローバルスクールで僕は人と関わるということの大切さを感じた。真珠湾で話を聞いたとき、一つの目線で見えていなかったと思った。ここで改めてたくさんの視点を持たなければならない重要性を学ぶことができた。頭の中で分かっていることも実際わかっていないことがたくさんあることにも気付いた。これからのこのハワイでのグローバルスクールで感じたことや考えたこと、教わったことやこれまで支えてくれた3年生のみなさんや事務局の方、メンターの方への感謝の気持ちを忘れず、これからも次のグローバルスクールに向けて頑張っていきたいと思う。

# Difference is good!

呉三津田高等学校 2年  
谷 凌介

世界の様々な地域から集まった高校生が交流して話し合う。そう簡単にできることではない。そこには、言葉の壁があり、文化の違いがあり、また、その人それぞれの境遇や個性がある。たとえ同じ国の人であっても、問題について話し合うのはそう容易ではない。まして、国の違う人ともなれば本当に大変であった。しかし、それは楽しいことでもあった。なぜなら、それぞれみんな違う意見や考えを持っていて、それを共有し合うことで、自分が気づいていなかったことに気づけるからである。そこで私は、最後のリフレクションの鏡のカードにこう書いた「Difference is good!」

私が最も鍛えられたと考えるコンピテンシーは、「オープンマインド」である。そして、この写真では、様々な国の人と交流したことの代表として、自分のルームメイトとの写真を取り上げた。ニュージーランド出身のKalani 君は夜遅くまで帰ってこないことも多く、なかなか交流するのが難しかった。しかし、ある夜、私は彼と会話をした。きっかけは、彼が持ってきていたギターである。私もギターを弾くので、この話題から始めたのだ。私たちは彼とともに必死に英語を使って会話をしていた。すると、彼は自分の伝えたいことを携帯で翻訳して伝えてくれたのだ。僕は、言葉の壁を恐れて、海外の人との交流が憂鬱になりかけていた時だったので、とてもうれしかった。自分たちが必死に伝えて、必死に相手のことを知りたいという態度を示すことで、相手もその気持ちに伝えてくれたからである。彼との会話から、私は少しずつ海外の人と話す勇気を得て、その後の活動では、少しではあるが、会話を自分からしようと考えられるようになった。



私たちのエリアは平和について考えている。平和といっても様々な平和がある。今回海外の生徒向けに行ったアンケートでも、自由であること、協力し合えること、どんな人でも認め合えること、争いが無いことなど、様々な考え方が出てきた。今回の活動で、改めて広島や日本だけに注目せず、世界に視野を広げてみると、国の様々な過去や、様々な境遇があることを実感できた。日本だけに目を向けていると、戦争のことならただ「原爆を落とされた」といったような事実しか目に入らないが、フィリピンや真珠湾などに視野を広げてみると、日本が攻撃を仕掛けていたり、また、関係のないフィリピンなどを戦場として戦っていたりしていることがわかる。また、生活環境などにおいても、日本に住んでいては想像もできないような劣悪な環境で過ごしている人もいる。そういった人たちが本当に平和なのだろうかということについても考えさせられた。平和というのはとても幅広いが、今後はせっかく世界に飛び出していったので、世界を見てみたいと思った。

改めて、この写真を見ても感じるが、本当に世の中には様々な人がいる。国が違う人はもちろん、同じ日本人であっても、写真のとられ方、着ている服、写真から読み取ることのできる情報だけでも、色々な人がいる。しかし、私はこの違いこそ人の面白さであり、違いがあるからこそ、話し合いをするだけで楽しいし、いろんな人がいていろんな人が交流することで、感動したり、笑ったり、時には怒ったりすることができるのだと思う。「Difference is good!」はとても単純な英語であるが、様々な価値観を認めあえる「オープンマインド」を自分が最もイメージしやすい言葉である。人と人との違いを Good!と思えないから、小さなことで言えば、喧嘩が起こるのであり、大きなことで言えば人種差別が起こってしまうのである。ハワイでの私は、国が違う、だからこそ、そういった人の話を聞きたい、また、そういった人に自分のことを伝えたいという気持ちを持っていた。これからも、自分と全く違う考えを持っている人と出会っても、拒否したりせず「Difference is good!」の精神で、自分との違いを認め合い、自分のひきだしを増やす材料にしていける人になりたい。

# 1年経って、1年後を見据えて。

呉三津田高等学校 2年  
中畑 希

「1年後、ハワイに行きます！」今から1年前、これから長い間一緒に活動するであろう高校生と初めて会った全体スクールでこの言葉を聞いたときは、正直今の自分やエリアを想像できませんでした。その時は、ただひたすら海外の生徒と交流するのが楽しみなだけでした。ましてや一年生が加わることや三年生がいなくなることなんて頭にも浮かびませんでした。1年たって今は、2年間にも及ぶHISの活動のちょうど真ん中にP4Yが入っていて本当によかったと思っています。なぜなら、1年間活動してきた中で自分に何が身について何が足りないのかを分かることができるタイミングだと思うからです。



そんな私の今回身についた資質・能力は、コラボレーション、プロトタイピングとリファイン、リフレクションです。ハワイに行く前まで、自分の意見がなんとなく頭にあるのに言葉にできずに、または、別の意見に対して言いたいことがあるのに言葉にできず、結局何も言わないことがほとんどでした。議論が進む中、これをぶち壊したら迷惑だからといって何も言わず、決まったことに対して満足できないのでやるのが中途半端になることだってありました。毎回最初に浮かぶ反省がそれなのに言ってしまおうとどうなるかわからず、次回はちゃんと言おうと思っても結局できないということがほとんどでした。しかし今回イーストウェストセンターでたくさんの方を議論する中で、絶対にちゃんと言おう、伝わらなかつたら言い直せばいいという思いがわきました。意見を整理して順序立てて話す、何よりも自分が人から聞いたときに一発で分かるように話そうと心がけました。すると、気づけば自分が率先して何かを話していました。わからなくなったり失敗したと思ったらその日のうちに改善策も考え、次の日にすぐに改善策を生かそうとしていました。そのおかげで意見の食い違いが起きても合意のための駆け引きも学ぶことができました。自分が違うと思っても、それが結果的にチームに良い方向に働くこともあるものだなと思いました。今回はエリアの時間がほとんどなく、最初は自分の力は絶対発揮できない、発言できない、どうしようと不安でいっぱいでしたが、それが結果として自分を大きく成長させてくれ、一番の課題だったことも克服できました。今回がなかつたらこれからどうしていくのだろうと思います。それほど大きな成果を得られました。

自分たちエリアC（チーム名はKKS homesに決まりました）のテーマは「home」です。手段として、peaceがあります。たくさんの方の話を伺う機会がありましたが、多くのものがこれからのエリアの活動に役に立つと思います。平和について考えるワークショップもだし、パールハーバーに行ったことも、ハワイの自然を見て回ったことも、そして何より、エリアで最後活動した時間も。

今回がなかつたらエリアはどうなるんだろうというほどに、大きな影響を与えてくれました。平和についてのワークショップはこれまでのことの良い点悪い点を発見できました。また、海外の人が平和についてどう考えているのかもわかりました。パールハーバーでは同じく外国人の考え方とともに、お互いの国が主観的になりすぎているかなという発見もできました。戦争は悪い、よいとできる理由はない、よい国なんてない。みんなそれはわかっています。悔しいのもみんな、それでも、相手ばかり攻めていては何も始まらないと思います。大事な的是お互いが事実を知ったうえで、これからどうすれば過ちを繰り返さないかを考えること。未来を担う世代として、それがより良い世界を作るためにできることだと思います。自然を見て回った時も、地元で愛があって、日常を壊したくないからこそ、お金がある人に対抗できたんだなと思いました。どうやったら愛を植え付けられるかな。考えています。そして、エリアの活動はすごかったです。日系移民についてなぜ帰れなかったのかやとてもきつい状況に置かれていたことも学べ、ナムジさんに話を伺ったことも、これからワークショップをするのに大きな力をくれました。プレゼンづくりはエリアCの成長がうかがえました。前回プレゼンを作った時に比べ、わかりやすいものを作るために、限られた時間の中でどれだけできるか。みんなが挑戦していた気がします。ファシリテーターとして自分も少しは成長できたかなと思います。みんなを迷わせることなく引っ張れたし、よいプレゼンができたと思います。自分も、エリアCも成長することができたと思います。一年たって、迷うこともたくさんありましたが、ここまで成長できました。それはこれまで培ったことも大きいですが、今回の成果がとても大きいと思います。3年生は一応最後。これからは自分たち2年生が引っ張っていく番です。このまえまでは不安しかありませんでしたが、今は少しだけ自信が持てました。一年後起こすことにワクワクしています。今回の成長を無駄にせず、来年広島にやってくる外国の生徒はもちろん、3年生にもびっくりしてもらえるようなイベントをこれからさらに経験を積んで作り上げていきたいです。

# It is possible to break the wall of language and culture

呉三津田高等学校 1年  
西 京太郎

私がグローバルスクール in ハワイで特に伸びた「広島創生イノベーションスクールで身に付けたい8つの資質・能力」は①コラボレーション、②リフレクション、③レジリエンス、④オープンマインドだと思います。



## ① コラボレーション

チームで何かをする時には必ず個人個人の考えを共有しておく必要があると思います。実際、ハワイでの workshop を受けている時に英語を用いて何を目標とするのかを共有し、作業に取り掛かり悔いのないものを作ることができました。これを何度もする中で共有の仕方を変えたりしてより効果的に共有できるようになりました。

## ② リフレクション

ハワイでの活動で様々な方々がたくさんの重要なことを教えてくださり、それらのことと自分が今まで経験してきたことを照らし合わせたりしてより深く理解することができました。まだそのことを生かす場面には直面していませんが、それを生かす場面は必ずあると思うので忘れることなく心に秘めておこうと思います。

## ③ レジリエンス

ハワイの前半、英語での会話になれず聞き取れなかったり、スムーズに会話ができなかったりして精神的に辛くなっていました。しかし、そのままでは十分に楽しめないと思い不器用ながらも積極的に外国の生徒に話しかけました。その結果、耳が英語に慣れてしっかり聞き取れるようになりとても楽しく会話ができるようになり良かったです。これがより良いチームワークを生み出し、いいアイデアを考えつくことにもつながったと思います。困難を乗り越えることが次の何かを生み出すかもしれないのでその困難に立ち向かえる力をもっと身に付けていきたいと思っています。

## ④ オープンマインド

ハワイの活動の中で様々な国の人たちと文化について話したことで、日本との違いや共通点をたくさん知ることができました。驚くような内容があったりしてお互いに楽しめてより仲良くなることができました。より良い人間関係を作ることがまずすべき1番のことであると思いました。

## エリアスクールへの影響

私のグループでは「HOME」「平和」という言葉がキーになっていると思います。そこで、世界のひとたちは、「HOME」「平和」をどのように考えているのかと思い、ハワイに集まった色んな国の人たちにアンケートを行いました。そこから、日本人とは違う考え方を知ることができ、とても良いインプットになったと思います。

## 成果と今後

このグローバルスクールを通して異文化との交流や新たな発見をすることができ自分の物事への考え方がとても変わったと思います。このレベルアップした自分をしっかり表に出して、あらゆる困難にも負けない心で色々な事に取り組んでいきたいです。

## 積極的な活動から繋がる力

呉三津田高等学校 1年

岡丸 あかり

私は、このグローバルスクールでたくさんの事を学ぶことができました。その中で強く感じたことは、積極的に活動をする大切さです。私は今まで、全体スクールやエリアスクールの全体場で話した事はありませんでした。自分の意見はあるのですが言うべきタイミングが分からなかったり、意見に自信が持てませんでした。つまり、たくさんの人が見ている中で話す勇気がなかったからです。みんなの前で堂々と自分の意見を述べている先輩方のようになりたいとずっと思っていました。

グローバルスクールでは、様々な国から来たたくさんの海外の生徒がいました。私は英語が得意ではないので、うまく話せる自信がなくとても緊張していました。すると、同じグループの海外の生徒が、私に積極的に声をかけてきました。英語がよく分からない私にもゆっくり丁寧に説明してくれました。滅茶苦茶な英語にも関わらず私の話を熱心に聞いてくれました。私たちはすぐに友達になり、それぞれの国のことについて話しました。フィリピンはいつも気温が40℃以上で、風が吹くと熱風となり逆に暑いことや、ニューヨークでは夜に入浴する習慣は無く、朝だけにシャワーを浴びる人が多いなど、日本とは異なる風土や習慣などをたくさん知ることができました。また、彼らの多くは母国の生活や文化を誇りに思っていることも感じました。



たとえ英語がうまく話せなかったとしても、“伝えたい”という気持ちがあれば自分でも海外の人と会話できるんだと分かり、私の中で何か吹っ切れたものがありました。それから私はいろいろな人に積極的に話しかけるようになりました。たくさんの友達ができました。休憩時には英語を教えてもらったり、部屋ではルームメイト4人でパーティーやゲームをしました。最初は1人だった友達も日に日に増えていきました。積極的に話すことで得られるうれしさ、楽しさを実感しました。相手のことをもっと知りたい、自分の事も伝えたい、そのために何をしなければいけないのかを深く考えるようになりました。私はこのグローバルスクールで積極的な活動がオープンマインドに繋がるということ、それを実感し、また実行することができたと思います。

また、このグローバルスクールではエリアごとの活動もありました。私たちのエリアは平和に関するワークショップをより良くするために、その達人であるナムジさんに話を聞きました。ナムジさんの話の中で一番印象に残ったことは、「失敗したら、自分や他者を傷つけるのではなく、ポジティブに考えて、次に生かすことの方が大切であり、できると信念を持つことが大切」ということです。私たちのエリアは活動がうまく進んでおらず、どうしたらいいのかと模索していました。ナムジさんの話で自分たちが今まで足りていなかったものは“心”であると分かり、そのことをエリアのメンバー全員で共有することができました。レジリエンス力の重要性を再認識しました。

3年生は今回でこのプロジェクトを卒業します。これからは私たち1・2年生が活躍する番です。しかし、私自身まだ、このプロジェクトで自分が果たすべき役割が分かりません。まずは、自分の強みを見つけて、エリアなどの小さな活動などで発言、発表したりすることで自分の役割を見つけていきたいです。また、今回で学び得た、積極的な活動によって次のステージへの繋がりや広がりが生じることを心に留めて、まずは“私から”率先して動いていきます。そして、来年の8月には広島でグローバルスクールがあります。開催都市の一員として、海外の生徒に積極的に声をかけたいです。そのため、もっと会話できるように英語力をつけていきたいです。また、広島について知ってもらうために、広島の魅力を探していきたいです。そして、それぞれのプロジェクトを一般の人にも共有してもらうためメンバーと共に働きかけ、グローバルスクール成功を目指していきます。

# It is not difficult to speak English

呉三津田高等学校 1年  
脊戸 ほのか

私は、今回のグローバルスクールを通して多くのことを経験した。その中で、主に2つのことを学んだ。まず1つ目は、英語を話すことはとても楽しい、ということだ。私はもともと英語が好きで、海外の生徒達と話すことをとても楽しみにしていた。だがその一方で、自分の英語がきちんと通じるのだろうかという不安もあった。実際に、ハワイで活きた英語に触れ、英語を「聞きとり、解釈し、話す」ことが楽しいと思えた。自分の中で伝えたいと思ったことを英語にして伝えるというのは容易なことではない。それでも、「楽しい」と思えたことは私にとって大きな自信となった。英語で話し、相手に理解してもらえた時の達成感から、私は英語を話すことがますます好きになった。

2つ目は、グループで活動する時に大切なのは、「自分の考えを外に発信すること」だということだ。これまでの私は、グループに対して何か課題が与えられても「ほかの人がどうにかしてくれる」と人任せにしていた。今回のグループ活動の中では、特に外国の生徒が活発に活動していた。その中で、「私はこう思うんだけど、あなたはどう思う？」というふうに尋ねられる場面が何度もあった。はじめは、自分自身、人任せにしていたために「それでいいと思うよ。」という態度をとっていた。だが、意見を出そうとしない私の態度を見た外国の生徒に「あなたはやる気がない」と思われてしまい、その生徒までがやる気をなくしてしまったのだ。それによってグループの活動が全く進まなくなってしまった。私はそこでようやく、「自分の考えを外に発信すること」の大切さに気付いた。それからは、自分の中で浮かんだ考えをグループのメンバーに積極的に伝えるようにした。するとグループ活動がスムーズに進み、自分自身も楽しく活動することができた。



今回、「広島創生イノベーションスクールで身に付けたい8つの資質・能力」のうち、自分が一番伸びたと思うのは「コラボレーション」だ。先ほども書いたように、グループ活動に積極的に関わったことで、他の生徒の意見と自分の意見とを組み合わせることが楽しいと感じることができた。これは私自身の中での大きな成長だと思う。

エリアの活動でも大きな経験をすることができた。私の所属するエリアCは、「ワークショップの内容を具体化すること」を課題とし、解決するために数々のワークショップを開催してきているナムジさんに話を聞いた。ナムジさんは、ワークショップを開催する時に大切なことは、「『自分達は何を得ようとしてワークショップを開催しているのか』ということ、常に心の中に持っておくこと」、「大きなことを達成するために、まずは小さなことから始めて積み重ねていくこと」だとおっしゃっていた。話を聞いていて印象的だったのは、ナムジさんは常に笑顔を絶やすことなく、一人一人の顔を見ながら話しておられたことだ。「笑顔」でいることは、その場の雰囲気や和やかにするためにも重要なことなのだ、と改めて感じた。

今回のグローバルスクールを通して得られた成果はたくさんある。海外の生徒と活動する中で、積極的に意見を発信することの重要さに気付けたことはもちろん、自分の英語に自信をもてたこと、ナムジさんの話を聞く中で、ワークショップを開催する時に大切なことを学べたこと、笑顔でいることの重要さに気付けたこと。そして、自分の中での一番大きな成果は、「英語を話すことは難しくないこと」だと思えたことだ。今後考えていきたいことは、このグローバルスクールで学んだ全てのことの活用法を見つけることだ。もう既に見つけられているものがほとんどだが、自分の英語に自信をもてたことをどう活かしていくかはまだ決められていない。これから色々な経験をしていく中で、見つけていきたいと考えている。

# 伝わる想い・国を超えて

西条農業高等学校 2年

富永 優

今回のグローバルスクールで自分はレジリエンス（〔定義〕困難や失敗に直面しても諦めない力）が伸びたと感じた。元々困難なことがあればできるだけそこを通らないように人生を歩いてきたつもりなのだが、今回は英語を話すのが苦手でも積極的に外国人に英語で話しかけることができたため、自分はこの能力が伸びたと感じた。そして、ある一つの考え方が変わった。それは、失敗したくないから・間違えたくないから諦めると考えていたが、失敗してもいい・間違えてもいい、そこから何をするか・できるかを考え、また、さらにそれを実行することが大事なのだという考えになった。そこで今後自分はまず失敗を恐れないことに慣れていけるようにしていきたいと思う。

この研修でエリアスクールの課題に与えた影響は、それぞれの国で戦争に対する考え方が違うために、個人で思っていることも違うということが分かったことである。自分たちの課題は〔平和〕である。そして今回、平和に関する施設に行き、ジミーさんという方の話を聞いた。その方は戦争で日本人の友達と離れなければならなくなった。しかし、それでももう一度会うために70年近く探し続けたことがとても印象に残った。このとき自分は日本が戦争を始めたきっかけを作ったのだから日本が悪いと考えていたが、日本だけが悪いということでもないと感じ、何が悪いのかが分からなくなってきた。そして、日本だけでなく、他の国の人も真剣に平和活動に取り組んでいることを理解した。そして、違う国の人でも思いが通じたのであれば、同じ国の人ならばなおさら思いは通じるだろうと感じた。自分はこれまでどこか平和に対して自分の問題として認識できていないことが何度かあり、真剣に取り組めていない部分もあった。しかし、今回の話を聞いて今までは日本の目線でしか見えていなかったが、他の国の目線でも見ることができた。そのため、他の国が平和に対してどういう考え方を持っているか、接し方をしているかを知ることができた。自分が感じたことは「日本だけが平和に関して熱心に取り組んでいる訳ではない」ということと先ほども書いたが、また言い換えれば「どの国も本当は平和を望んでいる」ということである。こういう想いをもっと世界中に広げていくことが大事だと思った。そして、自分たちの活動はエリアだけにとどまらずにもっと広い地域にひろめていくべきである。



グローバルスクールを通して自分は、さらに平和と言うことの大切さを世に発信しなければならないと感じた。上の写真の折り鶴は、ルームメイトだったトミーと一緒に作った物である。英語は片言でしか話すことができなかったが、それでも完成させることができた。これは言葉が通じなくても考えは分かるということや気持ちは通じているということを表している一枚の写真である。最初は全然話すことができなくて「日常会話も曖昧なのに鶴の作り方なんて教えることができるのか?」と、とても不安だった。しかし、いざ作ってみると、思った以上にスムーズに作ることができた。このときの英語もほとんどが片言だったが通じた。このことに自分はとても感動した。言葉が通じなくても目的は達成することができるということに感動を覚えた。それから、片言だが話すようになり、それなりに通じているようで、言葉が通じるたびにほっとしたり、通じなかった時に少しがっかりしたりと色々な想いがあった。でも、正直に言うと言葉ではなく、行動で示した時の方が会話になっていたと思うことがある。だからといって、言葉がいらぬ訳ではない。気持ちが通じ合える手段として行動で示すということがあるだけである。自分はずっと色々な国の人と言葉を交わしたいと思うようになり、来年までにさらに英語力の向上を目標にしていきたいと思った。



## 海外の生徒たちと話して

西条農業高等学校 2年  
中尾 優吾

僕は今回のグローバルスクールを通して「広島創生イノベーションスクールで身につけたい資質・能力」の中でよく伸びたと思うものは主に二つあります。

一つ目は、「困難や失敗に直面してもあきらめず、前に進む力」だと思います。グローバルスクールに参加する前から自分にはたとえ失敗してしまっても粘り強く諦めることなく物事に立ち向かっていこうとする力はあると思っていました。しかし、グローバルスクールに参加するとまず始めに、言葉の壁が立ちはだかりました。現地に行ってから英語を学ぼうとしても追いつくことが難しいので、同じグループになった広島の仲間に通訳してもらったり、海外の生徒とペアになったりしたときにはなるべくジェスチャーや易しい英語を使ってもらうようにしました。



もう一つは、「多様な価値観を理解し、よりよい人間関係を構築していく力」です。海外の生徒と話し合いをしていると日本人とは違った価値観で物事を考えていたり、その住んでいる国のマナーなどの違いからお互いに驚いたりというようなことがありました。だから、その中でよりよい人間関係を築いていこうと思ったら、お互いの国の文化やマナーに驚いて始めから拒否してしまうのではなく、少し日本とは違っていたとしても「何それすごいね、やってみよう」といったように積極的に参加すると会話の輪も広がるし、よりよい人間関係を築く一歩にもなりました。また、自分のあまり関わることのない価値観に触れて感動するようなこともありました。それは、ニュージーランドの先生と生徒によるハカという伝統的な踊りを見たときのことです。日本ではあまり見ることでできないダイナミックな踊りで魂が揺さぶられるような感覚がありました。

一番自分たちの話し合いに影響を与えたワークショップはマンダラの作成です。自分たちの話し合いではマンダラの作成に似たような話し合いの進め方だったりしましたが、うまくまとまらなかったりすることがよくありました。しかしマンダラという解決策の導き方を得た夜からは、自分たちが思ったよりも早く物事を的確に次の日に向けた計画などを作成することができました。

また、真珠湾での話は、自分は広島であった原爆のひどさばかりを見ていて、真珠湾などの自分の国が起こした戦争による被害者たちに目をあまり向けておらず、被害の面ばかり見ていたのだと改めて感じさせられました。

マンダラというツールを得たことや、今回のグローバルスクールで海外の人々と話し合ったことから、来年のグローバルスクールに向けて、もっと話し合いを深めたり発展させたりしていきたいです。

## グローバルスクールで学んだこと

西条農業高等学校 2年  
中下 柊吾

今回のグローバルスクールでは多くの事を学ぶことが出来ました。特に、エリアでのプロジェクトに関する内容も多くあったので次回のエリアスクールや今後のプロジェクトに役立てたいと思いました。具体的には、四つあります。

先ず一つ目は、パールハーバーに行ったことです。エリアCでのプロジェクトは平和をテーマにしており、アリゾナ記念館の展示などはそのプロジェクトを進める上でためになると思いました。また、日本が被害者側ではなく加害者側になった事件について知っておくことで、原爆投下について様々な視点で理解することができ、プロジェクトの一環であるワークショップに生かすことができると思いました。展示の内容については、広島原爆資料館と比較して、歴史的背景に関する内容や軍事的な展示が多かったように感じました。このような平和に対する考え方、感じ方の違いを感じられたことが大きな収穫となりました。また、この気づきを他国の生徒と共有した際にオープンマインドの能力が向上したと思いました。



二つ目はマンダラを用いた考え方です。エリアCの話し合いでは論点がずれて議論が止まることが多くありました。また、テーマや目的、目標を設定する順番が前後したりして議論の前提がはっきりしない事が多く、マンダラはこれを解決するのに適していました。マンダラを使うことで、円の中から順序立てて議論していき、効率的に議論をすることができました。更に、この手法をエリアスクールでも生かすことでリフレクションの能力が向上すると考えました。

三つ目はナムジさんのお話をうかがえたことです。ナムジさんにはワークショップの方法について様々な方向からご教唆頂きました。ワークショップは、エリアCのテーマのひとつであり、そのワークショップについて、ワークショップの達人であるナムジさんの意見をうかがえたことはとても有意義だったと思います。ナムジさんのお話を伺った直後にエリアで話し合いをした時は、とても活発に意見が出て、とてもいい議論が出来ました。この議論で話した内容はエリアにとって重要なものであり、この議論もナムジさんのおかげだと思うので、ナムジさんがエリアCに与えたい影響は計り知れないと思います。また、このお話を聞く機会は、先生やメンターの方々、井上さんや茅本君の働きなくしては実現しませんでした。このことに感謝し、自分も高学年の一員としてふさわしい働きが出来るように頑張りたいです。そしてこの経験をエリアのプロジェクトにしっかり生かしていきたいです。

最後は、ハワイの日本人文化センターに行ったことです。センターでは、ハワイへの日本人の移民の多くが広島県民だったこと、その移民たちがどんな気持ちで移住を決めたのか、また、その時代背景など、多くの事を学ぶことが出来ました。エリアCの最終目標「いつでも帰ってこられる故郷を未来のために」を達成するために、県外へ出ていく県民について知る機会になり、これを生かして県外へ出ていく県民を減らすための活動が出来ればいいな、と考えました。

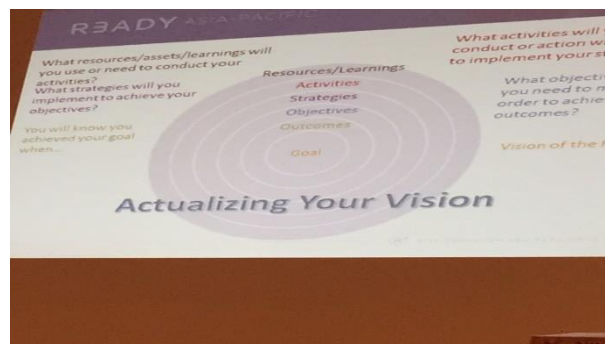
今回学んだことで特にエリアの活動に重要だと考えたのは以上の四点です。この四点を生かしてエリアでの活動をより良いものにしていきたいと考えました。

# グローバルスクールを終えて

西条農業高等学校 2年  
武田 佳子

私は今回のグローバルスクールを通して「広島創生イノベーションスクールで身に付けたい資質・能力」の中で最も伸びたと思うものは、「多様な価値観があることを理解し、よりよい人間関係を構築する力」だと思います。グローバルスクールに参加する前から、この力は私の中ではあるように感じていたのですが、実際に海外の方と話し合いやプロジェクト活動をしてみると、私たちが普段行っている活動では出てこなかったとても自由で奇抜なアイデアが出てきたり、活動の進め方や、話し合いの仕方が全く違ったりしていて、とても驚きました。私が思っていたよりも、価値観の違いというのは大きく、最初はなぜそうなるのか、なかなか理解できず、戸惑ってしまうような場面もありましたが、理由を聞いてみるととてもおもしろく「なるほど」と思えるようになり、価値観の違いを受け入れ、楽しめるようになりました。だから、今回のグローバルスクールでは「多様な価値観があることを理解し、よりよい人間関係を構築する力」が最も伸びた力だと思います。

私たちのエリアスクールで設定した課題とその解決策に向けて、最も影響を与えた内容は、複数のグループに分かれて「マンダラ」を使い、それぞれのグループに設定された課題の解決策をつくるという作業でした。私は、今まで「マンダラ」の存在を知らなかったし、「マンダラ」を使って解決策をつくるというのも初めて聞きましたが、実際に行ってみると、とても考えやすく、やりやすかったです。私のエリアでは、話し合いの順番や活動内容の順番を上手に考えられず、話し合いがストップ



してしまうことがあるので、今回のグローバルスクールで行った「マンダラ」を使用した活動は、とても参考になりました。また、「マンダラ」を使う作業の前に行った「最も悲劇的だった出来事。そこから家族、地域社会へとどう繋げていったか」を4つに区切った円の中に絵や文章を書いてまとめるという内容は日本だけでなく海外の意見などを聞くことができ、そこから、私のエリアスクールで核となっている「平和」と少し重ねてみることで、これからの活動に生かしていきたいと思います。

私たちのエリアスクールでは、「平和」を中心としたワークショップを行いたいと思っており、「平和」に関してもっと視野を広げるために、海外の方にも広島の前爆を知っているかなどの「平和」や「広島」に関するアンケートを行いました。その中で、「広島に原子爆弾が投下されたことを知っているか」という質問で半分以上の人は知っていると答えていましたが、知らないと答えた人もおり、世界中の人が知っているわけではないということに少し驚きました。また、私もほかの国で起きた戦争や紛争の全てを知っているわけではないと思い、世界中で戦争や平和の発信、受信ができていないということを感じました。そのような、私が感じたことなども、これからの活動に生かしていきたいと思います。

## グローバルスクールについて

西条農業高等学校 1年  
三宅 知央

今回のグローバルスクールでは様々なことに触れることができ、いろいろなことについて学ぶことができました。そのグローバルスクールを通して、印象に残ったことは、大きく分けて四つあります。

一つ目はマンダラ作成です。マンダラ作成では一つのチームで三つの班に分かれて、みんなで協力し、マンダラを作成することができました。各個人の役割を果たしながら交流して、一つのものに対してアイデアを出し合い改善していき、良いものを作りあげることができたと思います。この活動を通して、伸びたと思った資質・能力は、プロトタイピングとリファインです。プロトタイピングとリファインの定義は自分の意見や考えを見える化し改善する力ですが、今回の活動では、自分の考えを図などで表現することができ、交流し、共有して改善する事ができたと思います。



二つ目は Japanese Cultural Center of Hawaii (ハワイ日本文化センター)に行ったことです。ハワイ日本文化センターでは、日本から来た移民の事が展示してあり、移民の方がハワイでどれだけ苦労されたのか、また、太平洋戦争中、日本人としてスパイの可能性を疑われ、投獄されたり、尋問にかけられたりする中でそれを晴らすため、軍隊に入ってアメリカに忠誠を誓ったり、奉仕作業したりしていたことを知りました。他にも、学校の様子や移民の方が働いていたサトウキビの畑の作業内容、日々の生活に使っていた道具、または、自分たちで作った組合の仕組みなど、様々なものが展示されていました。特に記憶に残っているのが、太平洋戦争の時の日本の移民の方のビデオです。スパイの可能性を疑われて逮捕され、家族を残して強制収容所に入るようになった方のビデオでした。もう二度とこんなことが起こらないようにしていきたいです。

三つ目は Pearl Harbor (真珠湾)に行ったことです。真珠湾攻撃を体験されたジミーさんにお話をうかがうことができたのは、これから、戦争について考えるときにとても役に立つ、貴重な体験をすることができたと思いました。ジミーさんのお話の中で、「ヤマモトさん」という日本人の方のお話がありましたが、何十年たっても会えないというのは、とても悲しいことだなと思いました。真珠湾の中に沈んでいる戦艦アリゾナも見に行きましたが、沈んでいるあたりは、油の流出がすごく水の表面に虹色の模様が浮かんでいました。水の上に立つ、全体が白い戦艦アリゾナ記念館の奥には、白い壁の一面に名前が刻まれた慰霊碑がありました。そこで初めて、この真珠湾攻撃で多くの人を殺したのだなという実感がわいてきました。それまで、映画や本でしか見なかった「歴史」が目の前に迫ってきたような気がしました。

四つ目はナムジさんとの話です。私たち、エリアCのグループはハワイの最後の夜、これからの活動をより良いものにしていくためにナムジさんに話を伺いました。その話の中でこの前のエリアスクールで出たワークショップの問題点に対して解決策を出すときのナムジさんは、「小さなことからやっていくことが大事だ」とおっしゃいました。このことばを胸にこれからも頑張っていきたいと思います。

これらを通して、感じ方の違いや文化の違いについて、少しは学べたと思います。このグローバルスクールで学んだことを生かして、来年広島であるグローバルスクールをより良いものにし、お互いに学び合えるものにしていきたいと思います。

## 頭で考え、心で感じ、体で表現した一週間

広島高等学校 3年  
尾川 由起

グローバルスクールでの学びを通して「広島創生イノベーションスクールで身に付けたい8つの資質・能力」のうち、特に伸びた資質・能力は、オープンマインドです。以前から世の中には多様な価値観があり理解しあうことが大切だと頭では理解していましたが、今回のグローバルスクールのグループワークの中で、日本人以外の生徒はもちろん、日本人との間でさえ価値観が大きく異なることを感じることもあり、異なる考え方を受け入れることに多少のストレスを感じることもありました。しかし、相手の考えかた、やり方に疑問を感じた際に勇気を持って「自分はこう思うが、あなたはなぜそう思うのか」と聞くことを重ねるうちに、頭では理解していた多様な価値観を心でも感じることができました。今では、グローバルスクールで身につけた、違いを知り、その違いを乗り越えるスキルを発揮すれば、どんな人ともよりよい人間関係を築いていけるような気がします。

エリアスクール（エリアC）で設定した課題は、多くの人に HOME の大切さに気づいてもらうこと、言い換えれば、日々当たり前だと思っている平和な暮らしにありがたみを感じられる場を作ることでした。この課題の達成のために、私のグループは平和に関するワークショップを企画することで話が進んでいました。そのため、今回のグローバルスクールの活動において、パールハーバーを見学し、様々な角度から歴史を学べたこと、ワークショップの達人である Namji さんから多くのアドバイスをいただいたことは貴重な経験となりました。Namji さんへのインタビューの中で、ワークショップをする際には単に参加者がゲームをして楽しいと感じるだけでなく、ワークの一つ一つが意味のある内容であるために、参加者の心に響き、楽しいと思えるようにしなければならない、また行動を起こす時には、その数を5本の指に収まる数にするとよい、心の底から伝えたいという熱い気持ちとやり続ける信念が必要だ、というお話しは今後の活動の大きなヒントとなったと思います。



グローバルスクールでの学びを通じて得られたことは、友達や先生との素晴らしい出会いにありました。5カ国から集まった同じ世代の生徒と交流し、彼らが日々何を感じ、どんな活動をしていて、将来どんな人になりたいのかを知ったことで、自分の見ている世界が広がりました。そして何より、強く熱い思いを持った彼らとこれからの世界を自分たちの手で創っていくことを考えるととても楽しみになりました。また今回グローバルスクールに参加するにあたり、私の思いを自分の中で収めておくだけでなく、自分なりの表現方法で他者に共有することを個人的な目標としていました。本当に多くの方々のおかげで、この目標を達成することができました。特に、グループワークの際に、日本語と英語の二つの言語を使って、みんなの意見を集約する役をいただいたこと、Namji さんへの感謝を伝える機会をいただいたことが印象に残っています。新しい何かをすること、新しい誰かに会うこと、これらは私をより楽観的で、前向きな姿勢にし、私を新たな世界へと導いてくれました。今後はグローバルスクールを通して気づいた、自分の強み、友達の良さを大切にしたいと考えます。そして、どのようにしたら価値観の違うもの同士が自由に考えを述べ、本当に大切なことを見失わずに、自分たちにとって、世界の人々にとって、未来を生きる人々にとってよりよい選択ができるのかを考えていこうと思います。

# 1年後にまたみんなと会えること。それが私のHOME。

広島高等学校 2年  
井上 つぐみ

ハワイの文化交流から始まったこのグローバルスクール。たくさんの貴重な経験をさせて頂き、たくさん成長することができました。それから、様々な学校からの報告や、ワークショップを通して学びを深めた後は、Hawaii Ka Iwi coast, Pearl Harbor, そして、Ala Moana Shopping Center へ。そして、それぞれの課題に向けて問題解決の手順を考えるマンダラを作って、お互いに学びを発表し合い、最後は、感動的な Closing Ceremony で、締めくくられました。楽しい、興味深い、嬉しい、怖い、ひどい、優しい、難しい、悲しい、さみしい、など、感情の起伏が激しい一週間でした。その中で、優しいと思ったのは、真珠湾攻撃の生還者であるジミーさんの話を聞いた時のことでした。

日本海軍が行ってしまった真珠湾の奇襲攻撃は、太平洋戦争を招きました。そして、今日の米国の国防戦略にも大きな影響を与えています。加害の事実を知るのは怖い、という気持ちもありましたが、今年5月にハワイ出身であるオバマ大統領が来広されたことで、歴史にまっすぐ向き合うことの大切さを再認識していた私はジミーさんの証言を一言も聞き漏らすことのないように聞きました。その時、ふと耳に入ってきた言葉が、“Friendly Fire”という言葉です。なぜ、証言中に火という恐ろしいものに、友好的なという言葉がついているのでしょうか。それは、ジミーさんがとても心の優しい方だったからです。

実際、日本海軍は、攻撃すべきは民間人ではなく軍隊だという考えから、大都市のホノルルは攻撃しませんでした。なんと、ジミーさんは、真珠湾を攻撃した日本海軍を許すことは、優に通り越して、友好的な攻撃の仕方だったと受け入れて下さっていたのです。私は、このジミーさんの優しさに本当に感動しました。私もジミーさんのような優しい人になりたいと思いました。最後には、戦争で離ればなれになってしまった親友と71年後にやっとの思いで再会できたというエピソードから友達を大切にしてほしい、友達はずっと友達だということを伝えたいと話を締めくくっておられました。最後に、ジミーさんとお話した時には、私も友達だと言ってくださって、本当に嬉しかったです。



グローバルスクールでは、地域・広島・日本・世界という、世の中の諸問題について理解し、取り組むべき課題を設定する力が伸びたと思います。Hawaii Ka Iwi coast では、有名な観光地であるハワイであるからこそ直面している環境保護の問題の解決に力を注いでいるみなさんと出会い、観光の問題についても考えました。また、平和に関する世の中の諸問題としては、ジミーさんのような優しさを持つという自分なりの課題を設定することができました。

私たちエリアCは、“There’s no place like home.”というオズの魔法使いのドロシーの言葉があるように、私達が育ってきた広島をいつでも帰ってこられる心のよりどころであるHOMEにしたいという目標を掲げて活動してきました。今回は5つの異なる国から学生が来ていました。私は、けん玉や紙風船、独楽をプレゼントしました。すると、ニュージーランドの飾り物や、インドネシアの紙幣、ニューヨークの帽子をプレゼントしてくれました。このように、みんなそれぞれのHOMEを持っています。だから、これからも私のHOMEとしての広島を大切にして、1年後に広島でみんなが再開するときには、広島のHOMEとしての魅力がギュッと詰まったワークショップができるように頑張りたいです。今の私のHOMEは、1年後にみんなが集まって、また来たいと思えるような広島です。そんな広島が作れるようにこれからも活動をしていきます。

## コミュニケーションの難しさと大切さ

広島高等学校 1年  
山本 英恵

グローバルスクールを終えて、「広島創生イノベーションスクールで身に付けたい8つの資質・能力」のうち、私のなかで伸びた資質能力はレジリエンスです。他国の生徒と一緒に課題に取り組むということにおいて、一番の障壁は言葉の違いでした。今回集まった人たちのうち、英語を話すのが得意でないのは日本人だけです。だから、英語を話せないとなかなか活動に参加しにくいという状況にありました。私もはじめは、「話している内容がわからない」「話についていけない」と焦りともどかしさでいっぱいでした。また、このままではせっかく来たのに、何もできずに終わってしまうと感じていました。そんなとき、同じグループの外国の方が話している内容を日本語に翻訳して私たちに示してくれたのです。そこでようやく、困ったときこそいろいろな手段を利用して解決していけばいいではないか、と気づくことができました。それからは、完璧な文じゃなくてもいいから自分の最大限の努力をして伝えよう、粘り強く頑張っていこうと前に進んでいきました。

エリアCで設定した課題は、それぞれの故郷を心のよりどころとなるHomeにするということでした。そして、そのためにワークショップを開こうと計画が進んでいるところです。今回グローバルスクールで様々なワークショップを体験して、自分のなかで多くの発見と学びを得ることができました。さらに、エリア活動としてNamjiさんに直接お話しを聞いたことは、大変貴重で良い経験になりました。Namjiさんからいただいたアドバイスの中で特に参考になったことは、「身近なところから」そして「その人にとって意味がないと心に残らない」ということです。私たちのテーマは「平和」ということで、始めからこの議題をぶつけてしまうと抵抗をおぼえる人がでてくるかもしれません。それだただただ言っているだけになり、後にもう一度考えてみようと思うことはおそらくありません。だからこそ、身近なところから自らの身をもってわかってもらうということが大事なのだとおっしゃっていました。この話を受けて、ワークショップを主催する側としての難しさ、そしてそのことへの解決方法が、少し見えてきたような気がしました。



グローバルスクールでの学びを通じて、コミュニケーションを積極的にとっていくことが非常に大切だと改めて感じました。今回の活動で、たくさんの人との出会い、そして意見のすれ違いも経験しました。自分と相手との間に、考え方の違いが生まれてしまうのは避けられないことです。だからといって、相手と分かり合うことをあきらめてしまってはいけません。重要なのは、どうやって受け入れていくかです。相互理解のために誰もが挑戦できる方法。それはコミュニケーションをとることだと思います。わからないことがあれば聞けばいい。言葉が通じなければ絵を描いたり、ジェスチャーをしたりすればよい。そうすればきっと伝わるはずだと、多くの人と交流していくなかで感じました。今後はNamjiさんからいただいたお話についてさらに深く考えていき、自分たちの活動に生かせるものを多方面で活用していけたらと思います。また、グローバルスクールを通してより多くの視点を持てるようになり、今までとは違った自分を見つけることにも繋がりました。今回のさまざまな経験と感じた思いを忘れず、これからますます自分を向上させるために努力していきます。

# Breaking out of my shell

尾道高等学校 3年  
藤田 美穂

私は今回、このP4Yに参加したことで「広島創生イノベーションスクールを通して身に付けたい8つの資質・能力」の中で「レジリエンス」を伸ばすことが出来たと感じています。P4Y研修の中で、パールハーバーのリフレクションを全体で共有したとき、ナムジさんが突然「M i h o」と私の名前を呼びました。最初は、なんで私が、と思いましたが自分の思ったことを自分なりに伝えてみるとナムジさんは私の意見を補足し、他の人たちも拍手をしてくれました。私にとって、この発表は残りのハワイでの過ごし方を大きく変えてくれました。私は、まだ上手に英語を話せないし、うまく伝えられないことのほうが多いです。ですが、そんな私の英語でも聞こうとしてくれる人も助けてくれようとする人もいることに気づくことが出来ました。それまでは、うまく伝えられず聞き返されるのが怖かったり、もう一度聞き返して嫌な顔をされたくなくて、消極的になっていました。できるだけ失敗はしたくないと思っていました。しかし、ハワイに来たことで「10000回間違えないと上手にならない」の意味がようやく分かった気がします。例えば私がうまく話せなくても馬鹿にするような人はいなくて、私も一生懸命伝えようという気持ちがどんどん生まれてきて、10000回ではないけれど、一歩前に進んで自分の殻を破ることが出来たと思います。

私たちのチームは、《地元の若い人たちに地元の魅力を伝えて、地元をよりよくしようと活動する若者になってもらう》ために、地元で頑張る人たちを紹介する《カッテデミー賞》という活動をしています。そして、今回のチームごとに行われたフィールドワークでは、ワイキキ周辺でハワイに来て働いている日本人に対してインタビューを行いました。「何故ハワイに来て働いているのか?」という質問に対してどなたも「ハワイが好きだから」と答えていました。このように、私たちのチームは《カッテデミー賞》を通して、地元のことが好きだから、地元のために活動できる若者になってもらうためにも、今後もSNSやフリーペーパーで情報発信を続けていきたいです。

日本での活動をチームのみんなと一緒に英語でプレゼンテーションをしました。私たちのチームらしく、伝えたいことはしっかり伝えて、ふざけるところはしっかりふざけて、今までで一番いいプレゼンテーションが出来たと思います。1年間、チーム全員で協力して作ってきたものを、海外の生徒の前で自信をもって発表できたのは、イノベーションスクールがあったからだと思います。第4回全体スクールでTo make a voice is to have a choiceと言われたことをわたしはとて鮮明に覚えています。発言しない限り、自分の意志は伝わらないし、誰かに理解してもらうこともできません。自分の意見を口に出すことで何かいい方向に動くのだとしたら、発言しないことは自らチャンスを逃していることだと気づきました。今後は、今回のグローバルスクールで自分の殻を破れたことを忘れることなく、10000回間違えながら、頑張っていきたいです。





## 私の挑戦

尾道高等学校 2年  
平原 莉穂

私が自分自身伸びたと思える点は自分の意見をいいながら他の人の意見もとりにれたことです。今までは人見知りでなかなか意見が言えなかったし、話すこともできなかったのですが何回もやっていくうちに自分の意見も言えるようになってきました。だからこのハワイのことも外国人の意見も聞いたり話したりして、とてもいい体験になりました。これからも人見知りをなくして行って、自分の意見も言ってみんなの意見も聞いたり取り入れていきたいと思います。

私たちレ点はカッテデミー賞をしていて、1回目の取材をしています。それからパンフレットも途中まで作っていました。そこでハワイでも取材をすることになり、各班ごとに分かれてやりました。ハワイと日本の違いがよくわかりました。気候や物価の違いなどを言っていました。それらのこともパンフレットに載せているので見て下さい。



私は初めての海外だったのでとても緊張していました。初日、私は体調を崩していたのであまり海外の人と話ができませんでした。次の日は何とか体調も戻って元気になりました。ハワイの海を見たり山を見たりでハワイの自然を堪能しました。海はとても青くすきとおっていて、今までのなかで一番綺麗でした。買い物もしました。ハワイの人は日本語をすらすらと話していてとてもびっくりしました。私は英語が上手く話せなかったのでなかなか意見が言えなくてとても残念です。でもそれでも聞いてくれたり話したりしてくれて本当によかったです。この体験はとても貴重なものになりました。これらを生かして、私たちのチームは頑張っていきたいと思います。そして来年の広島で発表を頑張りたいと思います。

## 己の挑戦と成長

尾道北高等学校 3年

小田 航大

私はグローバルスクールを通じて「広島創生イノベーションスクールで身につけたい8つの資質・能力」のうちでも特に「レジリエンス」が伸びた力だと思う。初日では、英語が苦手教科の筆頭であり、もともとロジカルシンキング型の私は、前で話している内容もグループ内で進んでいく作業も聞き取るので精一杯で、それでも完全に理解するのはほど遠いことだった。さらに、自分と同じくらいの世代の海外の人との対話は人生初で、むこうから積極的に話しかけてくれたことはとても嬉しかったが、緊張している上、言っていることが理解できず、失敗を恐れ、質問や期待に答えることが出来なかった。そんな自分がとても情けなく、悔しかった。二日目から勇気を振り絞って分かる単語を繋ぎ合わせて思いを伝えようと努力した。結果、難しい議題ではまだまだだが、なにげない話は出来るようになった。諦めず挑戦した自分が嬉しく、その次の日、またその次の日とどんどん積極的になり、日本でもあまりしなかった大人数の前で話すことも挑戦することができた。何事も躊躇してとどまってしまう自分にとっては大きな一歩となった。

私たちのエリアスクールでの活動の軸は、「地元で頑張っている人を若い人々に知ってもらうこと」である。今回ワイキキ周辺でグループに分かれ、ハワイで頑張っている、働いている日本人を取材しようとフィールドワークに出た。私のグループでは時間内に日本人を見つけることは出来なかったが、他のグループでは取材が出来た。内容を共有したとき広島で取材した方々と共通しているなど感じたことがある。それはそれぞれの地域で頑張っている人は地域に貢献するというところに重きを置いて活動・仕事をしているというわけではないということだ。自分のやりたいこと、今の自分の役割を一生懸命こなすことで結果的に地域や周囲に影響を多かれ少なかれ与えているのではないかと感じた。新しいことに挑戦しようとする若者の背中を押してあげることが私たちの目標ではあるが、それに加えて自分の意志を貫く力、一生懸命な心をもってもらえるようにすることも、難しいとは思いますが考えていく必要があると思った。



私は三年生ということで形としては最後の活動となるから悔いの残らないようにと全力でこの一週間を過ごそうと努力した。英語での交流は特に大きな壁であったが、もともと諦めかけていた初日や前夜に比べたらとても頑張ったし、よく奮闘したと思う。エリアでの発表準備や文化交流でも出来ることを精一杯やったつもりだし、後悔はない。

この一週間で学んだ大きな事柄の一つが「挑戦」である。今までの私はなんでもほんとはこれでいいのか、これが本当に正しい選択なのか、とずっと迷い、躊躇してばかりでいた。それが大事な時もあるが、ここぞというときのブレーキになってしまうのが悪い癖だった。でも一歩踏み込んでみないことには何も生まれない。成長はない。今回、私は失敗してもいいからやってみようかと踏み切って「挑戦」した。結果、うまくいかないこともあったが、無駄になったことなんてなかった。一歩「成長」した。私は今後生きていく中でさまざまなことがあると思う。多くの壁にぶつかることがあると思う。そんな時に一歩踏み出す勇気、「挑戦」する熱い心を忘れることのない challenger でありたい。その先にまた一つ「成長」があると信じている。

# グローバル人材になるために

尾道北高等学校 3年  
藤井 崇史

私がこのグローバルスクールで伸びたと思う能力は、「オープンマインド」です。もちろん日本にいても、自分はしっかりこの能力を持っていると思っていました。しかし、同じ日本人同士では個性の違いはあっても、大きな価値観の違いはあまりみられないと思います。そこで、今回のグローバルスクールでは、様々な国々の人々と関わり、一緒に活動することで、日本人とは明らかに違う価値観を見つけることができました。例えば、やはり日本人は遠慮して自分の意見をなかなか言えない、強く押し通せないという人が多いのに対して、アメリカ人など他の国々の人々は、自分の意見をしっかり持ち、妥協せず自分の意見を強く押し寄せてくることです。このことはよく言われることですが、実際に一緒に議論しながら活動していくなかで体験してみると予想よりも大きいものでした。最初は、なかなか慣れず、ギクシャクした関係で活動していた気がします。しかし、研修の終わり頃には、そのような環境にも慣れ、自分の意見をしっかり述べ、対等に議論できたと思います。しかし、そうはいつでも意見が対立した時、相手と懐柔してより良い意見を作るということまでは出来ませんでした。このことは、これからの自分の課題だと思います。この課題を解決するためにも、山崎さんが言っていたようにより良い第三案を作ることを日々意識してみる必要があると思います。英語で出来なかったことをまずは、日本語から練習していきたいと思います。

私達のエリアスクールでは、カッテデミー賞というものを行っていて、地元貢献している店や人を表彰しています。そこで、ハワイでは、ハワイで店を営んでいる日本人を探し、インタビューをしました。「ハワイのいいところはなんですか？」などと聞いたところ、気候がよく過ごしやすいなどの答えをもらいました。私もハワイに来て過ごしてみて、その通りだと思いました。エリア活動で、これらの質問したことをまとめて、フリーペーパーを作る予定なので、楽しみにしておいて下さい。

ホームレス問題のような世界で共通の問題について考えたことは、自分の知識や視点の幅を広げる良い機会になりました。私は、日本のホームレス問題は授業などで、取り扱われることがあったので、ある程度は知っていましたが、世界ではどんな状況で、どんな取り組みが行われているかなどは知りませんでした。それで、様々な国々の人々から意見を聞いたのはとてもよかったです。その他にも、文化紹介では、様々な国々の踊りや人形劇など文化に触れることが出来ました。このグローバルスクールでは、今まで、知らなかったこと、興味がなかったことにも興味を持ち、自分の知識を増やすことが出来ました。また、一番の学びは、エリアチームごとでのプレゼンです。私達のチームでは、面白く、分かりやすくをモットーにプレゼンの準備をしていました。しかし、日本では、色んな人が笑ってくれたことが、ここではあまり通用せず、自分の役目であった観衆を引き付けるということが出来ませんでした。この経験を生かし、世界でも通用するプレゼンターになれるようもっと研究し、次につなげていきたいと思います。また、自分の今回の反省として、世界共通の課題に対する知識や他国の文化、価値観への知識を調べておくことが事前の準備として不足していたと思いました。ある程度のことは調べていましたが、他国の人が世界の共通問題についてのことを知っていることを自分は知らなくていちいち詳しく聞く必要があって、グループの人に迷惑をかけてしまったと思います。それに、同じ地球に住んでいる人間として、世界共通の問題に対する知識は持つておく必要があるのに、それが出来なかったことは恥ずかしいことだと思いました。だからこそこれからは、もっと様々なことに興味を持ち、知識を身につけるようにしていきたいと思います。このグローバルスクールで学んだこと、経験したこと、反省点をこれからの自分の人生、このイノベーションスクールでの活動に生かしていきたいと思います。



## 量より質

尾道北高等学校 2年  
久保 天斗

私は今回のグローバルスクールを通してオープンマインドの能力が向上したのではないかと考える。私はもともと人見知りという性格で、他人と話すことにいちいち意義や理由を探してしまう。しかし、今回の活動は異国の地“ハワイ”で開催され、話す言語も文化も違った。1週間という留学と考えれば短い期間ではあったものの、言語が違った分他人にすぎるのではなく自分から話していかななくてはならない「臨機」というものが通常の生活の何十倍も多くあったし、自分を高めていく必要があった。海外の生徒もどんどん来いという気持ちで私たちを迎え入れてくれたのでとても助かった。私の中ではオープンマインドというものはレジリエンスの次に大切な資質ではないかと考えている。すべての活動において、その体験は何らかの刺激や成長を与えてくれる場であり、自分自身をさらけ出すことより自分のことを見つめなおすことも可能である。自分を出すか出さないかという違いはあるものの、レジリエンスの仕方によってはその経験が何十倍にも多くの伸びしろを与えてくれると思う。今回の活動はレジリエンスもオープンマインドも刺激されたものだった。このようなこともあり今回の活動はとても有意義であり、自分の中でも一二を争うし刺激のある体験だった。

私たちエリアDチームレ点は簡潔に言うと地域創生というところに観点を置き活動している。「カッテデミー賞」という地域に貢献している人を勝手に選び、その人を表彰していくというプログラムである。1回の表彰につき、フリーペーパーを1号作成することを計画している。これを行うことで自分たちがどのようなことをやっているのかを発信し、興味を持ってもらおうという考えである。フリーペーパーだけではなく、facebookやtwitterなどのSNSも活用していこうと考えている。最終的には、カッテデミー賞で私たちの活動に興味を持ち共に活動したり、その人自ら地域のために何か活動して欲しいと考えている。今回のグローバルスクールで最も影響を受けたことは歌や劇でも人にたくさんの情報を伝えられるということだ。私たちが使っているものとは異なり一つ一つの意味は分からなくてもちゃんと心には響いてきた。レ点ではフリーペーパーをメインに考えていたが、それだけではないのかもしれないと思った。これからのエリアスクールや全体スクールでもたくさんのことを学んでいくと思うが、この1週間を心にとめて活動していきたい。



このハワイでの活動は全体像を見れば通過点ではあったものの、私の中では一つの分岐点でもあった。三年生は卒業し全体の人数は減る。単純に考えて考え方や思考の違う人が激減するのでその分いいアイデアも出にくくなる。この活動で自分たちが成長していくことが唯一の解決策であり、一皮でも二皮でも剥ける必要があった。これまでたくさんの人と出会い交流をしてきたが三年生の力が大きかったのは言うまでもないと思う。これからもたくさんの人と出会う機会があると思うが一回一回の機会を大切に、常に自分から行動できるようにならなければならないと感じた。また、今回の活動もこのプロジェクト自体も、自分の力だけでは成し遂げることも始めることもできない。事務局の方、メンターの方々、このプロジェクトに参加しているすべての人への感謝を忘れずに活動していかなければならないと感じる一週間だった。

## ハワイでの学び、それは「共有」

尾道北高等学校 2年  
旗手 有菜

私は今回、広島創生イノベーションスクールのグローバルスクールでハワイへ行きました。その中で最も印象に残ったことは、海外の方々のフレンドリーさ、そして積極的に発言する態度です。

私もかなり積極的に自分から進んで行動しているとよく言われますが、大人数の場で自分だけが率先して発表することは恥ずかしいと思ってしまい、なかなかできませんでした。しかし、海外の一緒にディスカッションを行った生徒たちは、どんなに人が多くても、「自分の意見は今ここでみんなに聞いてほしい!」と思っている人たちばかりで、「誰か発表してくれる子はいませんか」と言われたときにすぐ手を挙げていました。その姿を見て、日本人の控えめな態度とは違うと思いました。少なくとも、自分にはここまでの積極性と発言力は無かったと思います。そんな中で、だんだんと「みんながいる前で発表することは恥ずかしくないことなんだ」と思い始めるようになりました。そして、グループの中でも英語でディスカッションを行うようになり、最終日には自分から率先して、みんなの前でハワイを振り返っての感想を英語で言うことができました。こんなにも積極的に、海外の人たちとも英語で話せるようになったのも、ディスカッションがあったのと、海外の子たちの積極性を間近で感じる事ができたからだと思います。



また、今回の活動を通して「広島創生イノベーションスクールで身に付けたい8つの資質・能力」のうち、私が最も伸びたと感じるものは、「オープンマインド」です。海外の方々は、本当に異なる価値観、習慣、文化を持っていて、それをお互い受け入れなければならないと初めて感じました。日本にいたら味わうことのできないことだと思います。そんな異なる部分を分かち合って、受け入れることができました。といっても、そんなに難しいことではありませんでした。相手のことが知りたい、相手と話してみたいと思えば、相手のことを受け入れることができると思いました。そんな中で、いろいろな国の方々と会話し、友情を築きあげることができました。

また、エリアスクールで設定した課題は「カッテデミー賞の海外版を行う」ということで、ハワイに働きに来た日本人に、なぜ来たのか、ハワイはどうかなどのインタビューをワイキキビーチ沿いで行いました。私たちは、道行く方に働いている日本人はどこにいるかと英語で聞き、店を回って、結局は二人にインタビューすることができました。そして、インタビューでおっしゃっていた中で印象に残ったのは「ハワイと日本の仕事観の違い」です。日本人は仕事に熱心で、休みも少なくずっと働いています。ですが、ハワイの方々はかなりのおんびりした生活を送っていて、平日はお店が5時に閉まったり日曜日は休みだったり、自由なスタイルでした。「そんな生活を送っていると自分もおんびりと、自由に生きることができる」とおっしゃっていました。この活動を通して、生活の違いはどこから生まれるのだろう、日本に無くてハワイにあるものは何だろうという疑問が湧いてきました。これから、調べていきたいです。

最後に、この活動に参加してみて、今後実行していきたいことは、最初にも述べた積極性です。殻に閉じこもらず、自分の思ったことはしっかりと主張して、そのためにもたくさんの方のことを調べておきたいです。自分の意見は必ず持つておく。ただ、仲間と協力し、分かち合う。これらの重要さが改めて分かったグローバルスクールでした。

## 多様な価値観に対応できる協調性

尾道北高等学校 1年  
大石 真由

今回のグローバルスクールを通して伸びた資質や能力はリフレクションとオープンマインドです。リフレクションでは自らの成長のために学びや体験を振り返り、次に生かす力が求められていました。一番最初のグループ会議では海外の生徒が率先的に進めてくれたので、それに頼って言われたことだけに従っていました。だから、次のグループでは人に任せきりではなく、積極的に参加していこうと思いました。英語が聞き取れなかったり、分からなくて困ったりしましたが、英和・和英辞書を使いながら自分の意見を言ったとき、



「みんな同じことを考えているね」と海外の子が言ってくれたので自分の英語が伝わってとても嬉しく感じました。そして、オープンマインド。今までエリアスクールのアンケートでは自分の知識から異なる価値観に対して、共感と敬意を持って前向きに受け入れているだろうと思いながら回答していました。けれどもこの度、実際に海外の友達の価値を知り、多様な価値観があると面白いなと思いました。住んでいる環境が違うから、私たちが体験したことのないことをした経験を踏まえた思いつかない意見を出してくれたりしてとても驚かされたり、すんなり納得したりしました。だから、本当の意味で多様な価値観に共感と敬意を抱きました。

エリアスクールの課題は私たちのチーム名「レ点」の意味通り、「上に上がるしかない」また「地元に関心のない若者に地元に興味を持ってもらうこと」です。現在、カッテ・デ・ミー賞を通して私たちの地元の魅力を発信しています。そこで、分かったことは、インタビューに答えてくださった方々は全員地元〔ハワイ〕を愛しているということです。加えて、快くインタビューに応じてくださり、質問内容以外にもハワイでの一番の思い出やオススメスポットなども教えてくださり、初対面の私にでさえ地元に対する気持ちがひしひしと伝わってきました。このようなハワイの方々のように観光客に尋ねられたら喜んで質問に答えてくれる、そんな街づくりに貢献できるように私たちから地元の魅力を発信して行きたいと改めて思いました。

グローバルスクールでは、最初に本当に英語を伝えられるのかとても不安でした。けれども、私の文法が正しくない、単語を合わせたような英文にも優しく答えてくれました。だから、不安だったグローバルスクールも乗り越える超えることができ、無理だと思ってやらずにあきらめなければやり遂げることができると分かり、あきらめずに何事もまずは実践していこうと思えました。そして英語を話すことに対してどうせ伝わらないという抵抗感が消え、もっと話せるようになって来年海外の友達が広島に来てくれたときもっと話せるようになりたいから頑張ろうという自信にもつながりました。だからこのように、自分の意見を主張すること、「伝えたい」と思って話すことの大切さを学びました。このような体験を生かして、どうしたら私たちと価値観の違う世界の人々にも“伝える”ことができるのか、また私たちは何をしていくべきなのか、具体的に考えていきたいと思えます。

## 自国と向き合う

尾道北高等学校 1年

尾方 萌々子

グローバルスクールの間、初めての経験ばかりでした。海外に行くのも初めてで、見るもの聞くものすべてが新しく、素晴らしいものだと思えました。この学びを通して、私がこの活動で身に付けたい8つの資質・能力のうち特に成長を感じることができたものは「コラボレーション」ではないかと思います。目標の共有、そしてその達成に向けて他者と協働する力を定義とするこの資質は、広島イノベーションスクールに参加しなければ、成長することはなかったと思います。私は、自分の話すことが間違っていないだろうかと考えてしまって緊張してしまうため、人前で話すことが苦手です。ですが、今回のグローバルスクールに参加して、他国の生徒とのディスカッションを通じて、自分の意見や考えをはっきりと述べないとコミュニケーションが成り立たず、よりよい人間関係を築くこともできないということと、これから日々を過ごしていく中でイノベーションの重要性に気づきました。そして、自分を変えたいと思いました。Mandalaの制作、発表のときにコラボレーションの能力が伸ばせたと思っています。貼られている右の写真は私がその発表をしている場面です。Mandalaは自分たちで作上げたもので、間違いはないのだと思うと普段よりも落ち着いて発表できたと思います。このことが自分を変えるとまではいかななくても、これからの自分の生活に活かせる経験になったと思っています。



私が所属するエリアDでは地域の活性化のために頑張っている人を表彰する「カッテデミー賞」という活動を行っています。グローバルスクールでは、カッテデミー賞の海外編のための取材を行いました。私はハワイの方々に取材をしました。現地の方は私のつたない英語の質問に対してゆっくり丁寧に返答してくださいました。取材だけでなくハワイの人の心のあたたかさというそれ以上に大切なことに触れることができました。このことも本当に貴重な経験で、感謝しています。私たちの活動のターゲットは地元に関心のない若者です。ハワイの若者は、自分たちの故郷の魅力などをよく知っているし、誇りを持っている人が多いのではないかと思います。私たちの地元に関心のない若者に地元の「魅力」について認識してもらうことは大切なキーワードになるのではないかと思います。今後のエリアスクールもそのことを意識して取り組んでいきたいと思いました。

グローバルスクールに参加したことで他国の人の価値観や文化、それぞれの国での問題など多くのことが学びました。異なる価値観に対し、自分は共感と敬意を持って前向きに受け入れようとするのができたと思います。他国の生徒は自分たちの国の問題についてよく理解しているし、その解決策についても自分たちで深く考え、はっきりとした意見を持っており、自分の国に誇りを持っているのだらうと思いました。尊敬します。私も自分の国について向き合い、魅力や問題を再発見したいと思いました。そして、私はこの経験を将来の進路に活かさないかとも考えています。英語を使って様々な価値観を持った人と関わったらどんなにおもしろいことだろうかと思います。そのためにも、英語の学習を頑張りたいと思えます。「英語」を学ぶ理由が理解できた気がします。

この活動に参加できて本当に、本当に良かったです。

## 己が持つべきものは

尾道北高等学校 1年

小林 千紗

「広島創生イノベーションスクールで身に付けたい8つの資質・能力」のうち、今回のグローバルスクールで私が最も伸ばすことのできた資質・能力はプロトタイプングとリファインである。自分の意見や考えを見える化し改善する力、他者と試作段階の考えを様々な方法で工夫しながら共有し、改善する力、これは今まで私が苦手としてきた能力だ。自分の考えを持ちながら、それが果たしてあっているのかわからない。先輩方のほうがきっと良い意見を持っているに違いない。私は1年生だから。言い訳のバリエーションは実に豊富だ。しかしそれでは楽しくなく、面白くもなく、ためにもならない。私とは正反対に、海外の生徒は積極的だった。そして楽しんでた。

「君もやってみない？」マンダラ模様の発表の時、海外の生徒にそう言われた。今思えば、そのとき背中を押してくれたことに感謝の気持ちしかない。「私はどう言ったらいいの？」聞けばゆっくり、丁寧に教えてくれた。単語がわからない時も電子辞書を駆使したり、聞き返したりして意思の伝達を試みた。人、



海外の人、話したことのない地域の人、自分とは異なる価値観を持つ人、彼らと交流することは、とてもためになると学んだ。毎日が新鮮で、英語を学ぶ意義が身をもって感じられる。とても貴重な経験、大切な思い出、「話す」という勇気を与えてくれたこの活動に、改めて感謝をしたいと思う。

私たちのエリアスクールでは、若者が地元に関心を持つことを目標とし、地域のために活動されている方々の表彰、その情報の発信を行う「カッテデミー賞」という活動をしている。今回はその海外編を行った。小グループに分かれ、海外で働いている日本人を取材に行くのだ。私のグループでは、現地の方に、日本人の経営するお店はないと思うという情報をいただき（他グループより、お店はある）、現地の方にハワイの良さを聞くよう取材の対象、内容を切り替えた。取材した方々はいずれもお仕事中だったが、快く取材を受けくださった。ここでは積極的に話しかけることができたと思う。「地域貢献活動」はどうしても伝えられなかったが、自分たちのできる限りを尽くしたと思う。みんながそれぞれの聞きたいことを、それぞれの能力を使って質問するものだから、私は楽しくて仕方なかった。また、地元の方は丁寧にハワイの良さを語ってくださった。ハワイという場所をとても誇りに思っているようだ。私は地元の良さを彼らのように語るができるだろうか。誇るができるだろうか。はっきりと答えられたとき、きっと私はこの活動に満足がいくのだと思う。

私の今回のグローバルスクールでの最も大きな学びは、コミュニケーションだ。今回だけではない。初めての全体スクール、その後のエリアスクール、そして学校ごとの先輩や同級生との交流。コミュニケーション、他者との交流は学んでも、学んでも、それでも学ぶことばかりだった。日本語でも英語でもあまり大差はなく、海外の生徒があふれるほど持っている積極性。今回は直にそれに触れ、吸収できたのではないと思う。話してみること、伝えようとする、感じようとする、考えること、そして共有すること。このすべてを言い表したコミュニケーション。この能力をまずは学校で活用したい。クラスでまだ一度も話したことのない人と話してみよう。もしかしたら、自分と同じ価値観をもった人かもしれない。もしかしたら、自分とは異なる価値観をもった人かもしれない。どんな人でも受け入れ、理解し、楽しく会話できるような人になりたいと強く思う。そして周りを、世界に目を向けられる人材になりたい。私は数年前も同じことを口にした。だからまた忘れてしまうかもしれない。けれどその時とは違い、今はとても多くの同じ志を持った友達がいる。自分も、彼らも信じよう。素敵な出会いだった。この経験は何にでも生かせるはずだ。志と、自分と、友達をもってすれば。



## 多様な視点

尾道北高等学校 1年  
渡邊 望

今回はハワイでのイノベーションスクールの活動を通して一番大切だと感じたことは視点の多様性です。これからの社会で生きていくためには、そのことが必要だと思います。

そして、このグローバルスクールでの学びを通して「広島創生イノベーションスクールで身に付けたい8つの資質・能力」のうち伸びたと思うのは、まず「世の中の諸問題について理解し、取り組むべき課題を設定する力」が定義の「地域・広島・日本・世界」です。小グループで異各国の生徒と交流した時に国々の諸問題を出し合いました。そこでは、自分事だと思い、そうなった経緯や政府、地域の解決方法を考えることが出来ました。続いて、「目標を共有し、その達成に向けて他者と協働する力」が定義の「コラボレーション」です。私達のグループでは、環境をテーマに曼荼羅を作成し、デザインするチームで積極的に協力しながら作業することが出来ました。最後に、「多様な価値観があることを理解し、よりよい人間関係を構築する力」が定義の「オープンマインド」です。グループ内で違った意見を持っている人の意見を聞き入れ、共感出来るように心がけました。それらが参加する以前と比較して伸びたと思えた力です。



エリアスクールで、私の中で思っていた自らの課題は自発的に活動していくことです。実際にその課題解決策に向けて影響を与えた内容は、ニュージーランドの生徒のグループの発表からです。その発表では、積極的に活動を行っている姿が伝わってきました。

また、私はプログラムから、学びは先生から与えられる共感が大事なキーワードになるということを知り、その人の歴史を深く知り共感してあげることで良い人間関係が築けるのだと、学びました。

この活動に参加した高校生は様々な国々から来ていて、生まれ持った文化がそれぞれ違ったものでした。しかし価値観は違っても、相手と同じ視点に立って考え共感すれば理解し合えるものになれると思います。実際に、エリアスクールの活動を行った時のインタビューでも相槌を打ちながら共感することで良い交流になりました。

そして、この論文のテーマとなっている「多様な視点」とは、360度全ての立場からひとつの物事について考えることです。企業の商品開発を例に出してみると、自分だったらこの商品は使い易いものだけれど、身体的な障害がある人が手に持ってみるとどうだろうと考えることによって良い商品、アイデアが生まれるのだと思います。この例だけとは一概には言えず、大きい規模で考えると諸問題の解決にも利用されていると思いました。

それから、これからの社会で求められる人材像を文部科学省のホームページで調べました。そこには、将来を見込んだ行動、グローバルな感覚の素質、マネジメント力、課題発見・解決力、コミュニケーション能力といった社会人基礎力といったものが挙げられていました。私は、今行っているこのP4Yの活動そのもので今私達がしている活動が必要な素質に繋がっていることを改めて知ることが出来ました。

私がこれからこれらの学んだことを具体的に生かしていきたいと思うことはタイトルである360度の視点を意識してエリアスクールの活動の主催者である私達の視点からだけでなく、それに影響する人々からの視点も取り入れた内容によりよく改善していくことです。またそれに加えて今回のプログラムで学んだ共感というキーワードを大切にし、お互いを理解し合う。リーダーだった3年生が卒業したので、自発的にグループの一員として活動に参加することを心がけていきたいです。

# ハワイで私が学んだこと

福山明王台高等学校 3年  
太平 真愛

私がグローバルスクールでの学びを通して「広島創生イノベーションスクールで身に付けたい8つの資質・能力」の中で、身に付いた資質・能力は「オープンマインド、多様な価値観があることを理解しよりよい人間関係を構築する力」だ。私たちは文化について考えるグループだったが、その中で多様な価値観があるということを感じた場面があった。

それは、文化について今後どのように守っていきたいかについて問題・解決方法・結果などをマンダラで表現するときのことだった。次々と意見が上がる中で、私たちのグループにいたニュージーランドの女の子が「言語」というワードを文化の一つに挙げ、

「自分たちのマオリ語を守りたい。」と言った。話によれば、彼女の国ニュージーランドの原住民族であるマオリ族の言葉は学校では教わらず、このままでは消えてしまう危機にあるという。私は、言葉も文化の一つになることや、マオリ語が消えてしまうかもしれないといった自分と違った価値観に触れ、国が違うと問題も違うということに改めて感じた。だが、「文化を守りたい。次の世代に引き継ぎたい。」という思いは、メンバー全員が同じ考えだった。

そこで、私たちのグループでは、マンダラの結果にあたる部分を「循環する文化」と定義して話し合った。その結果、「多様な文化を守るためには次世代に伝えていくことが大切。その手段として、学校での教育が大切。」という答えにたどりつくことができた。相手の価値観を尊重し、グループのメンバー全員が納得のできるアイデアにたどりつくことができた。そのため、私は「オープンマインド、多様な価値観があることを理解しよりよい人間関係を構築する力」がグローバルスクールの活動の中で一番伸びた資質・能力だと思う。

エリアスクールで設定した課題とその解決策に向けて影響を与えた内容は、滞在の5日目のエリアごとの活動の時に行ったワイキキでの取材だ。私たちのグループが取り組んでいる「カッテデミー賞」の活動は、地元で頑張っている人取材して表彰し、その情報を若者向けに発信することである。その活動とハワイでの活動をどのように結び付けるか考えた結果、「カッテデミー賞海外編」としてハワイで働く日本人と現地の人に取材を行った。残念ながら、表彰することは難しかったが、話を聞きフリーペーパーにのせるため情報を集めることができた。

この活動を思いついた当初は、アポイントメントなしでの突撃取材がうまくいくかどうか心配であった。そのうえ、働いている日本人が本当に見つかるのかという不安もあった。しかし、実際にチームの皆で分担して取材を行った結果、なんと10人以上も取材をすることができたのである。自分が思っていた以上の成果だった。改めて、チームの皆の力はすごいと感じたのと同時に、自分が卒業しても安心できると思えたできごとだった。

グローバルスクールでの学びを通じて、ここに書き尽くせないほどたくさんの成果が得られた。たとえば、外国の生徒と友達になれたこと、ハワイを含めた様々な国の文化に触れて新たな視点が増えたこと、自分の進路について考えるきっかけを手に入れたこと、英語でのコミュニケーションが少しできるようになったことなどの成果があった。グローバルスクールに参加することでしかできない学びをすることができたと思う。

今後は、オープンマインドの考え方で、ハワイで得た新しい視点を、物事を考えるときに生かしていきたい。

それから、来年のグローバルスクールにも参加し、外国の友人ともう一度会い英語で自ら積極的にコミュニケーションが図れるようにしたい。そして、このグローバルスクールで学んだことを、広島の問題を解決していくために活用したい。



# 私の成長

福山明王台高等学校 2年  
星野 萌

私は今回のハワイでの活動で「広島創生イノベーションスクールで身に付けた8つの資質・能力」のうちレジリエンスが伸びたと思う。私はハワイに行く前から、英語に関してとても不安で、少し後ろ向きな考えを持っていた。というのも、もともと英語が苦手なことで、私自身、人見知りの部分があったからだ。実際、ハワイに行ってみると、英語に囲まれ周りのことを理解するのにとても苦労した。周りの日本の仲間に訊いてみると、自分より議論や発表の内容をよく理解していて少し心が折れそうになることもあった。しかし、その状況下でも塞ぎこまずに最後の方は必死に理解しようと辞書を使ったり、話し合いに参加したりしたことが、自分の中でレジリエンスが伸びたと感じる理由の一つだ。また、役割分担をして英語以外で活動に参加できる役割を請け負い、英語に囲まれた中でも「自分にできることを」と活動することを惜しまなかった。エリアスクールの活動の一つとして、ハワイで働く日本人をインタビューをした時も、長い距離を歩き日本人を探し続けるなど、粘り強く立ち向かう力を養うことが出来たのではないかなと思う。

私の所属するエリアDでは人口減少、特に若者の人口減少に重きを置いている。様々な要因のもと若者の人口流出が起きているが、私たちは地元で頑張っている人、そしてその素晴らしさを伝え、若者に地元でUターンしてもらえるように頑張っている。上記でも述べたが、今回エリアスクールの活動で、ハワイで働く日本人にインタビューをした。その中で、ハワイの特産物を売るお店の方にインタビューした。「ハワイに貢献していると感じることはありますか？」と質問したところ「特産物を売ることでハワイの文化を紹介できているところ」とおっしゃっていた。今まで地元の頑張っている人について色々調べてきたが、頑張っている人の定義は曖昧な部分があったように思う。しかし、今回のインタビューで地元やその文化を知ってもらう活動をしている人という新しい見方が加わり、頑張っている人を探す新たな指標になったのではないかなと思う。



今回のグローバルスクールは私にとっても大きな変化と成長を与えた。日本にいたままでは触れることがなかったかもしれない問題にも触れ、自身の視野が広がり、議論していくうえで見識を深めることが出来たのではないかなと思っている。そしてなにより、今までの自分を超越することが出来たということが大きな成長だ。エリアスクールでの活動の時間、私は臨時で司会・仕切り役をした。やらなければならない事をあげ、順序立てて行うことが出来た。また、活動が円滑に行えるように各役割の間で情報伝達もした。以前私がエリアスクールで司会をしたときは出来なかったことだった。英語での議論の時、最初話し合いに積極的に参加できなかった悔しさがバネになった部分もあると考えている。今回の活動を最後に3年生の先輩方は引退になる。これからは私たち2年生がエリアの活動を引っ張っていかなければならない。ハワイでの活動、先輩方が今までしてくれていたことを思い返し、来年のこの時期やりきったといえる活動にしていきたい。

## 変化

福山明王台高等学校 1年  
豊田 辰仁

私が今回のグローバルスクールを通して「広島イノベーションスクールで身に付けたい8つの資質・能力」のうち特に「コラボレーション」が伸びたと思う。まず、他者と協働するためには必ずコミュニケーションをとらないといけない。私は、少し人見知りの部分があったが、グローバルスクールでのグループワークやフィールドワークを通して自分を変えることができた。グループワークでは、目標を決めてそれに向かって話し合うことができた。話し合いは英語で行われたが、自分の知っている単語すべてを使って取り組んだ。曼荼羅を作っているときはグループのメンバーの英語についていけない時がありとても苦戦した。しかし、そんなときでも友達に教えてもらいながら、話し合いについていけるように努力した。グループのメンバーで考えた曼荼羅が完成した時、大きな達成感を感じた。フィールドワークの時は、外国人と一対一で話す機会が多くあり、ある程度の会話をすることができた。あまり英語は得意でなくても相手に伝えようとする、相手も理解しようとしてくれてとても優しく、助かった。相手も心を開いてくれていろいろな話を聞かせてくれた。同じ部屋だった外国人の話もたくさん聞いて、自分たちの話もたくさんした。グローバルスクールが終わって振り返ってみると思い出と共に自分の小さい変化に気づき、うれしかった。私は、とてもいい経験をさせていただいたと思うので、このことが無駄にならないように活かしていきたい。

私たちエリアDでは、〈地元の若者に地元の良さを伝える〉という活動をしている。エリアスクールのフィールドワークの時、私たちのグループは一人も取材できなかったが、他のグループの話聞いた時に日本人とハワイの方の違いが分かった。日本人は、人のため、地域のために活動している人が多いと思う。ハワイの方たちは自分が楽しいから活動している人が多いと思う。もちろんこれは自分の考えであって、合っているかはわからない。だがこのフィールドワークを通して、新しい視点での活動が必要かもしれないと思った。



私が今回学んだこと、成長したことはたくさんある。学んだことの中で一番実感していることは、「楽観的に考えること」だ。私は物事に対してじっくり考えてしまう。それもいいことだと思うが、他の国の人を見て、たまには少し楽観的に考えてもいいのかもしれないと思った。ハワイと日本の空気は違うので、楽観的に考えてみると新しいものが見えてくるような気がした。成長したところは、少しだけ積極性が出てきたことだ。いくら待っていても自分が主張できる時間はやってこないことが多いので、自ら発言し自ら行動することが大切なのだと分かった。これらは「わかった」「思った」で終わらせてしまっただけでは意味がないと思う。このグローバルスクールで学んだことを自分たちの活動や私生活、学校などでたくさん役立てていきたい。

# 成長するためには

福山明王台高等学校 1年

秋山 奈保

私は、ハワイでのグローバルスクールに参加したことで、「広島創生イノベーションスクールを通して身に付けたい8つの資質・能力」の中で、「レジリエンス」が特に伸びたと思う。ハワイに行く前は正直なところ、「何とかなるだろう」と軽い気持ちでいた。しかし、実際現地に着き、外国の人々との交流や話し合いになったとき「間違った英語で話してはいけない」、「英語をうまく聞き取れないかもしれない」という気持ちが強く、まわりが外国の人々との交流を深めている所をただただ見るしかできなかった。そんな日が2日続き、安易に考えていた自分を恨みつつ後悔していた私に、その時同じグループだった、ニュージーランド出身の子達と自然災害について話していた時のことだった。不意にニュージーランドの子が”Naho”といって私に意見を求めてくれた。私は自分が思っていること、解決策などを間違った英語でもいいと思いつつ、とにかく一生懸命に伝えた。すると、大いに共感してくれ、私の理解しにくい英語を一生懸命に聞き取ろうとしてくれた。この時私は、「間違えてもいいから一生懸命に話せば伝わる」ということを感じる事が出来た。確かに、時には一生懸命に伝えようとしても伝わらないこともあったが、一生懸命に話すことで相手に無関心ではないことが伝わるということが分かった。今回の経験を通して、一番大切なのは、文法を間違えず正しい英語を話そうとするのではなく、文法を間違えてもいいからコミュニケーションをとろうとする姿勢なのだと感じる事が出来た。

私たちのグループは普段「カッテデミー賞」という地元貢献しようとして頑張っている人を、勝手に表彰しようという企画で活動している。今回のフィールドワークでは、ワイキキで働いていたり、店を経営していたりする日本人を探し、取材を行った。ワイキキには日本人観光客が多いため、探すのは簡単だと思っていたが、なかなか見つからなかった。しかし、私たちはワイキキで日本料理を提供している「Tanaka of Tokyo」というお店のチーフの方にインタビューすることができた。オーナーは家族が元々ワイキキに店を出していたから自分もやってみようと思い始めたそう。「店を出してよかったことは何ですか」と聞くと「お店に来てくれた人がパフォーマンスで喜んでくれたり、料理がおいしいとってくれたりするのがとてもうれしい」とおっしゃっていた。また、「店のことを知ってもらう為どのような方法を使っていますか」と聞くと「テレビのコマーシャルで宣伝したり、雑誌、チラシをお店や公共施設などに置いてもらったりして宣伝している」と話されており、現在、私達のグループはカッテデミー賞についてのフリーペーパーを作成していることから、私たちの活動の参考にもなるなと思った。



今回のグローバルスクールでは、外国の人達と自分の国の環境問題、貧困問題、政治についてのたくさんの方の問題について意見を交流し、解決策を一緒に考えた。そこで、世界にはいろいろな人がおり、その分たくさんの方の意見を持っており、一人ひとりが理解しあうことが大切だと改めて分かった。また、自分の意見をしっかりと持ち、相手に伝えようとする姿勢、適切に伝える為の語学力も必要だ。今回の自分には、そこが欠けていた。今後、もっと語学力をつけることで、自分の意見を胸張って言えるようにしていきたい。

# ハワイで学んだこと

福山明王台高等学校 1年  
武安 真祐

私はハワイでの活動に参加したことで「広島創生イノベーションスクールを通して身に付けたい8つの資質・能力」の中で「コラボレーション」が自分の中で伸びたと思います。

ハワイに行くまではそれぞれのエリアで活動していましたが、その中で私はただ先輩方の議論を聞いていたまに賛成か反対かを述べるくらいでした。ですが、ハワイに行ってから英語で話さなければいけないということもあって、自分のアイデアを出す事の大切さを外国の生徒達から学びました。だから、私は自分の思った事を口に出す事ができ写真のようなまんだら模様もグループの人達と協力して作る事ができました。また、自分の意見を口に出す大切さが学びました。今後の活動でも先輩方の話を聞くだけではなくその意見に対して自分はどうか、それぞれの場面において考えた事を意見として出そうと思います。



私達のエリアでは、「カッテ・デミー賞」という地元で頑張っている人達を勝手に表彰して若者に興味を持たせよう！という活動を行っています。そして、今回、ハワイでも同じような活動をしてみようということで、現地で日本のお店を開いている「Tanaka of Tokyo」というお店へ取材に行きました。そのお店でも、働いている人の気持ちをしっかりインタビューできたと思うのでハワイで得られたことを日本でも生かしていこうと思います。また、私達は活動の一環として、フリーペーパーの制作も行っているので日本の地元の事だけでなく海外での活動も書くことで、読んでくれる方々は私たちのフリーペーパーに、より興味を持ってくれると思います。

ハワイでのワークショップを中心とした活動では、それぞれの国における問題や各国の独自の文化、これからの私達がとっていく行動について学ぶ事ができました。また、海外の生徒と主に平和の事について共有しました。やはり、地球環境の事や戦争の事に対してみんな考えている事は同じでした。私達だけでなく、この活動に参加していない世界中の人達もみんなこのような平和な考えを持ってほしいと思いました。そのような経験の中で、私は自分が思った事を英語で伝えるのが一番難しかったです。また、他国の生徒が英語で話していることが理解できない部分もあり、話し合いに参加できない時もありました。自分には語学力がまだ足りないと思いました。日本では海外と比べると、英語の勉強は十分ではないかもしれませんが、日本から参加した他の生徒達は英語が話せなくても、何とかして自分の言いたいことを伝えようとする姿勢を見せていました。来年のグローバルスクールで海外の生徒が広島に来た時や、エリアでの活動における日本人同士での意見の交流でも、内容が理解できなかつたり自分が伝えたい事が相手に伝わらなかつたりすることがあると思います。そのようなことがあっても、自分の考えを人に伝えようとする姿勢は必ず持つておこうとおもいます。

## グローバルスクールを通して

福山明王台高等学校 1年  
田中 葉月

私がグローバルスクールでの学びを通して「広島創生イノベーションスクールで身に付けたい8つの資質・能力」の中で一番伸びたと思う資質・能力は「オープンマインド、多様な価値観があることを理解しよりよい人間関係を構築する力」です。私は自然環境の問題について考えるグループでしたが、国によって起こる自然災害なども違うので最初は上手くグループで考えがまとまりませんでした。しかし、だれも他の国の意見に反論せず、それを理解し将来どのような世界をつくりたいか考えた時、どの国の生徒も平和な世界、自然災害によっての被害が少なくなることを願っていると分かったのでそこから考えをつなげることができ、全員で共通のテーマについて深く考えることができました。その経験を通して、価値観が違って前向きに受け入れればよい人間関係を構築することができるという事がわかりました。外国の人と話していると価値観の違い、文化の違いも多く感じますが、それも面白いと思えば自分も成長できると思います。この点は来年のグローバルスクールでも生かしていきたいと思います。

エリアスクールで設定した課題とその解決策に向けて影響を受けた内容は「地域・広島・日本・世界」です。今エリアDでは、福山、尾道の若者が地元に興味が無いという課題が出ています。しかし、ハワイでお店を出しておられる日本人に話を伺うと、ハワイのどのような点を魅力的に感じておられるかということを理解することが出来ました。たとえば、地元の方が優しいことや治安が良く安全なことは私たちの地元にも同じことが言えると思います。地域の人々が自分の地元を思いやり、環境のために活動したり治安を良くするために活動したりするなど、魅力的なことをもっと増やしていけば、若者にも興味を持ってもらえるし、他の地域の方にも福山、尾道っていいなと思ってもらえると思いました。



グローバルスクールでの学びを通じて得られた成果は、普段は触れることのできない文化に触れることができたことだと思います。スーパーの店員さんが積極的に話しかけてくれたり、信号機のない横断歩道の手前で待っているとほとんどの車が停車してくれたり日本にはないことが多くとても新鮮でした。また、日本では当たり前だと思っていたことも外国では当たり前ではなくて、改めて日本の良いところにも気付くことができました。そして、ずっと苦手だと思っていた英語も、外国の友達が伝えようとゆっくり発音してくれたので、とてもコミュニケーションがとりやすいと感じ、少しは苦手意識が消えたかと思います。しかし、外に出るとまだまだ自分の英語は通じないと感じることが多々ありました。もっと英語を理解できるようになり、来年のグローバルスクールでは外国の人ともっと深く関わりたいと思います。

## 広島と世界

福山明王台高等学校 1年  
土屋 奈槻

P4Yの活動に参加して私はたくさんの貴重な体験をする事ができました。その中で成長することも出来ました。グローバルスクールでの学びを通して「広島創生イノベーションスクールで身につけたい8つの資質・能力」のうち、私が特に伸びたと思う資質・能力は2つあります。

1つ目は地域・広島・日本・世界です。私は今まで広島を中心に戦争について考えていました。しかし、その考えは ARIZONA MEMORIAL に行ってみると変わりました。違った視点で過去を振り返る事、また相手の立場に立って考える事で見えてくる事がたくさんあると気づくことができました。また、ジミーさんのお話を聞いて亡くなった曾祖父の事を思い出しました。私の曾祖父も戦争経験者です。曾祖父は戦場に行き足を撃たれましたが生きて帰ることができました。しかし、亡くなるまで銃弾を摘出すことはありませんでした。曾祖父は生前ずっと足が痛いと言っていたそうです。銃弾は亡くなった後、火葬してからでてきました。曾祖父の娘である祖母はそれを見てようやくお父さんの足が痛いのが治ったと言っていました。相手の立場になって考える……当たり前のように難しいことかもしれません。しかし、曾祖父や祖母、ジミーさんのような戦争による被害者を無くすためにもやらなければいけないことだと思います。私は当たり前のように気づくことが出来ました。



2つ目はプロタイピングとリファインです。私は今まで他の人の意見に流されてばかりでした。しかし、海外の高校生と交流する事でまた違った文化に触れる事で自分の意見を持つ大切さを知ることができました。ただ、なかなか英語で会話する事は難しく、また私はとても人見知りの性格なのでなかなか話し合いに参加できませんでした。貴重な時間を無駄にしたのがとても悔しかったです。これからは活動の中でたくさんの話し合いや発表の場があると思います。今回のような悔しい思いをしないようにこれからは失敗を恐れず積極的に話し合いに参加していきたいです。そして、次からは自分の考えを見える化し改善し、多くの人と交流していきたいです。

エリアスクールで設定した課題とその解決策に向けて影響を与えた事はたくさんあります。ナムジさんを始めとする多くの方が支えてくださったおかげで、多くの貴重な体験をすることができました。それが今後の私たちの活動にも影響を与えたいと思います。そしてそれは私自身にも影響をあたえました。中でも私はマンダラが一番心に残っています。マンダラを作る活動を通して、自分自身について見つめ直すことが出来ました。他にも多くの方が支えてくださったおかげで現地の英語や各国の文化、自分を成長させるための話し合いの場や発表の場、たくさんの人のお話(もちろん英語ですが……)に触れることが出来ました。何度も書きますがとても貴重な経験をする事が出来ました。これはこれからの人生においてもとても大切な経験だったと思います。

グローバルスクールでの学びを通じて得られた成果は、自分の視野を広げる事ができた事です。私は変な言い方をしますが殻に閉じこもってばかりでなかなか人と交流を持とうとしない性格(つまり極度の人見知り)でした。しかし、グローバルスクールを通して、多くの人の支えがあったおかげでたくさんの人に出会い多様な文化に触れることが出来ました。そして、その中で自分の性格も少しずつですが変えていくことが出来ました。今までの自分は他の人と交流を持とうとせず、話しかけられても上手く会話出来ていませんでした。私はそんな自分の性格を変えたくて「広島創生イノベーションスクール」に参加しました。これからは失敗を恐れずに多くのことに挑戦していきたいです。そして、自分を変えていきたいです。



## セブ留学を終えて

三次高等学校 3年

原田 賢志

セブでの短期留学では、とても中身の濃い二週間を過ごすことができました。英語でのコミュニケーション能力も確実に向上したし、なによりセブの人々の価値観や文化に触れてセブのことを知り、好きになることができました。

最も印象的だったのはセブで暮らす人々の笑顔です。授業参加をした現地のサイエンス校では毎日生徒たちと爆笑する日々が続きました。私のバディは、「フィリピン人はいつもしょうもないことをして時間をつぶし、いつも笑っているんだ。それっておかしいけど幸せだよな。」と言っていて本当にその通りだなと思いました。そんな話を聞くまで、私は、予定時間をきっちり守らない、少し切れ気味で対応する店員たちの態度など、フィリピンの価値観に対して少し嫌悪感を抱いていましたが、次第に日々の生活を楽んでいる彼らの生き方に憧れるようになりまし。語学学校 Welts で働く先生方や従業員の方々はいつ見てもおしゃべりに花を咲かせていたり大声で歌を歌っていたりして、毎日繰り返される作業に辟易する姿はちっとも見えませんでした。とても素晴らしいことだなあと感じました。現場でずっとつきっきりでお世話をしてくださった、Welts の大坂さんは日本から英語も分からない状態でフィリピンにやってきたとおっしゃっていました。「日本に戻って働くつもりはありますか?」と尋ねると、「日本で働きたくはないよ。だってみんなしんどそうじゃん。夜の満員電車とか考えるだけで息が詰まりそう(笑)」と言われました。大坂さんは毎日楽しそうで、まさに私はそんな生き方に憧れました。



セブは超格差社会でした。今回初めて、格差社会というものを目にしました。次々とビルが建ち並び、アジア最大級のショッピングモールができ続ける、観光都市という一面を持つセブですが、そんな景色に目をこらしてみると、橋の下、ゴミ山、道路の植え込みに生活するホームレスの人々や、渋滞で止まる車のドアをたたきお金をせびる貧困層の人々の存在に気づきました。そんな経済格差は、サイエンス校の生徒たちにも見られました。最新の iPhone と一眼レフカメラを持つ子、画質の悪いカメラ機能のスマートフォンを持つ子、そもそも携帯電話を持っていない子など、同じ地域に住み、同じ学校に通う仲間さえこんなにも経済状況が違っていました。価値観なども自ずと変わってくると思いますが、友達としてうまくやっている彼らはすごいと思います。

ボランティア研修では孤児院を訪ねました。孤児院へ向かう前に、「子どもに、両親についての話を聞かないこと」「体に傷跡があってもそれについて何も尋ねないこと」を約束したことが印象的でした。施設では主に子供たちと遊びました。英語が話せない子、そもそもまだ言葉が発せない子もいましたが、踊ったり走り回ったりして、なんとなくわかり合うことが出来たと思います。まさに「異文化コミュニケーション」の原点を体験しましたし、その方法は万国共通であることを学びました。その施設ではなんと大学卒業生まで排出していました。大学進学なんて経済的な基盤を必要とすることも可能にする、ボランティアの行う役割の大きさに感じました。そのあとは家庭訪問を行い、一般的な家庭がどんなものであるか、賃金などの経済状況や生活で苦しいことなどを聞きました。家が、竹で作られた質素な小屋であったり、低賃金で大家族を養うしんどさを聞いて驚きました。

また、セブでは至る所に警備員がいたことが新鮮でした。語学学校の Welts、サイエンス校だけでなく、ショッピングモールにおいてもたくさん配備されていて、お店では鞆のチェックなどが行われました。これはやはりセブでの犯罪率が高いことやそういった形で人材の需要を作っているんだと思います。

また、Welts での生活は授業以外にも魅力がたくさんありました。そのひとつとして、Welts に通う人との交流があります。私には韓国人、中国人の二人のルームメイトがいました。彼らは大学生で、年下の私のことをかわいがってくれ、毎日、「このお菓子はおいしいぞ、日本の話を聞かせてよ、今日学校でさあ」とたくさんの会話をしました。狭い部屋だったので、自分のスペースを確保するために英語でなんとか交渉をしたりもしました。そんな会話でかなりの語学力向上につながったと思います。また、日本について、相手の方がアニメや関西の食べ物について詳しいこともあって、私自身日本のことをもっと知らないといけないと思いました。

学校は娯楽にあふれていて毎晩バドミントンや卓球、プールで遊びました。そうして一番仲良くなった子に、12歳の韓国人、Tony がいます。彼は12歳にして私より英語が流ちょうで、日本語も少し理解していました。日本でも小学生で英語を習いますが、何がどう違って彼がそんなに英語が出来るのか不思議でした。将来こんな教育を受けた海外の人々と協働することが求められることを考えたら、やる気が出ました。

全く違った環境の中に身を置くことで、日本、広島についてもたくさん振り返ることになりました。自分が日本に生まれて、恵まれた環境で育ってきたことに感謝すべきだと思います。そんな中浮かんできた疑問は、「私たちは豊かな生活を送っているのだろうか」というものです。「豊か」とは、・経済的に恵まれていてゆとりのあるさま。・心や態度に余裕があって、落ち着いているさま。という意味があります。確かに、私たちは経済的に恵まれていて、日々の衣食住に困りません。ですが、心や態度に余裕があるのでしょうか。私は、自分たちは社会に貢献するために少々無理をしてでも働いて、態度良く、仕事に打ち込むことが良いことだと考えています。ですが果たして、そんな生き方は幸せなののでしょうか。無理をしないで、自分の好きなことが出来るということが「豊か」ということだと思います。

私は今回の留学で、日本では味わうことの出来ないたくさんの価値観に触れることが出来ました。日本から離れてセブで働くことを選んだ大坂さんの話を聞いたり、人々のまっすぐな目で笑う顔を見て、自分は将来何がしたいのか、強く問いかける留学となったと思います。これからもこんな経験を積み重ねて、自分の世界を広げていきたいです。今回の留学にあたってお世話になった大坂さんをはじめとする Welts の職員、先生方、サイエンス校の生徒たち、事務局のかとけんさん、二週間ともに頑張った仲間感謝します!

## セブ島

安古市高等学校 2年  
木ノ内 桜子

今回の留学が私にとって初めてのフィリピン滞在でした。私達は、平日の午前中に Cebu Science High School という名門校に通い、午後は語学学校で授業を受けました。そして祝日は、アイランドホッピングに出かけたりボランティア活動をしたりショッピングモールに行きました。

そのような活動の中で、マリンスポーツやリゾート地などの観光地として栄えている一方で、少し車を走らせると貧しい生活をしているフィリピンの現状を目のあたりにし、衝撃を受けました。フィリピンは貧富の差がとても激しかったです。貧困層の地域では、お金を求めてくる子、盗みを働く子、道路で横になっている子、薬物を吸っている子、などを見かけることも多々ありました。本当に心が痛かったです。家もほとんどが、竹や木で作ってあり隙間だらけな上、土台も安定していなく、いつ壊れてもおかしくない状態でした。一人部屋もなければベットもない、あるのはワンルームだけでした。プライバシーなんてありません。シャワーがあるかと思いきや、そこにあるのは蛇口とバケツだけでした。フィリピンは水資源が足りないため、シャワーを使えない家庭もあり雨で体を洗う家庭もあると聞きました。実際私たちも水の件に関しては体感することができました。寮で突然シャワーが止まったり、小雨ほどの水圧だったり、トイレの水は自分でバケツに水を汲んでから流すとか、本当に驚かされるようなことばかりでした。生活がこのような中で食事はどうなのかという、それもまた衝撃でした。寮の食事でさえハエがたかっけていて、私たちがこれから口にする食べ物にとまっているのです。



そんな中、自分よりも過酷な状況で数多くの悩みを抱えているにも関わらず「笑顔」でいるその姿に勇気ももらいました。フィリピンの子供たちの笑顔はとても真っ直ぐで、毎日彼らと笑う日々はほんとに楽しかったです。決して毎日ご飯を食べられるわけでもなく、苦しい生活をしているのにいつも笑顔です。素直で純粋で、生き生きと輝いています。つらい素振りなんか少しも見せません。その姿にとっても感動しました。

そして、長期間にわたって母国を離れるからこそ分かる日本の魅力、また他国から日本はどのように見られているのかなどと言ったことも知ることができました。毎日美味しいご飯が食べられること、週末に家族と友達と遊びに行けること、学校で授業を受けられること、…当たり前だと思っていたことが他国では当たり前ではない。生まれた場所が違うだけでこんなにも生活が異なるなんて、世界は平等ではないと思いました。そして今の生活がどれだけ恵まれているのかを強く実感しました。さりげないことから文化の違いを感じたり、日本にはない他国ならではの魅力的な習慣がありました。

座学では学ぶことのできない、生きた英語を体験することで、英語でのコミュニケーションに苦痛を感じました。そんな中フィリピンの人はつたない私の英語でも理解しようとしてくれて、仲良く接してくれました。帰国後も毎日 SNS を通じて連絡を取り合っています。もっと色々な会話ができるように、さらに英語力を磨きたいです。留学を終えたという大きなことを成し遂げたように聞こえがちだけど、私は今回の留学がスタートだと思っています。留学で得た経験や知識を生かして、進路を考えたり、様々なことに挑戦していこうと思います。また一人でも多くの人に見たこと、感じた事、体験したこと、思ったことを伝えたいです。

私たちのエリアスクールの課題である都市と田舎の差は、フィリピンでいう裕福層と貧困層のようなものであるのかなと思いました。もしかしたら何かしらの共通点があるのかもしれないので、今後の活動の中で視野に入れて考えていきたいです。

## セブ島での生活

安古市高等学校 2年  
林 菜々子

8月6日から8月20日までセブ島へ行ってきた。セブ島では、午前中は現地のセブサイエンスハイスクールに通い、音楽と体育とドラマの3つのクラスがあった。音楽ではウクレレを教えてもらい、体育ではダンスとバレエをした。ダンスは最後の発表会で披露した。民族衣装をきることができるととても嬉しかった。ドラマではみんなで一つの劇をつくりあげた。とてもいい作品に仕上がった。

私がこれらの活動をするときバディがいつもサポートしてくれた。バディの存在はとても大きかった。他の生徒もいつも素直でまっすぐな笑顔でたくさんのことを教えてくれた。彼らは本当に明るくて活発で、いつも元気をもらっていた。本当に楽しい学校生活を送ることができた。今でも SNS で毎日コミュニケーションをとっている。英語の力向上にもつながるいい機会だから、この関係を長く続けていきたいと思う。



セブサイエンスハイスクールに行くまでの道で様々なセブの現状を車の中から毎日見た。路上で小さな子供たちがぶかぶかでぼろぼろの服を着て遊んでいる、信号でとまっている車に対して「お金をください」と言いながら回っている人々、路上で寝る家族、あらゆるところにあるごみの山、スラム街のようなぼろぼろな家が集まっているところ、ごみの山をあさる子供など日本ではあまり見ない光景が多々あった。インターネットや授業で、発展途上国は貧富の差が激しいと習っていて覚悟していたつもりだったが、それらの光景にひどくショックを受けた。そして救うために私たちになにができるのかを考えた。家庭訪問をさせていただいたとき、正直私はその訪問した家はフィリピンの中でも貧しい方だと思っていたのだが、これがフィリピンの一般家庭であり、この家はいい方だという説明を聞いたときとても驚いた。日本との差を大きく感じ、私がどれだけ恵まれた環境にあるかを強く実感した。いろいろなことを考えさせられた。

午後は語学学校 Welts で授業を受けた。Welts での授業は本当に楽しかった。受動的な授業は全くなく常に生徒が行動したり発言したりする授業は新鮮でありとても興味深いものだった。もっと英語を学びたいと心から思えた。学校の英語の授業よりずっと自由で、ノートもほとんどとっていないのに、学校の授業よりも自分に身についていると感じた。授業以外でも Welts 内で異国の友達ができ、Welts での生活は絶対に忘れられないくらい本当に楽しいものだった。

セブでの研修と feel できている活動のつながりをいま言葉にすることは難しい。でも必ずなにかがつながっているから活動しているうちに気づく瞬間があると思う。

これからの私の人生において大切な経験をする事ができた。セブの研修に参加して本当に良かったと心から思っている。

# セブ島留学

安古市高等学校 1年  
丸口 桃夏

今回のハワイでの研修とセブ島留学は私にとって初めての海外でした。ハワイではその国の良い面を見る機会が多かったですが、セブ島ではその逆の面を見る機会が多くありました。まず、衛生環境についてです。私達が宿泊した語学学校 Welts で1日を過ごした時、とにかく帰りたいという気持ちが強くありました。トイレットペーパーは流すことができないうえに、大量のハエがご飯の近くを飛んでいたりして、日本とは環境が全く違い、初めはそのことを理解することに苦しみました。しかし、それが現地では普通と聞き、衝撃を受けました。そして、今まで私が、家でわがままを言っていることを恥ずかしく思い、その現実を受け入れていけるようになりました。



2日目からは現地の Cebu City National Science High School という進学校へ通いました。そこへ通う道中、たくさんの目を疑う光景がありました。ゴミを漁っている子どもたちや、着る服がない大人の方、口元をハンカチで覆ってバイクに乗っている人などがいらっしゃいました。さらに、道の片方は発展してたくさん的高層ビルが並んでいるのに対し、一方は、スラム街というような場所もありました。それは、私達のエリアスクールの課題である、都会と田舎の差に似ているなど感じました。その光景を見た時には共通点を見つけることができなかつたので、活動をしていく中でここが共通している！ということに気がついていけるような気がします。苦しい生活をしている方々も、辛いということを顔には出さず、常に笑顔を保っていました。しばらくすると、学校に着き、体育館では現地校の生徒たちがセレモニーを開いてくれました。そこでもやはりみんな笑顔で、心の底から笑っているような本当に素敵な笑顔でした。学校生活では、彼女たちの笑顔につられ、自然と私達も笑顔になっていました。どこへ行っても現地の方たちは笑顔で、本当に素敵な国だなと思いました。彼女たちは教えてくれました。「大変なことや、辛いことがあっても、泣いたらダメだよ。泣いたら幸せも逃げてしまうよ。」と。私は、その言葉がとても心に響きました。帰りたいと思った時は、その言葉を信じて笑顔でいることを心がけました。すると、自然と安心したり、周りのみんなが笑顔になっていることに気がつくことができました。そのことはこの留学の成果の一つだと思います。

そして、私にとっての大きな成果は英語力の向上です。セブ島にはタガログ語や、ビサヤ語などの母語があります。ですが、彼女たちはまるで母語のように英語を流暢に話していました。そのため、初めは早口でほとんど英語が聞き取れない状態でした。しかし、彼女たちと会話をしていく中で、少しでも私自身の英語力が上がったと実感できる場面が何度かありました。それは、彼女たちとジョークを言い合うことができるようになったことです。初めは、ジョークを言われても、英語が早く聞き取れずに何回も聞き返してしまいました。しかし、最終日が近づくにつれて、ジョークを言われても言い返して楽しむことができるようになりました。そこが今回のセブ島留学で得た大きな成果でした。今回初めての海外で、辛い、悔しい、帰りたいと思うことが何度もありました。でも、最後には泣いて別れを惜しむほどセブ島、現地の生徒たちが大好きになりました。この素晴らしい機会を与えてくれた、両親、広島県教育委員会の方々、Welts でサポートして下さった皆さん、Cebu City National Science High School の先生、生徒のみんなに感謝をして、自分に今何が出来るかをよく考え、大人になったときには社会に貢献したいです。

## セブと日本の文化の違い

尾道北高等学校 2年  
旗手 有菜

私は、今回のセブ島留学で一番印象に残ったのがセブ島の文化、そして貧富の差でした。初めてセブの街を車で移動したセブの街並みを見て本当に驚きました。道路に車線はないし、お店の看板は崩れたり破れたりしているし、なんといっても、ゴミ山を見た時と、そこに貧しい人々が食料とお金を稼ぐためにあさっている光景、そして、ストリートチルドレンがデパートや店の路地などに寝ている光景は衝撃的でした。日本では滅多に見ることができない、「貧困」の現状でした。私が通った学校は比較的富裕層が多く、日本と変わらないような感じだったのですが、土曜日に行った、フィリピンの一般的な家は私が思っていたよりも衛生環境が悪く、家が狭く、とても暑く、暗いという日本人にしてみれば最悪な状況でした。その家では母親一人で子供3人と祖母を育てねばならず、一日の給料は約300ペソ(750円)で、食べ物しか買えないような状況でした。そんな現状を目の当たりにして、私は可哀そうだ、なんとか救ってあげたいと思いました。



私が今回のセブ留学プログラムに参加して「広島創生イノベーションスクールで身に付けたい8つの資質・能力」のうち伸びたと思うものは、「世の中の諸問題について理解し、取り組むべき課題を設定する力」です。セブで問題になっている貧富の差を、なぜそうなったのか、いつからそうなのかなどいろいろな視点から見つめ、ボランティアなど解決方法を考えました。ボランティアといっても、ただ資金や食べ物、衣服をあげるのではなく、どうしたらよい職に就けるか、給料をのぼせるか、食物がたくさん取れるか、などの教育を行い、それをみんなに伝えていく必要があると考えました。

また、私たちは Welts (World English Language Training School) と CCNSHS (Cebu City National Science High School) に平日の間通いました。Welts では英語のスピーキングの練習をし、英語での疑問文の答え方や熟語を覚えたり、日常会話を行って英語力を高めることができました。また、CCNSHS では、その生徒さんとバディを組み、そこで実際に行われている授業に参加しました。1時限目が体育、2時間目が劇、3時間目が音楽です。バディや生徒さんと一緒にダンスを踊ったり、劇で演じたり、ウクレレの練習をしてみて、普段する会話をして相手の文化について知ることができるのがとても面白く、興味深いものでした。生徒さんが話す英語はとても早く、聞き取ることが難しいことも何度もありましたが、「相手のことを知りたい」という強い意志を持っていれば案外上手くいくことがわかりました。学校最後の日、お別れが寂しくバディの子が泣いていて、自分ももらい泣きしてしまいました。それほどそこで過ごした2週間がかけがえのないものだったのだと思います。本当に行ってよかったです。

最後にお世話をしてくださった Welts の大坂さん夫婦、ヒロさん、事務局のかとけんさん、本当にありがとうございました。10人の仲間とともにセブに行くことができ、本当に最高でした！